

投資信託に関するアンケート調査 報告書

2021年3月

<目 次>

1. 調査計画の概要	3
2. 調査結果の要約	6
3. 回答者のプロフィール	17
(1)性別・年代〔Q30〕〔Q31〕	18
(2)職業〔Q32〕	20
(3)金融資産の保有経験〔Q1〕	22
(4)投資信託の保有状況〔Q2〕	23
(5)世帯年収〔Q33①〕	25
(6)個人年収〔Q33②〕	27
(7)保有金融資産額〔Q34〕	28
4. 投資信託保有状況（現在保有層）	30
(1)投資信託の保有口座〔Q3〕	31
(2)投資信託の保有種類〔Q6〕	33
(3)投資信託の購入額〔Q7〕	34
(4)現在保有している投資信託の本数〔Q4〕	35
(5)投資信託商品の直近購入時期〔Q5〕	36
(6)投資信託の積立投資の利用状況〔Q18〕	37
(7)毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20〕	39

<目 次>

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）	44
(1)投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8〕	45
(2)投資信託の購入目的〔Q9〕	47
(3)投資信託購入時参考情報〔Q11〕	49
(4)投資信託購入の際の重視点／今後の重視点〔Q10①②〕	51
(5)分配金の特徴認知状況〔Q13〕	55
(6)償還・売却資金の流出先〔Q14〕	57
(7)投資信託の優れていると感じる点／特に魅力を感じる点〔Q15①②〕	59
(8)投資信託で不満を感じる点／特に不満を感じる点〔Q16①②〕	63
(9)トータルリターンの把握状況〔Q24〕	67
6. 投資信託保有未経験者の状況	69
(1)投資信託の非購入理由〔Q26〕	70
(2)投資信託購入検討のきっかけ〔Q27〕	72
7. 投資信託全般に関する状況（全体）	74
(1)投資信託の商品特徴認知状況〔Q12〕	75
(2)毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21〕	78
(3)毎月分配型投資信託商品の魅力点〔Q22〕	80
(4)毎月分配型投資信託商品の非魅力点〔Q23〕	82
(5)積立投資プランの内容認知〔Q19〕	84
(6)投資信託運用会社の重視点〔Q17〕	85
(7)投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25〕	87
8. 投資意識に関する状況（全体）	89
(1)書面情報の投資行動への影響に対する意識〔Q28〕	90
(2)ESG・SDGs関連への投資意向〔Q29〕	92

* 末尾添付資料：調査票

1. 調査計画の概要



1. 調査計画の概要

調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。																																																																																			
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：NRCネットワークパネル） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。 また、2019年よりパネルが変更となったため、2018年のデータ傾向と異なる箇所があります。																																																																																			
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）																																																																																			
調査対象	20～79歳の男女																																																																																			
サンプル数	<p>総計20,000サンプル</p> <ul style="list-style-type: none"> * 性・年代・エリアで割付実施（割付は平成31年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。 * 職業条件による除外は実施していない。 <p><性・年代・エリアごとの回収数詳細></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>20-29歳</th> <th>30-39歳</th> <th>40-49歳</th> <th>50-59歳</th> <th>60-69歳</th> <th>70-79歳</th> <th>20-79歳計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">男性</td> <td>首都圏</td> <td>417</td> <td>505</td> <td>646</td> <td>529</td> <td>451</td> <td>407</td> <td>2,955</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>217</td> <td>294</td> <td>243</td> <td>233</td> <td>223</td> <td>1,402</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>721</td> <td>872</td> <td>1,105</td> <td>954</td> <td>1,071</td> <td>870</td> <td>5,593</td> </tr> <tr> <td>男性計</td> <td>1,330</td> <td>1,594</td> <td>2,045</td> <td>1,726</td> <td>1,755</td> <td>1,500</td> <td>9,950</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">女性</td> <td>首都圏</td> <td>401</td> <td>474</td> <td>604</td> <td>487</td> <td>455</td> <td>472</td> <td>2,893</td> </tr> <tr> <td>阪神圏</td> <td>192</td> <td>220</td> <td>299</td> <td>250</td> <td>252</td> <td>267</td> <td>1,480</td> </tr> <tr> <td>その他地域</td> <td>674</td> <td>831</td> <td>1,066</td> <td>963</td> <td>1,119</td> <td>1,024</td> <td>5,677</td> </tr> <tr> <td>女性計</td> <td>1,267</td> <td>1,525</td> <td>1,969</td> <td>1,700</td> <td>1,826</td> <td>1,763</td> <td>10,050</td> </tr> <tr> <td>TOTAL</td> <td>2,597</td> <td>3,119</td> <td>4,014</td> <td>3,426</td> <td>3,581</td> <td>3,263</td> <td>20,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。 首都圏：東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,848サンプル 阪神圏：大阪、京都、兵庫、奈良／計2,882サンプル その他地域：上記以外の都道府県／計11,270サンプル</p>			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計	男性	首都圏	417	505	646	529	451	407	2,955	阪神圏	192	217	294	243	233	223	1,402	その他地域	721	872	1,105	954	1,071	870	5,593	男性計	1,330	1,594	2,045	1,726	1,755	1,500	9,950	女性	首都圏	401	474	604	487	455	472	2,893	阪神圏	192	220	299	250	252	267	1,480	その他地域	674	831	1,066	963	1,119	1,024	5,677	女性計	1,267	1,525	1,969	1,700	1,826	1,763	10,050	TOTAL	2,597	3,119	4,014	3,426	3,581	3,263	20,000
		20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計																																																																												
男性	首都圏	417	505	646	529	451	407	2,955																																																																												
	阪神圏	192	217	294	243	233	223	1,402																																																																												
	その他地域	721	872	1,105	954	1,071	870	5,593																																																																												
	男性計	1,330	1,594	2,045	1,726	1,755	1,500	9,950																																																																												
女性	首都圏	401	474	604	487	455	472	2,893																																																																												
	阪神圏	192	220	299	250	252	267	1,480																																																																												
	その他地域	674	831	1,066	963	1,119	1,024	5,677																																																																												
	女性計	1,267	1,525	1,969	1,700	1,826	1,763	10,050																																																																												
TOTAL	2,597	3,119	4,014	3,426	3,581	3,263	20,000																																																																													
調査時期	2020年11月10日（火）～ 11月16日（月）																																																																																			
調査主体	一般社団法人 投資信託協会																																																																																			
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター																																																																																			

1. 調査計画の概要

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考	
基本軸1	性別	1 男性	Q30の調査結果から作成	
		2 女性		
	年代別	1 20代	Q31の調査結果から作成	
		2 30代		
		3 40代		
		4 50代		
		5 60代		
		6 70代		
	世帯年収別	1 100万円未満	Q33①の調査結果から作成	
		2 ~300万円		
		3 ~500万円		
		4 ~1000万円		
		5 ~1000万円以上		
	基本軸2	投資信託 保有状況別	1 現在保有層	Q2で投資信託を「1.現在保有している」回答者
			2 保有経験層（現在非保有）	Q2で投資信託を「2.以前保有していたが、現在は保有していない」回答者
3 保有未経験層（金融資産保有経験有）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「1.保有したことがある」回答者	
4 保有未経験層（金融資産保有経験無）			Q2で投資信託を「3.今まで保有したことはない」且つ Q1で金融資産を「2.保有したことはない」回答者	
基本軸2	投資信託 現在保有種類別	1 株式投資信託保有層	Q6現在保有投資信託商品で「1.国内株式に投資する投資信託」か「3.外国株式に投資する投資信託」の回答者	
		2 その他投資信託保有層	Q6現在保有投資信託商品で「2.国内債券に投資する投資信託」、「4.外国債券（国債、ハイールド債等）に投資する投資信託」から「9.不動産投信（J-リート）」までのいずれかの回答者 ※但し、上記の「株式投資信託保有層」は除く	

2. 調査結果の要約



2. 調査結果の要約

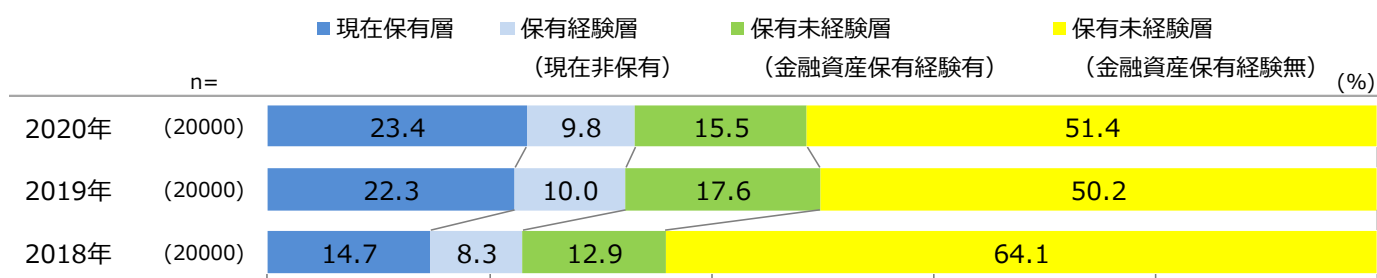
投資信託の保有経験／投資信託現在保有層の「保有種類」

■ 投資信託の現在保有率は23.4%。

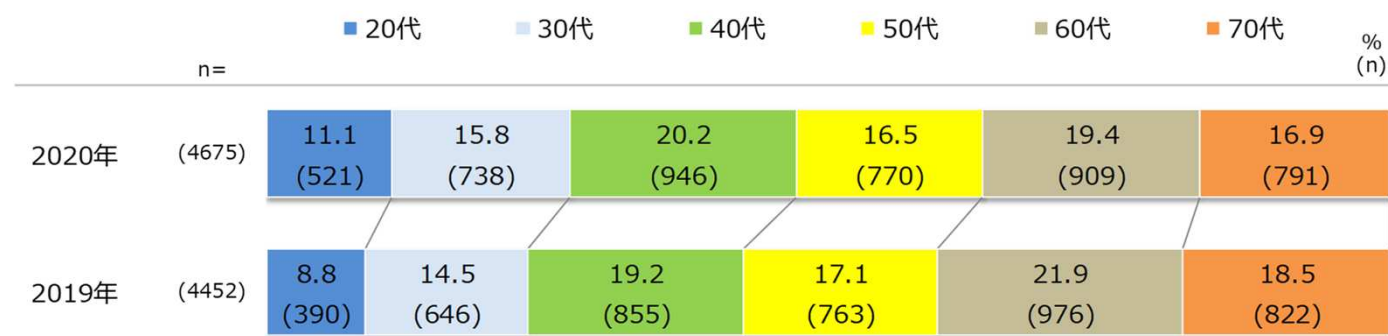
現在保有層は40代が20.2%で最も高く、次いで60代（19.4%）が続く。

現在保有層の年代構成比は、20代が若干増加。依然、高齢層が中心だが、最も比率が高い年代は40代となっている。

＜投資信託の保有経験＞【ベース：TOTAL】(P.18)



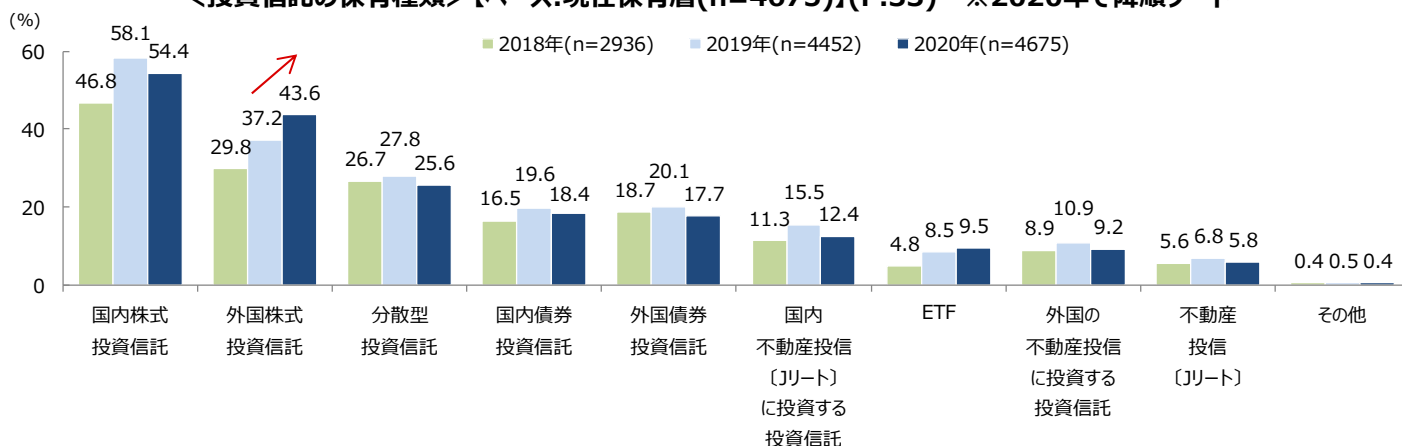
＜投資信託現在保有層の年代構成＞【ベース：現在保有層(n=4675)】(P.24)



■ 現在保有層が保有している投信の種類は「国内株式投信」が最多。

保有種類数は平均で「2.17種類」となる。前回と比べて「外国株式投資信託」が増加。

＜投資信託の保有種類＞【ベース：現在保有層(n=4675)】(P.33) ※2020年で降順ソート



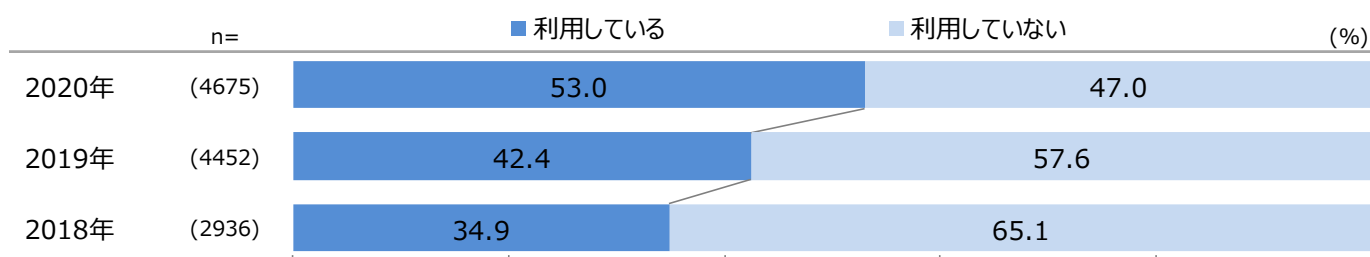
2. 調査結果の要約

投資信託現在保有層の「積立投資」利用状況、「毎月分配型投資信託」の保有状況

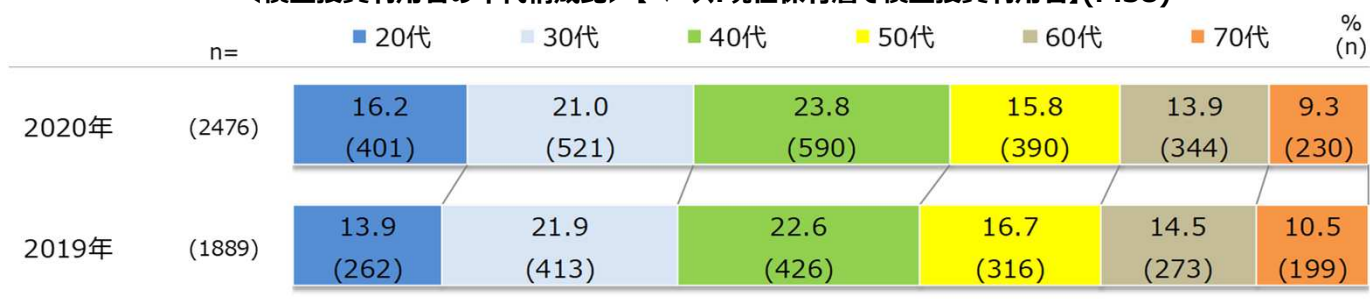
- 積立投資の利用率は53.0%で、前回より10.6%増加している。
毎月分配型投資信託は39.0%が保有している。

- ・ 積立投資は若年層ほど利用が多く、特に20・30代は70%以上と高い。
一方、毎月分配型商品は、40代以上から年代が上がるにつれ保有率が増加する傾向。〔P37,39〕

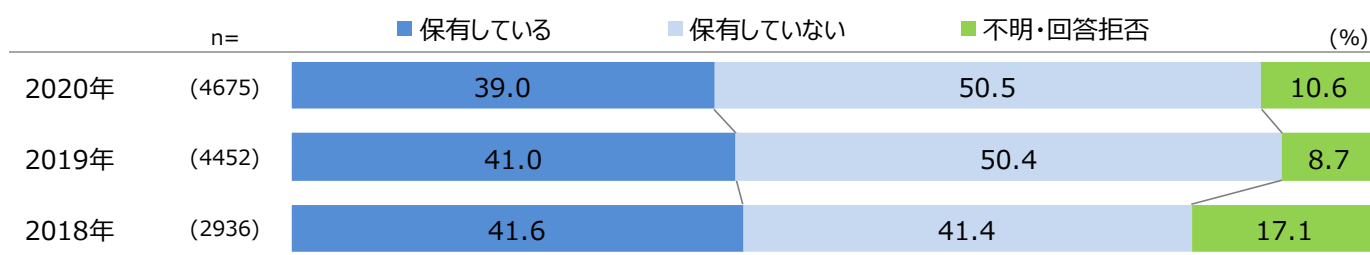
＜積立投資の利用有無＞【ベース:現在保有層】(P.37)



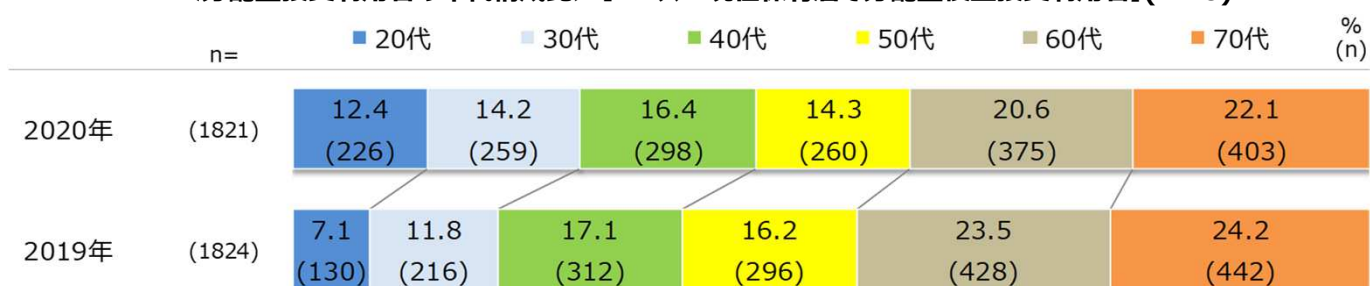
＜積立投資利用者の年代構成比＞【ベース:現在保有層で積立投資利用者】(P.38)



＜毎月分配型投資信託の保有状況＞【ベース:現在保有層】(P.39)



＜分配型投資利用者の年代構成比＞【ベース:現在保有層で分配型積立投資利用者】(P.40)



2. 調査結果の要約

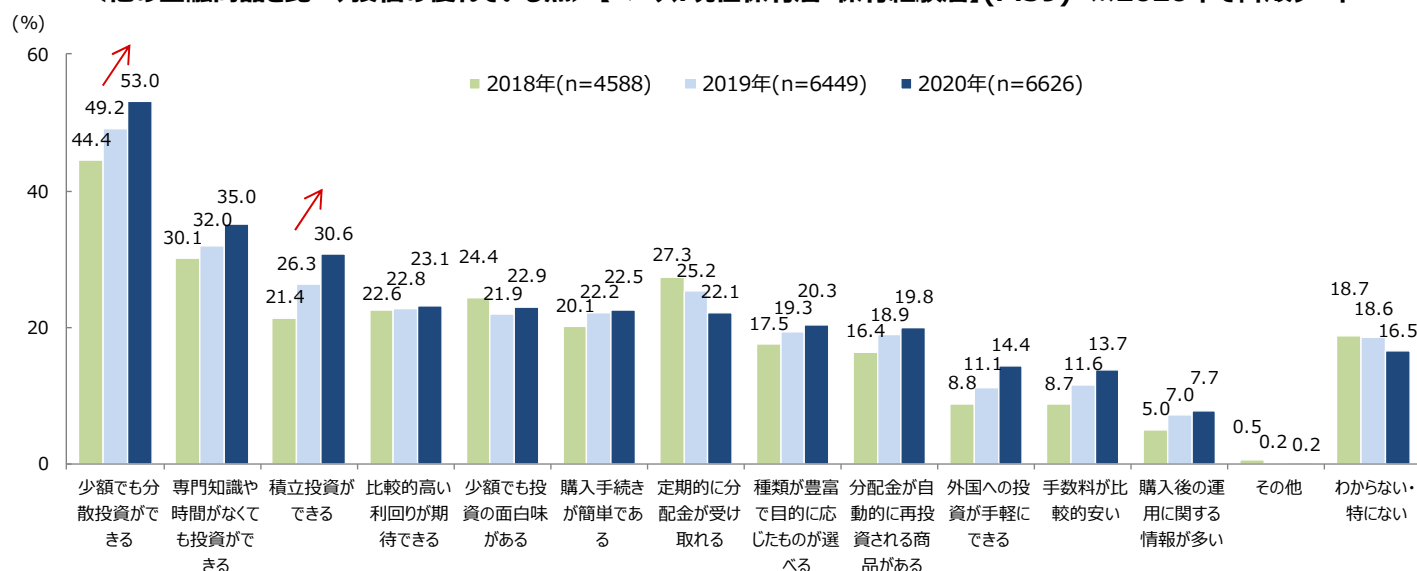
他の金融商品に比べて投資信託商品の「優れている点、不満点」

■ 投資信託の優れている点は前回同様、「少額でも分散投資できる」「専門知識や時間がなくても投資できる」が上位。一方、「仕組み・運用手法がわかりにくい」「手数料が比較的高い」「元本保証がない」ことへの不満が強い。

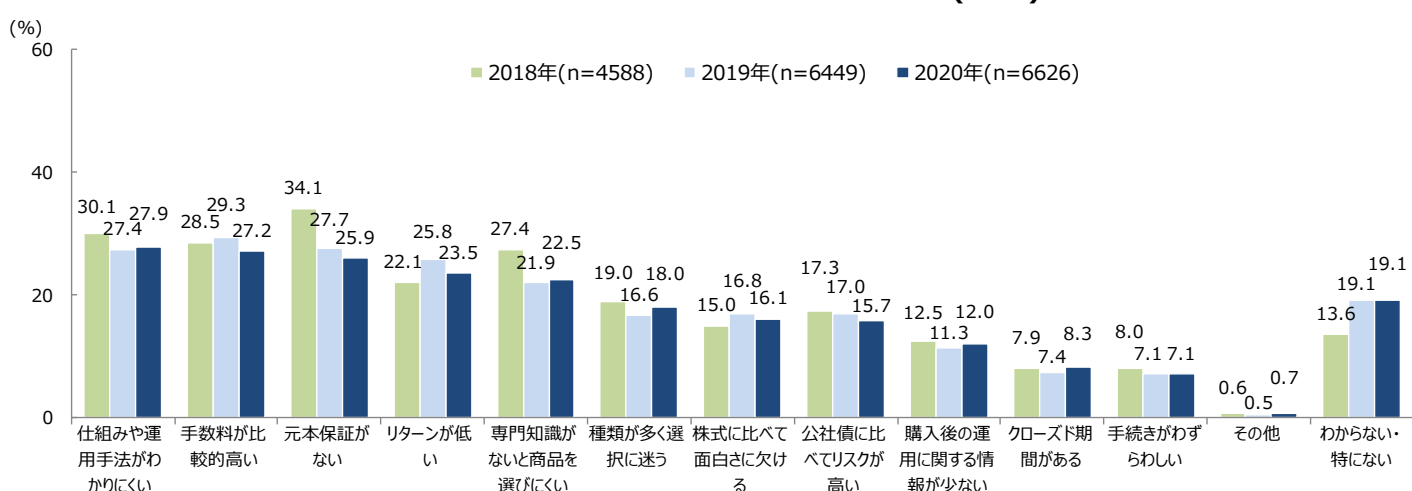
■ 前回からの変動をみると、優れている点は「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」がやや増加。

- ・ 優れている点では、若年層ほど「少額でも分散投資できる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「手数料が比較的安い」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金を受け取れる」が高くなる。〔P59〕

<他の金融商品と比べ、投信の優れている点>【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.59) ※2020年で降順ソート



<他の金融商品と比べ、投信の不満点>【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.63) ※2020年で降順ソート

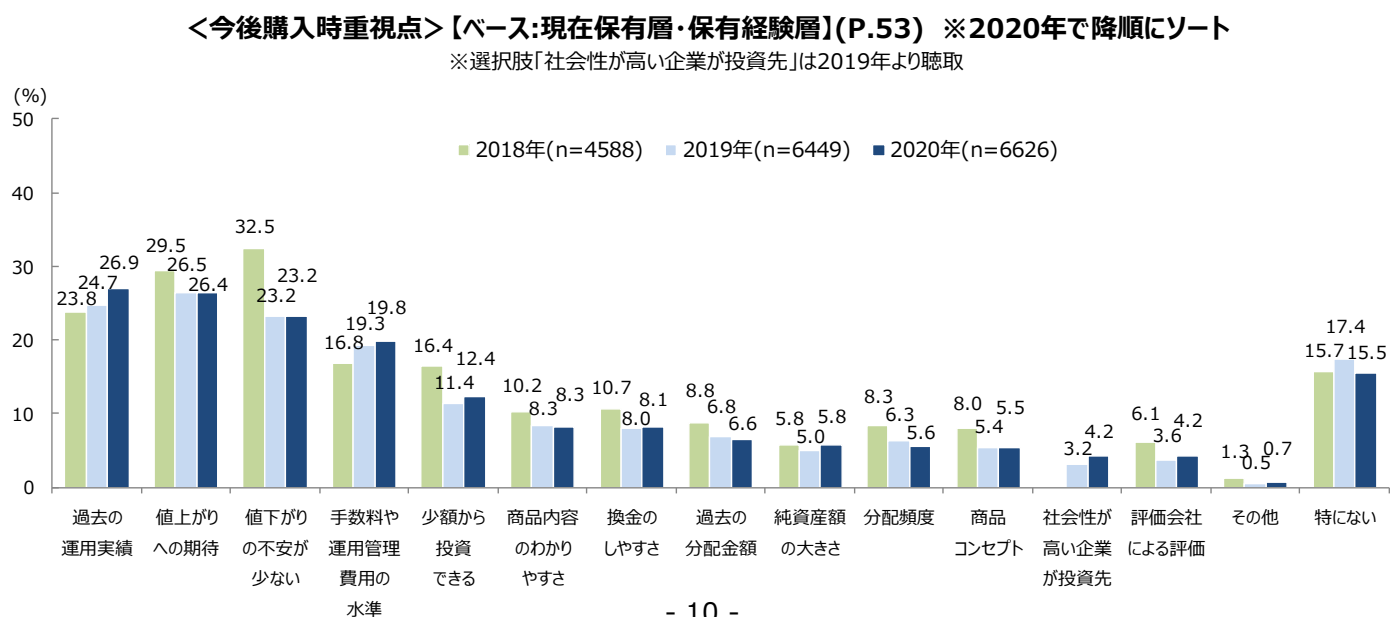
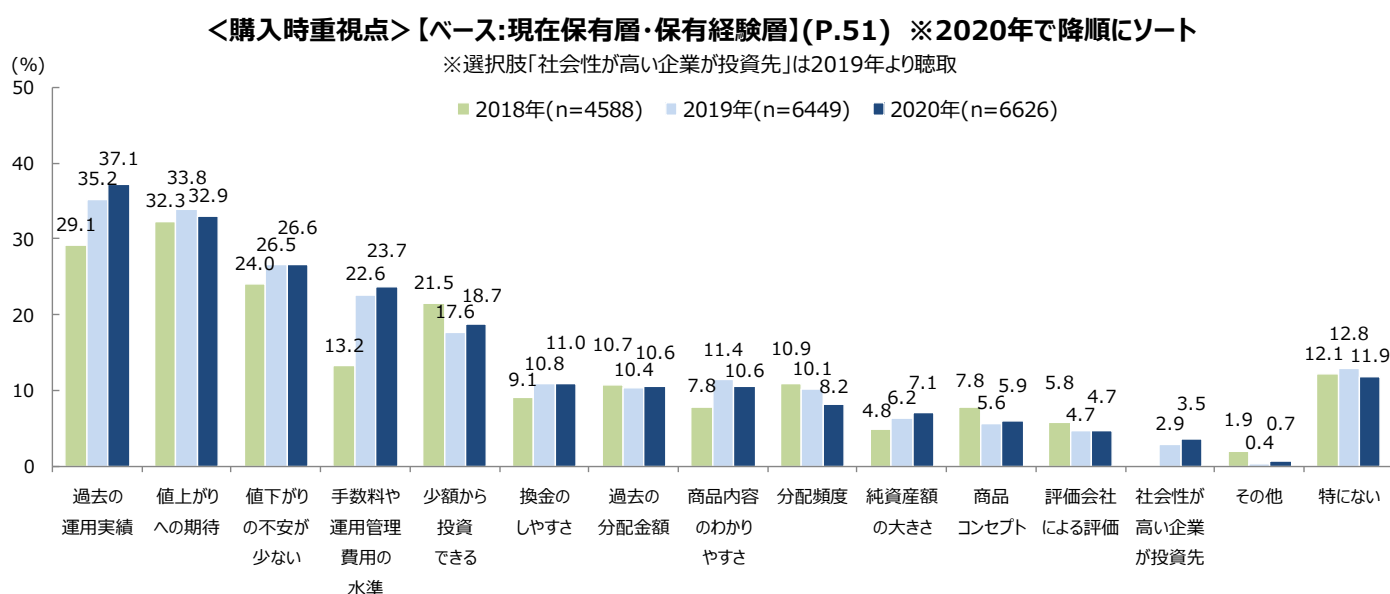


2. 調査結果の要約

投資信託の購入時重視点、今後購入時重視点

■投資信託の購入時重視点は、「過去の運用実績」「値上がりへの期待」「値下がりの不安が少ない」が上位。今後購入時も「過去の運用実績」「値上がりへの期待」「値下がりの不安が少ない」が上位。

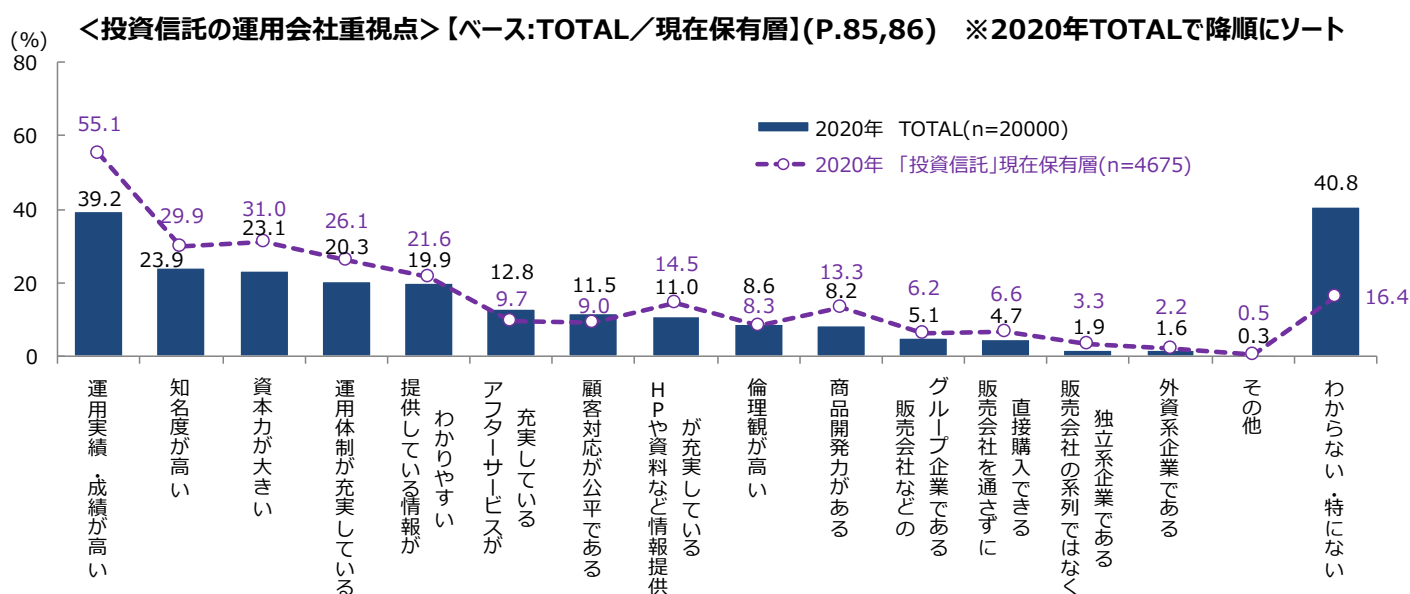
- ・「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」は若年層ほど重視する様子。〔P51,53〕



2. 調査結果の要約

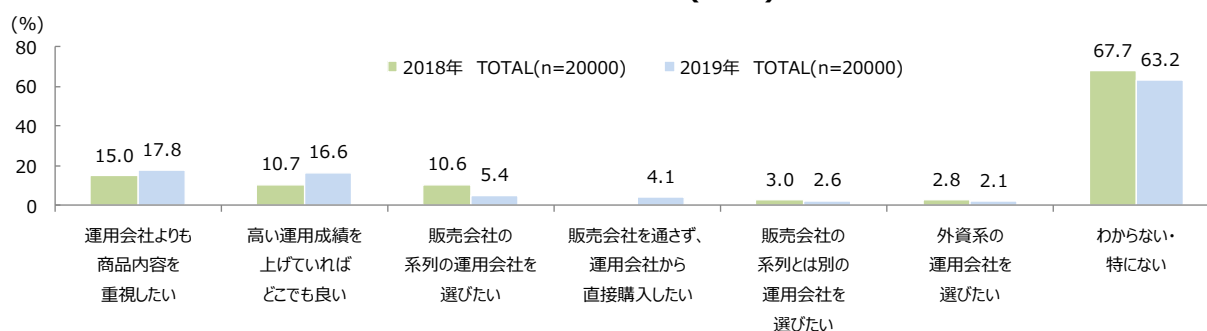
投資信託運用会社重視点

■ 投資信託の運用会社選択は、「運用実績・成績が高い」「知名度が高い」「資本力が大きい」が上位。金融コンピテンシーに関する項目では「顧客対応が公平である」は11.5%、「倫理観が高い」は8.6%となった。

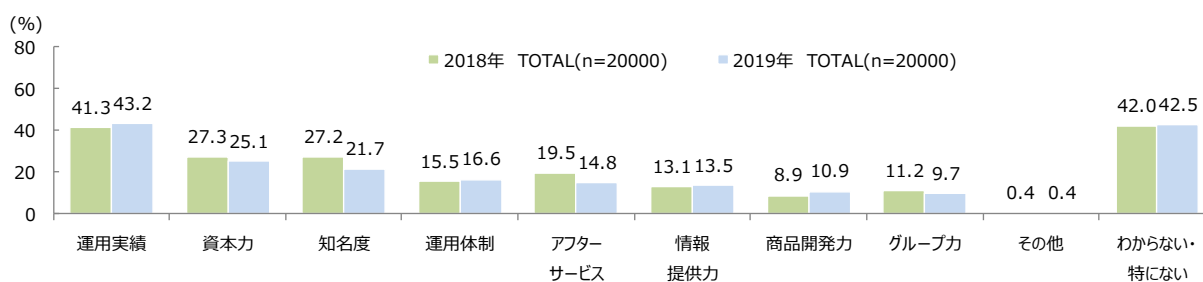


参考：前回までの質問

＜投資信託の運用会社に対する考え＞【ベース:TOTAL】(P.85) ※2019年TOTALで降順にソート



＜投資信託購入の際の運用会社重視点＞【ベース:TOTAL】(P.85) ※2019年TOTALで降順にソート



2. 調査結果の要約

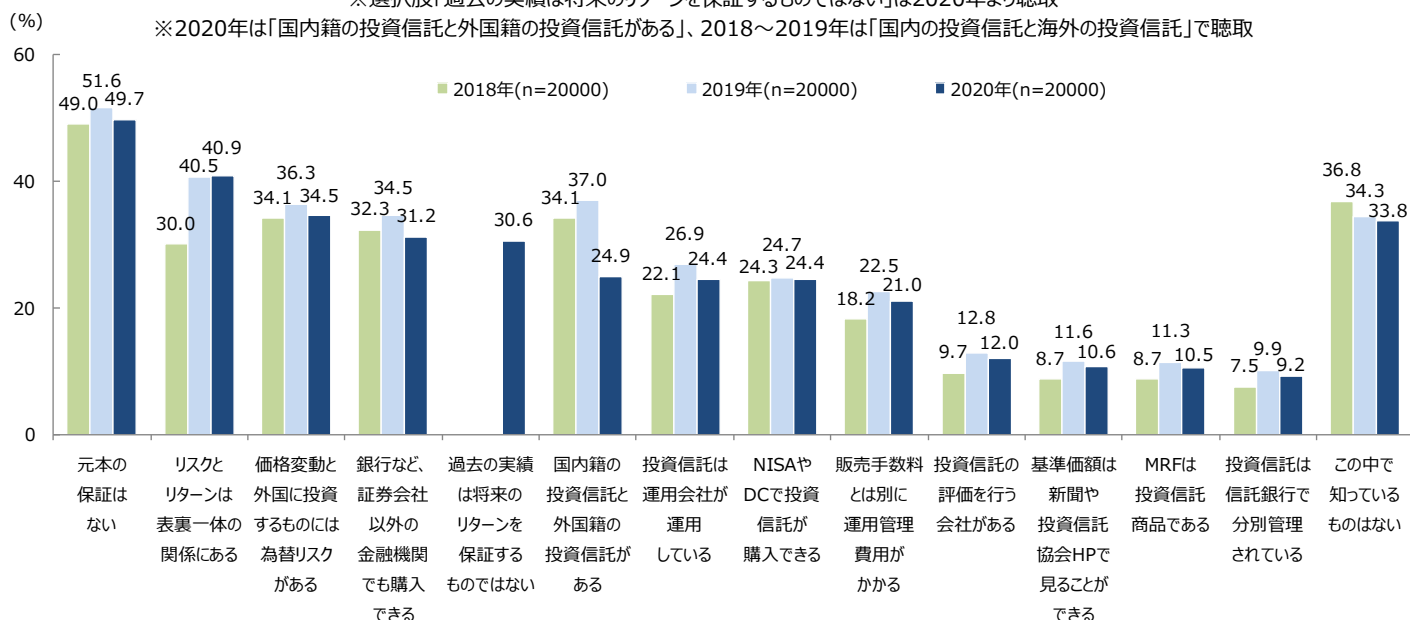
投資信託の商品および手数料特徴の認知状況

- 投信商品の特征認知は、「元本の保証はない」「リスクとリターンは表裏一体の関係」が上位で、前回と同じ順位になっている。
- 投信のコスト認知では、「購入時手数料がかかる」が最も高く、「購入時手数料は販売会社に支払われる」「販売会社により購入時手数料が異なる場合がある」「保有中、運用管理費用がかかる」「購入時手数料がかからない投信がある」が上位で、前回と同じ順位になっている。

＜投資信託の特徴認知＞【ベース:TOTAL】(P.75) ※2020年で降順ソート

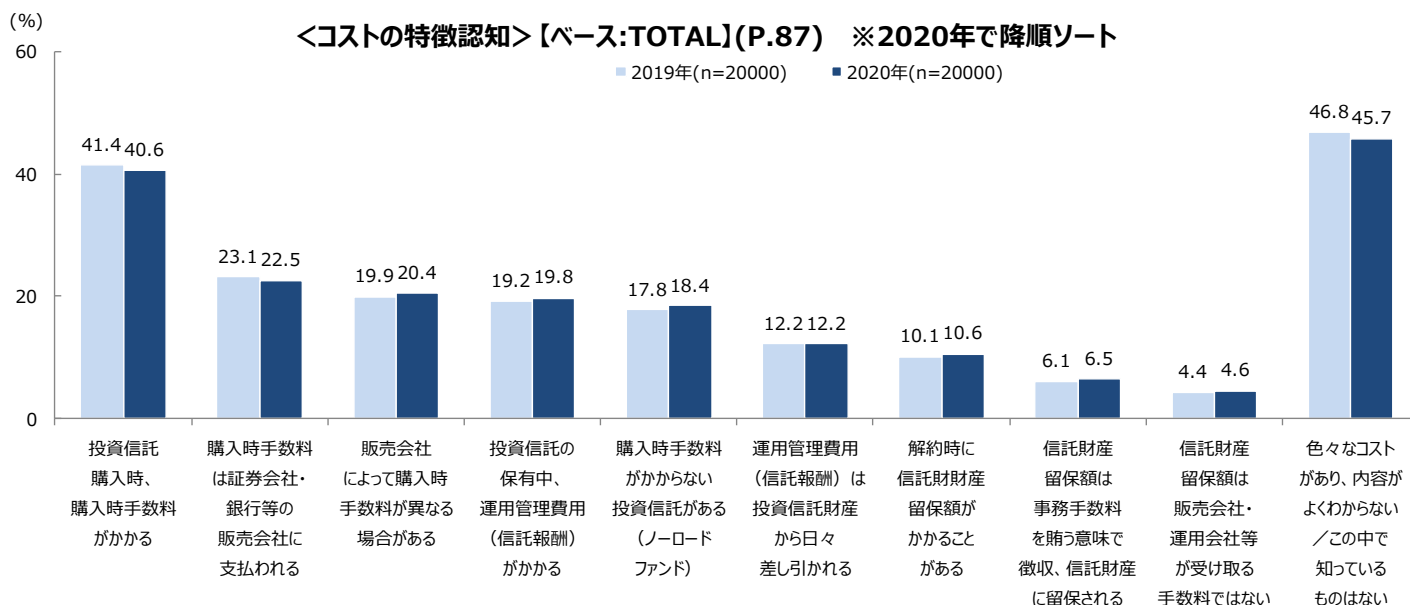
※選択肢「過去の実績は将来のリターンを保証するものではない」は2020年より聴取

※2020年は「国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある」、2018～2019年は「国内の投資信託と海外の投資信託」で聴取



＜コストの特徴認知＞【ベース:TOTAL】(P.87) ※2020年で降順ソート

2019年(n=20000) 2020年(n=20000)



2. 調査結果の要約

投資信託の興味・関心・購入のきっかけ／投資信託購入時参考情報

■ 投信の興味・関心・購入のきっかけは「金融機関の人に勧められて」が突出し、「インターネットで見たり調べたりして」が続く。前回に比べて前者が減少、後者は増加。また投信の購入時参考情報は「販売用資料」「目論見書・運用報告書」「投資信託を販売している会社のHP」が上位。

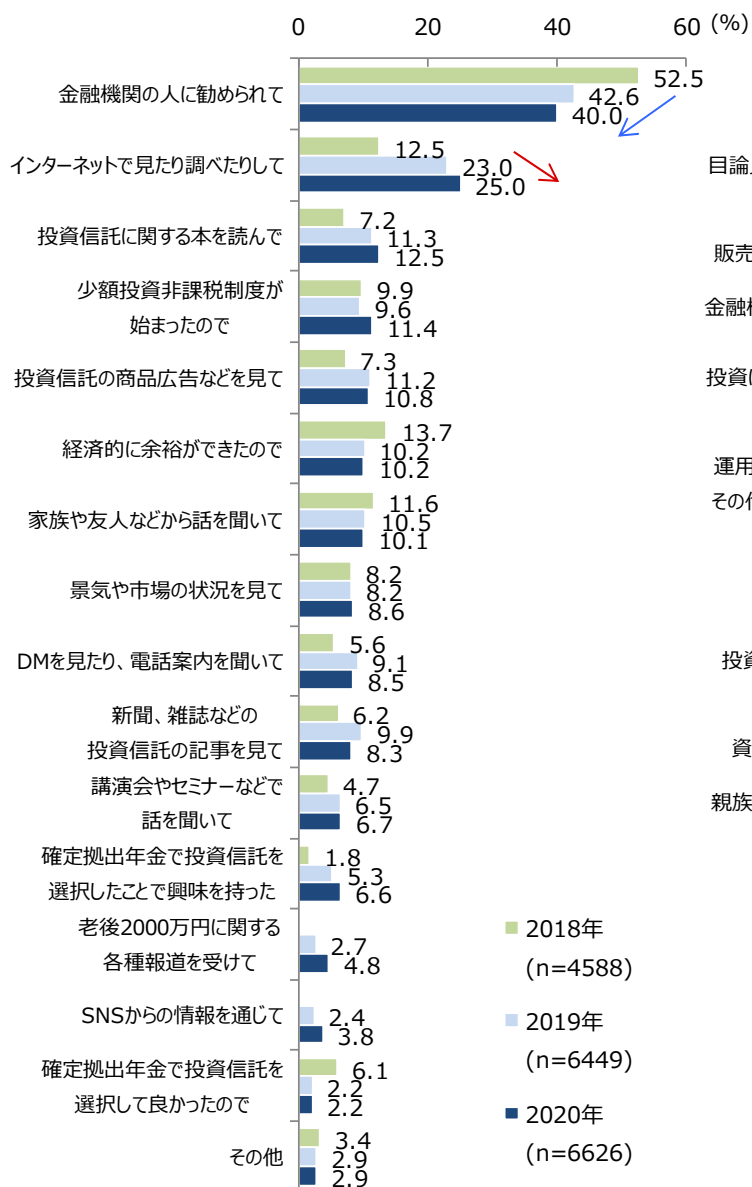
- ・ 興味・関心・購入のきっかけは、年代別で見ると「金融機関の人に勧められて」は30代以上で年代が上がるほど高くなる。「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」「少額投資非課税制度が始まったので」は40代以下で、「SNSからの情報を通じて」は20・30代で高い傾向。〔P45〕

<投資信託の興味・関心・購入のきっかけ>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.45)

※ 2020年で降順にソート

※選択肢「SNSからの情報を通じて」「老後2000万円に関する各種報道を受けて」は2019年より聴取

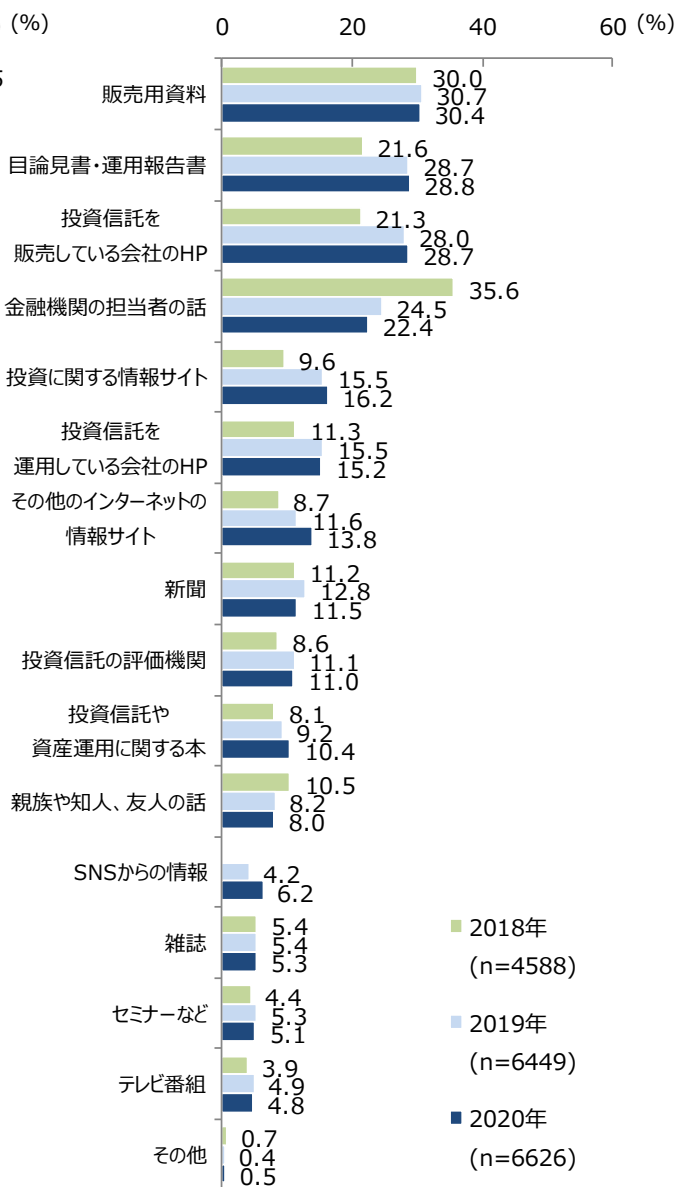


<投資信託購入時参考情報>

【ベース:現在保有層・保有経験層】(P.49)

※ 2020年で降順にソート

※選択肢「SNSからの情報」は2019年より聴取



2. 調査結果の要約

投資信託保有未経験層の非購入理由／投資信託購入検討のきっかけ

■ 投信の非購入理由は、「投資の知識がない」「興味がない」「損をしそうで怖い」が上位。前回と比較して「興味がない」が4.9ポイント減少。また、投信の購入のきっかけは「金融や投資を勉強して理解できた」「手取り収入が増えたら」が上位。

- 購入検討のきっかけは、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「初心者セミナーなどがあれば」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」が高くなる傾向。(P70)

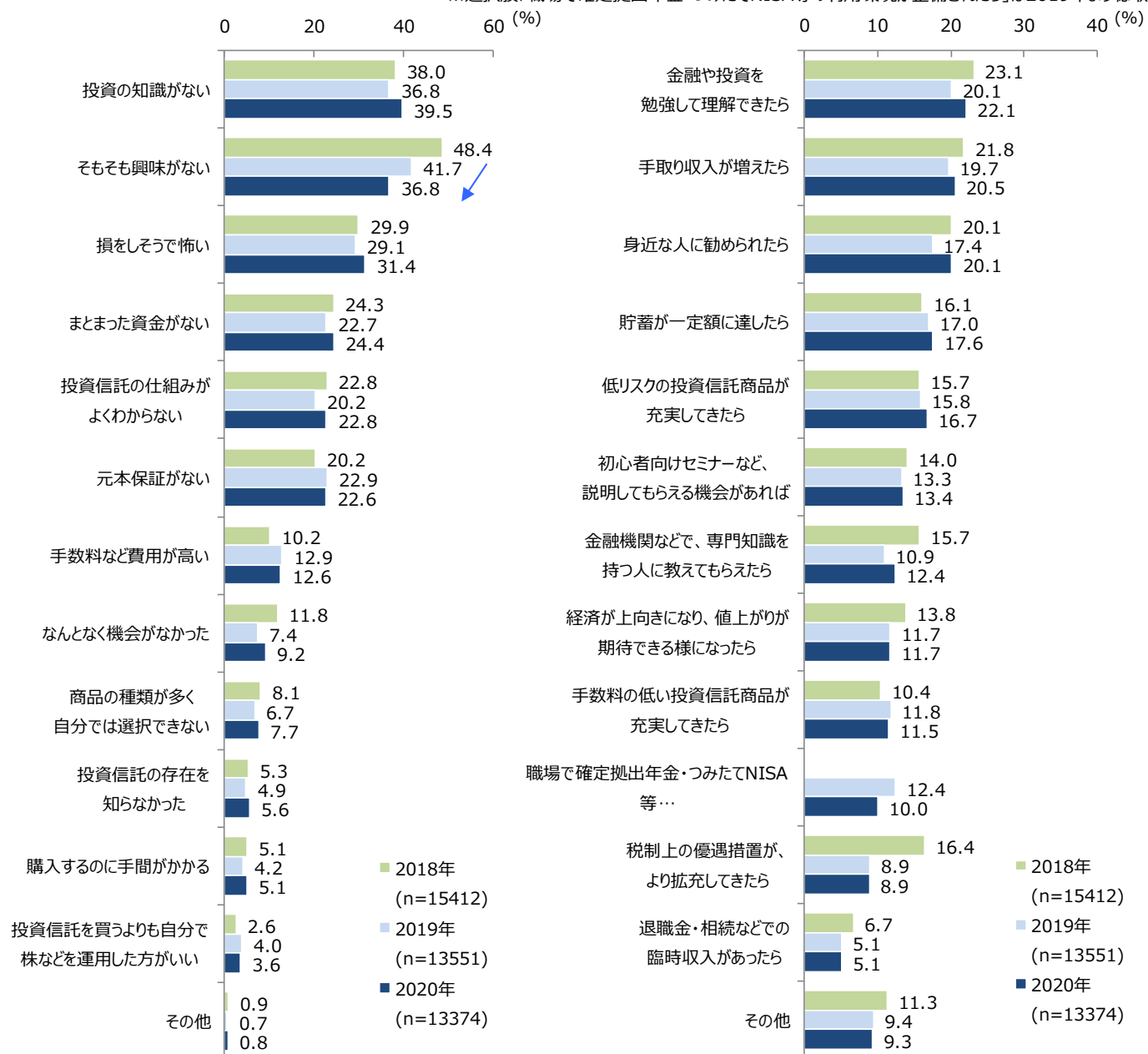
<投資信託の非購入理由>【ベース:保有未経験層】

(P.70) ※ 2020年で降順にソート

<投資信託の購入検討のきっかけ【ベース:保有未経験層】

(P.72) ※ 2020年で降順にソート

※選択肢「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等の利用環境が整備されたら」は2019年より聴取



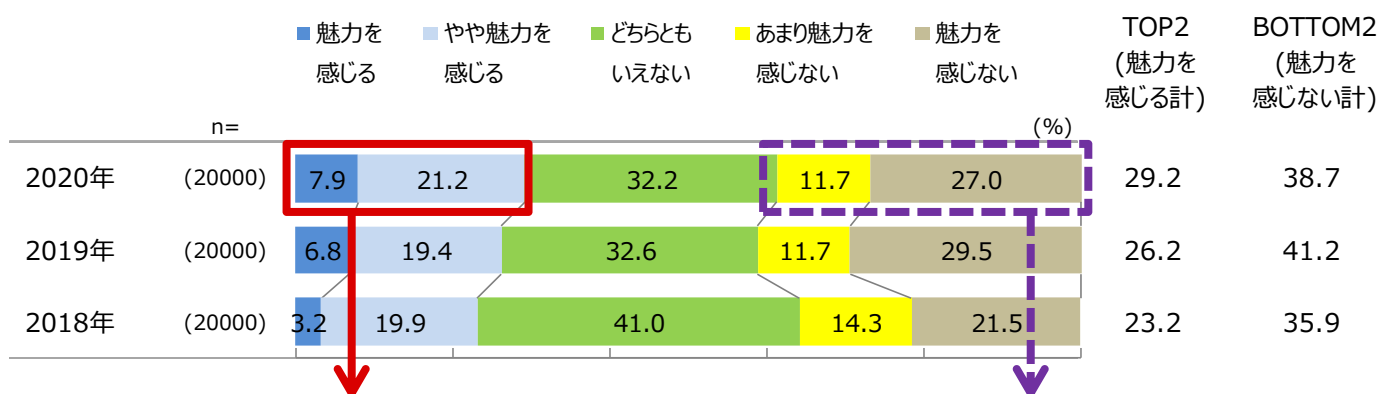
2. 調査結果の要約

毎月分配型投資信託の魅力度とその理由

■「毎月分配型投資信託」に魅力を感じるのは29.2%で、前回よりやや増加。

■魅力層での評価点は、「分配金受取の安心感」「毎月利益を確定したい」が上位。
一方、非魅力層では「基準価額が下がる」が最も高く、「分配金は必要ではないので」が続く。

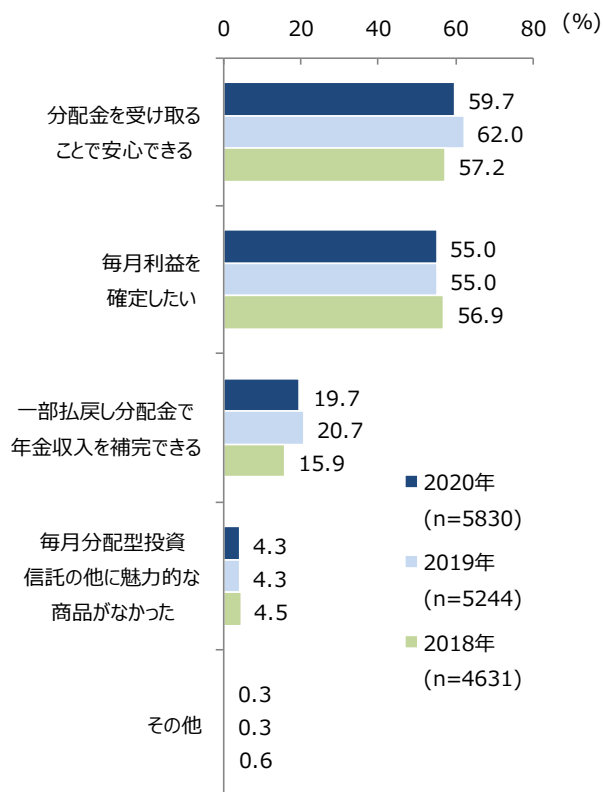
＜毎月分配型投資信託の魅力度＞【ベース：TOTAL】(P.78)



＜毎月分配型投資信託の魅力理由＞

【ベース:分配型魅力者】(P.80)

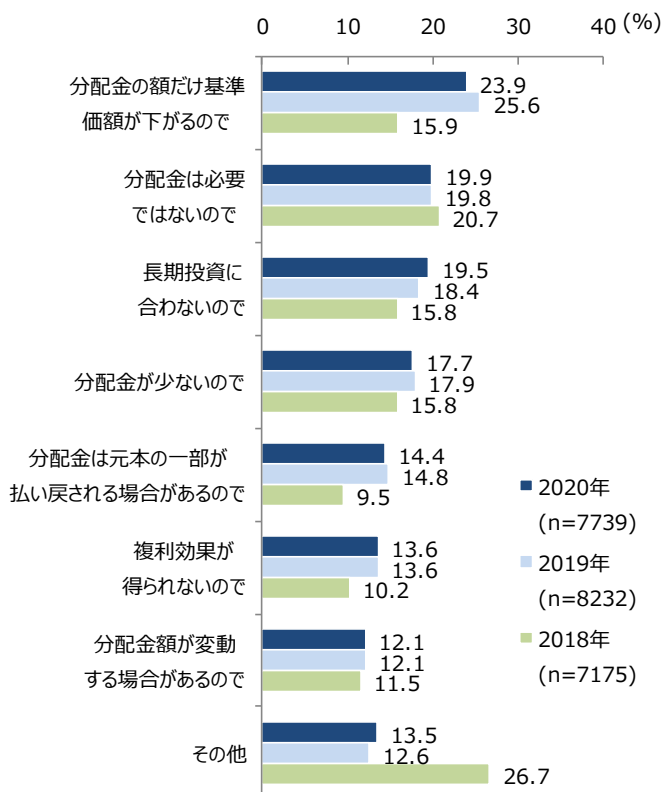
※2020年で降順ソート



＜毎月分配型投資信託の非魅力理由＞

【ベース:分配型非魅力者】(P.82)

※2020年で降順ソート

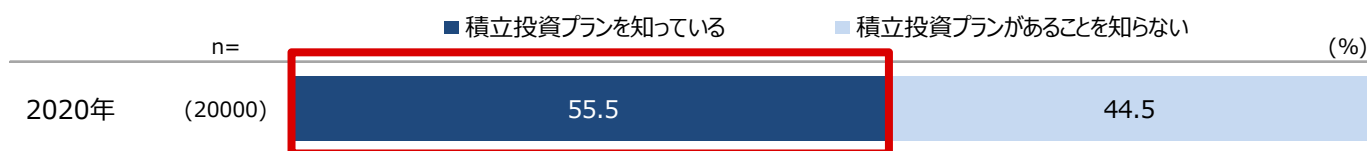


2. 調査結果の要約

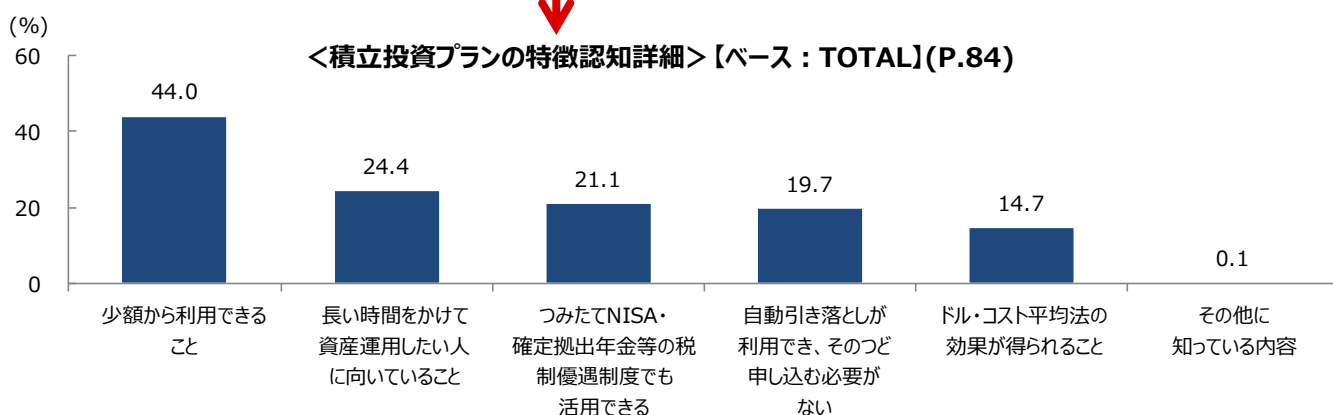
積立投資プランの特徴認知

- 積立投資プランは約55.5%と半数超が存在を認知。認知内容は「少額から利用できる」が44.0%と突出し、それ以外の特性等の認知は20%前後。

＜積立投資プランの特徴認知＞【ベース：TOTAL】(P.84)

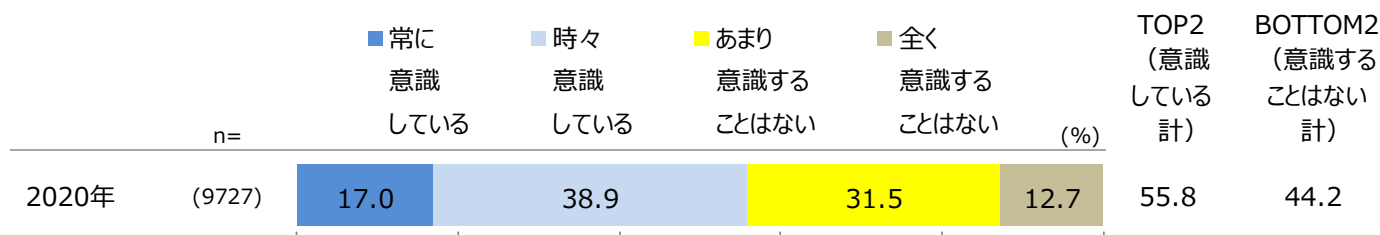


＜積立投資プランの特徴認知詳細＞【ベース：TOTAL】(P.84)

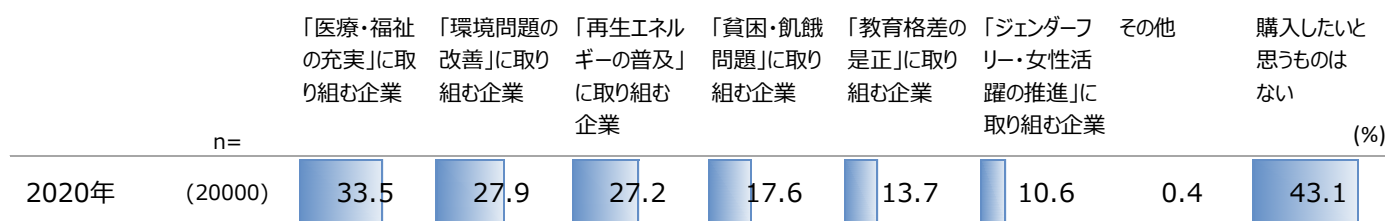


- 書面情報の投資行動への影響（「投資においては、書類に記載されているあらゆる情報が自身の判断・選択に関わってくる」こと）は、TOP2(意識している計)が55.8%と半数以上が意識している。
- 「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に対する投資意識は、「医療・福祉の充実」にに取り組む企業が最も高く、次いで「環境問題の改善」「再生エネルギーの普及」「貧困・飢餓問題」が続く。

＜書面情報の投資行動への影響に対する意識＞【ベース：金融資産保有経験者】(P.90)



＜ESG・SDGs関連投資意向＞【ベース：TOTAL】(P.92)



3. 回答者のプロフィール

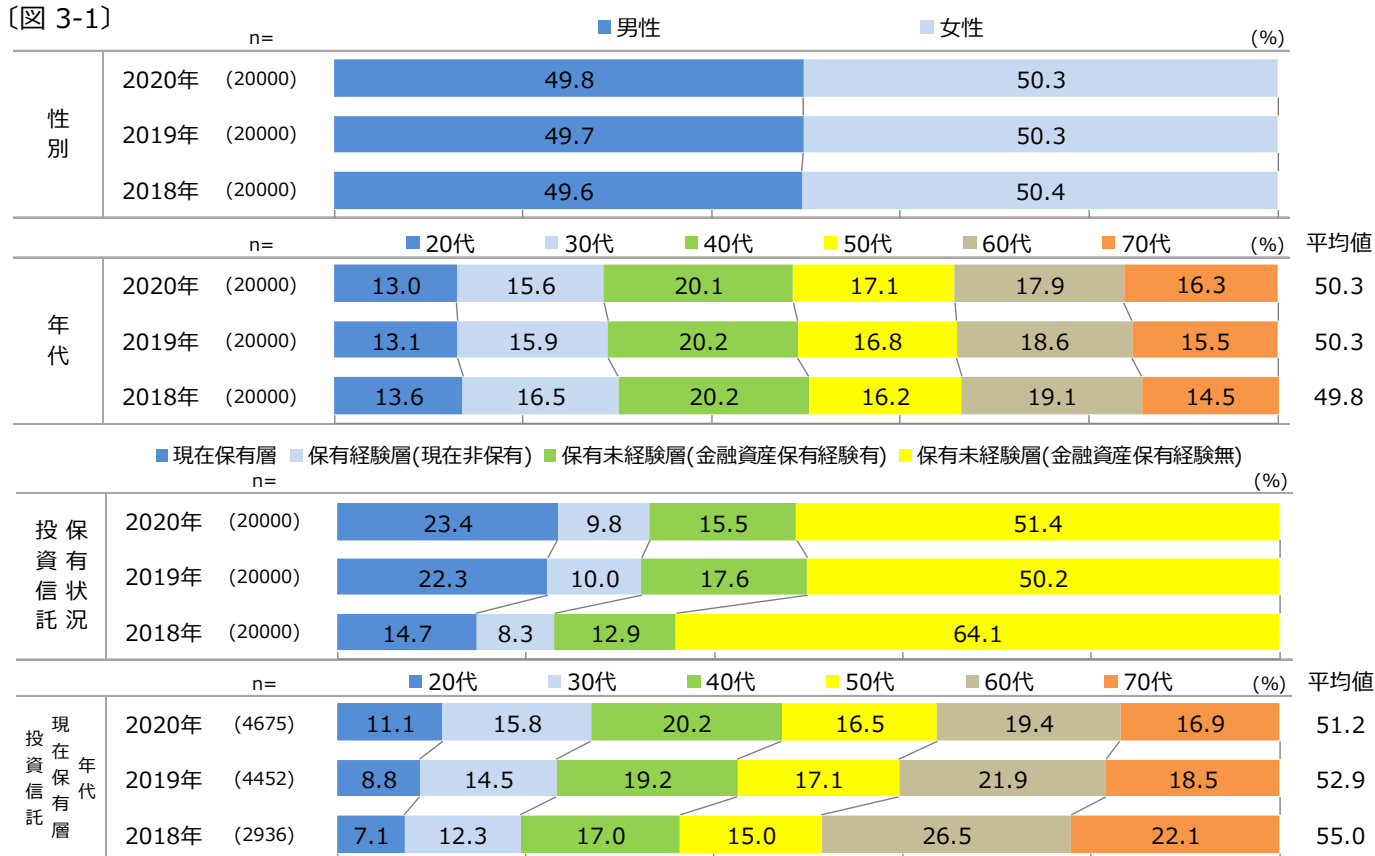


3. 回答者のプロフィール

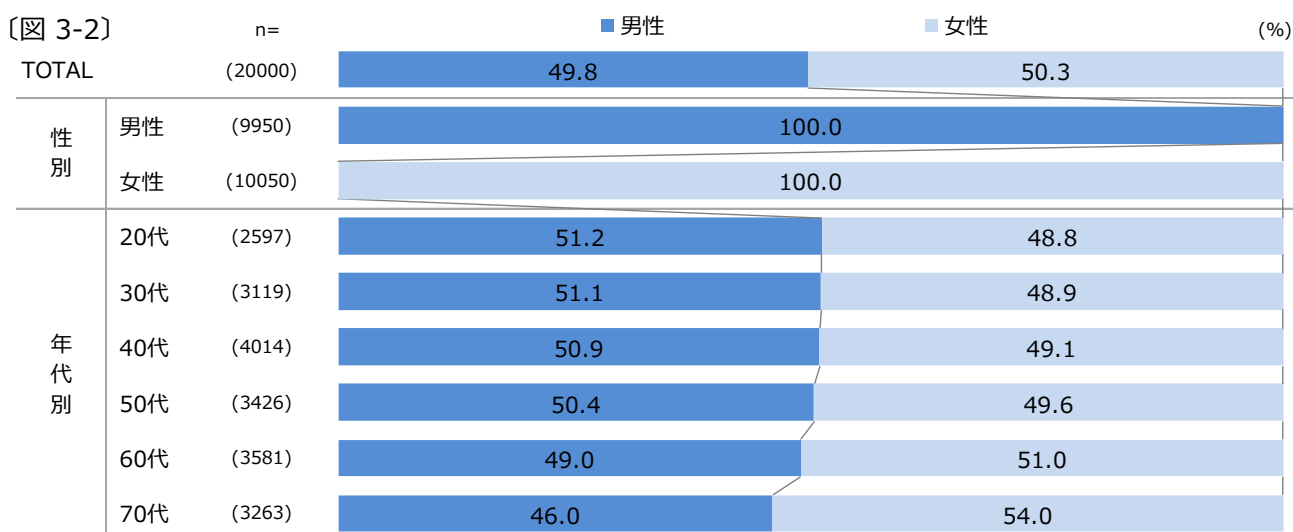
(1) 性別・年代〔Q30:単数回答・Q31:自由記述回答〕

- 回答者の性別は「男性」が49.8%、「女性」が50.3%。年代では「40代」が20.1%で最も高く、平均年齢は50.3歳となる。
- また、投信現在保有層の年代構成をみると、「40代」が20.2%で最も高く、次いで「60代」が19.4%となる。前回に比べると20～40代の保有率が僅かずつ増えて、投信現在保有層の平均年齢は51.2歳に低下した。〔図3-1〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

〔図 3-1〕



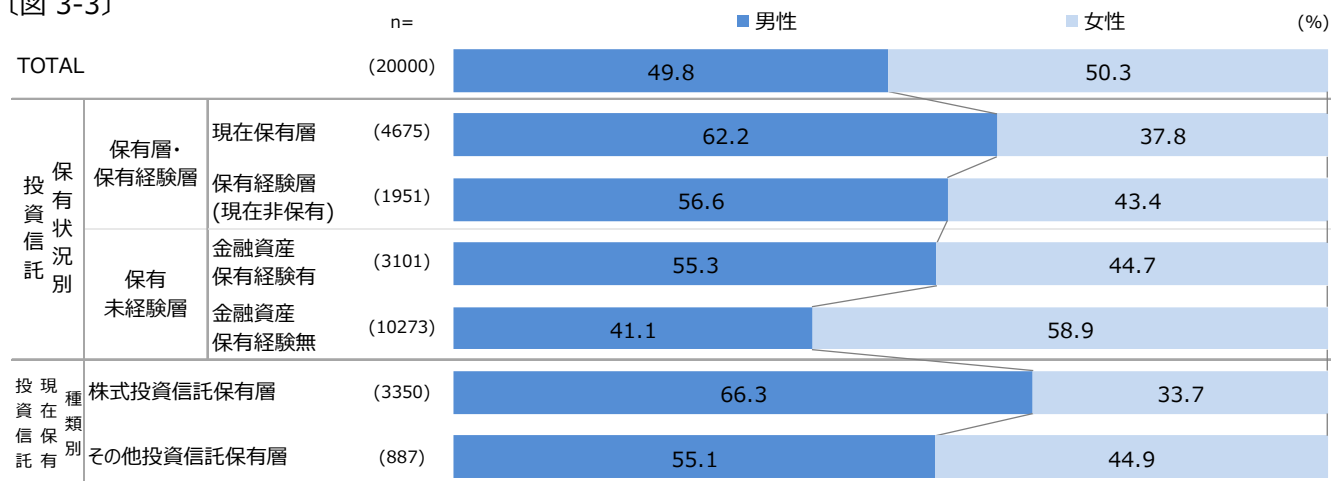
〔図 3-2〕



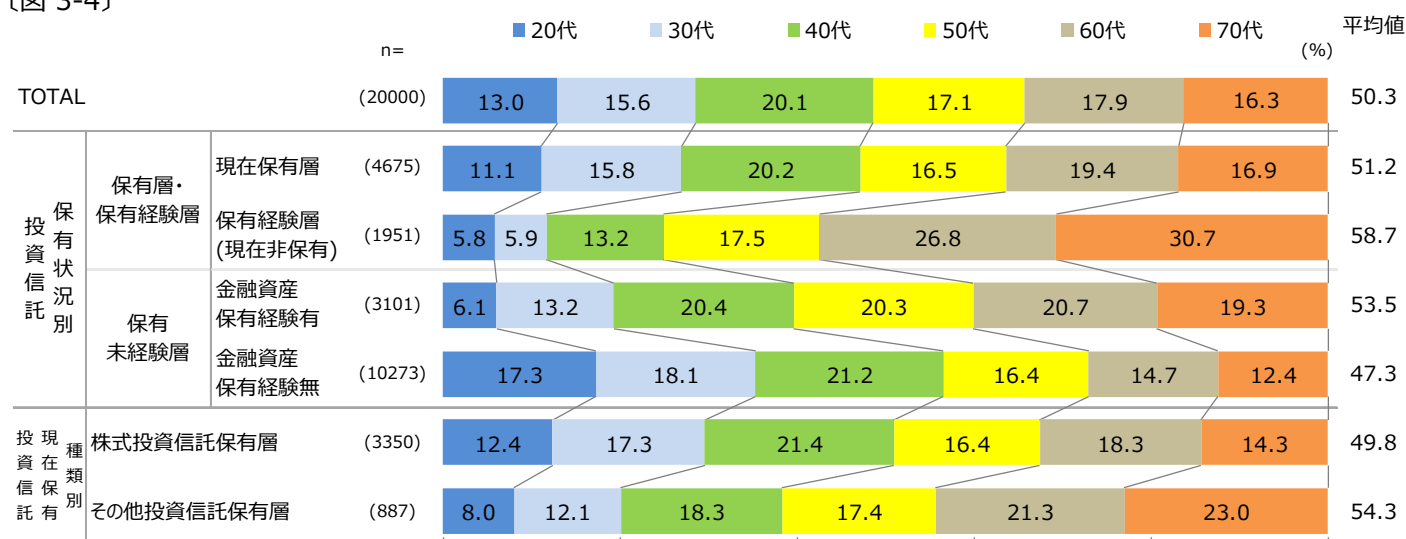
3. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代〔Q30:単数回答・Q31:自由記述回答〕

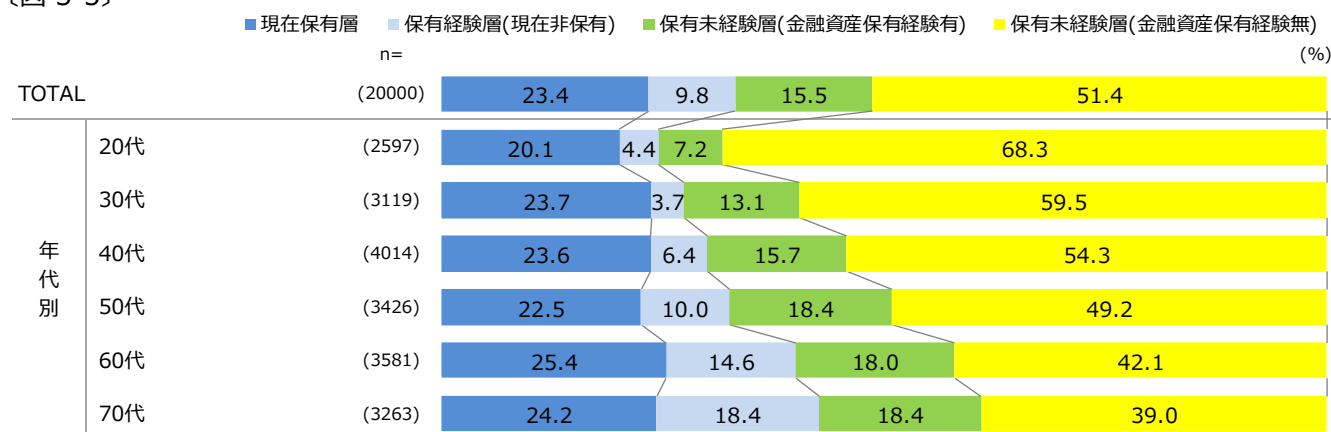
〔図 3-3〕



〔図 3-4〕



〔図 3-5〕

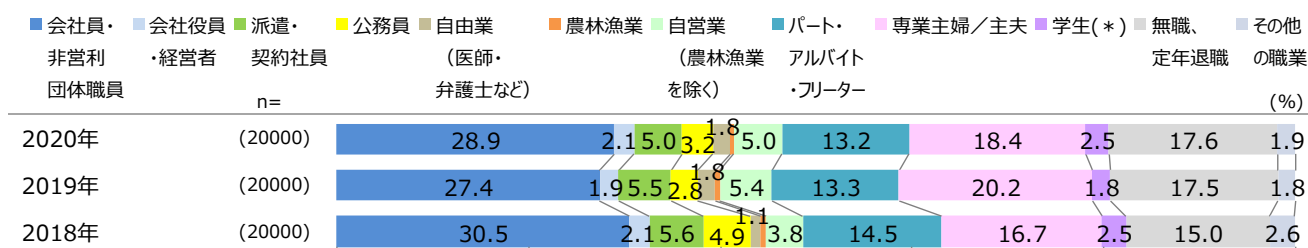


3. 回答者のプロフィール

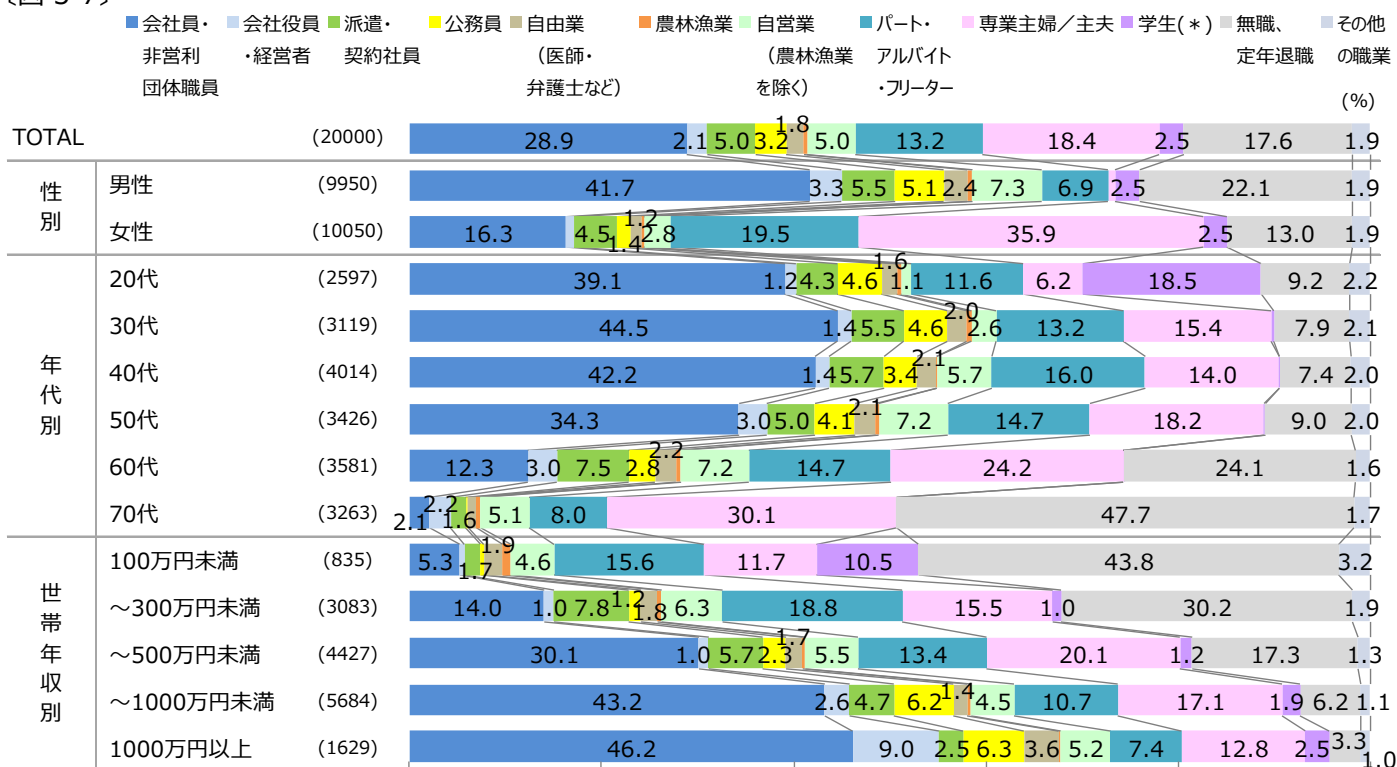
(2) 職業〔Q32:単数回答〕

- 回答者の職業は、前回と同様に「会社員・非営利団体職員」(28.9%)が最も高く、〔図3-6〕世帯年収が高くなるにつれて増加する。〔図3-7〕
また年収1,000万円以上の世帯では、「会社役員・経営者」(9.0%)がやや高い。〔図3-7〕
- 投信保有状況別でみると、投信保有経験層では、「無職・定年退職」が、投信現在保有層や投信保有未経験層に比べてやや多い。また、投信現在保有種類別では、株式投信保有層はその他投信保有層に比べて「会社員・非営利団体職員」が多く、「専業主婦／主夫」「無職・定年退職」がやや少ない。〔図3-8〕

〔図 3-6〕



〔図 3-7〕



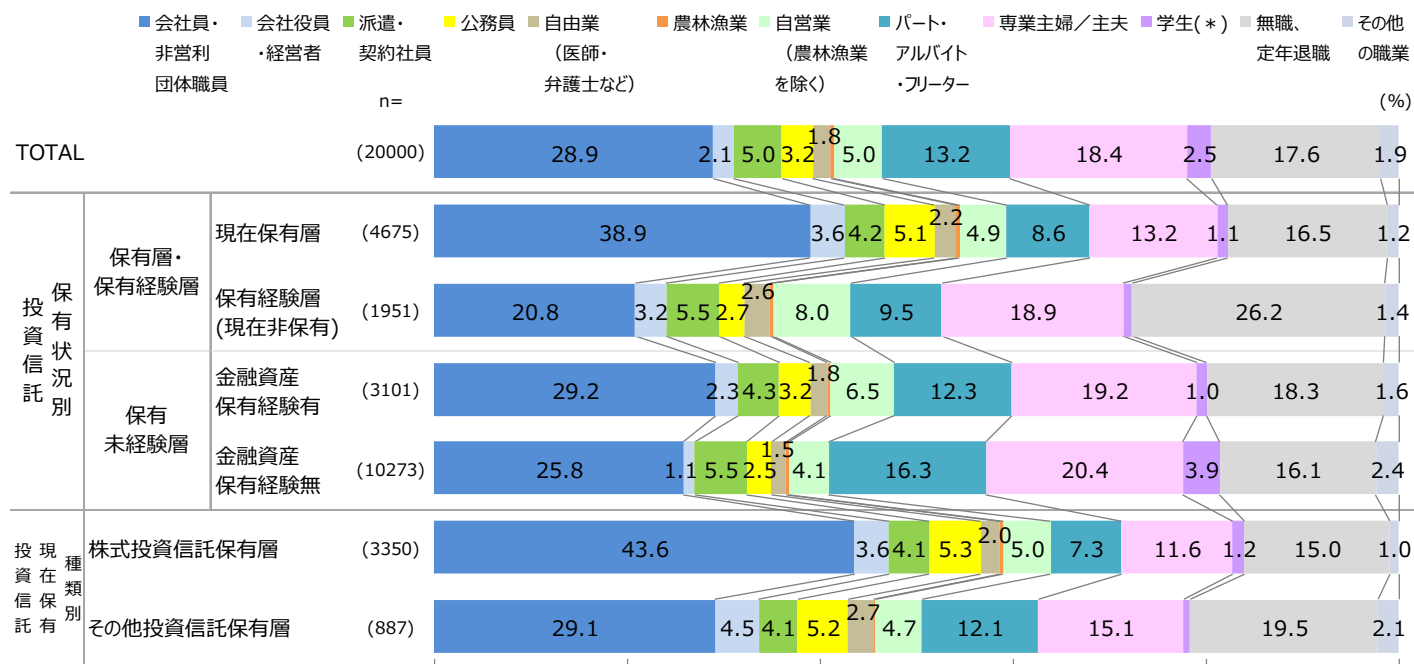
※1%未満は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

(2) 職業〔Q32:単数回答〕

〔図 3-8〕



※1%未満は非表示

* 学生=大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

3. 回答者のプロフィール

(3) 金融資産の保有経験〔Q1:単数回答〕

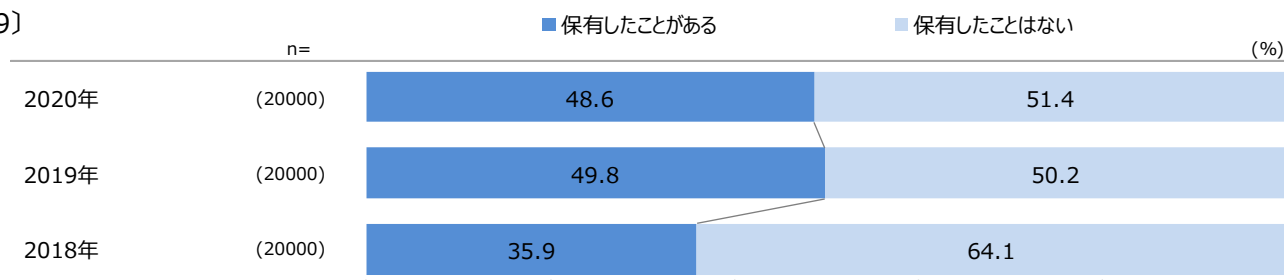
- 金融資産（※）の保有経験率は48.6%と約半数で、前回と同程度。〔図3-9〕

* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

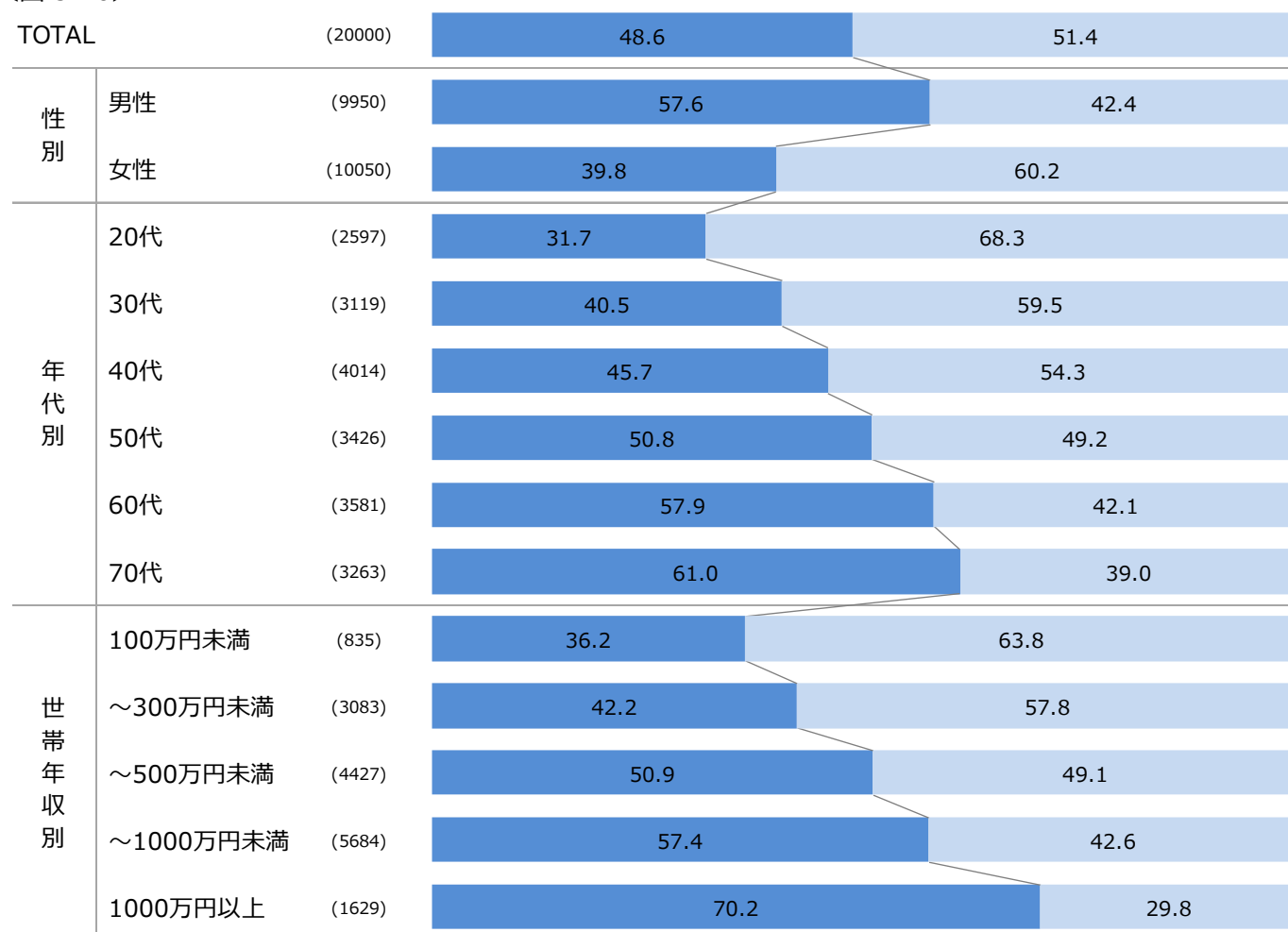
- 性別では男性(57.6%)の方が高く、また年代や世帯年収が高くなるにつれて保有経験率も高くなる。〔図3-10〕

※ 金融資産・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、REITなど。現金や円での預貯金、土地や不動産、保険は除く。

〔図 3-9〕



〔図 3-10〕

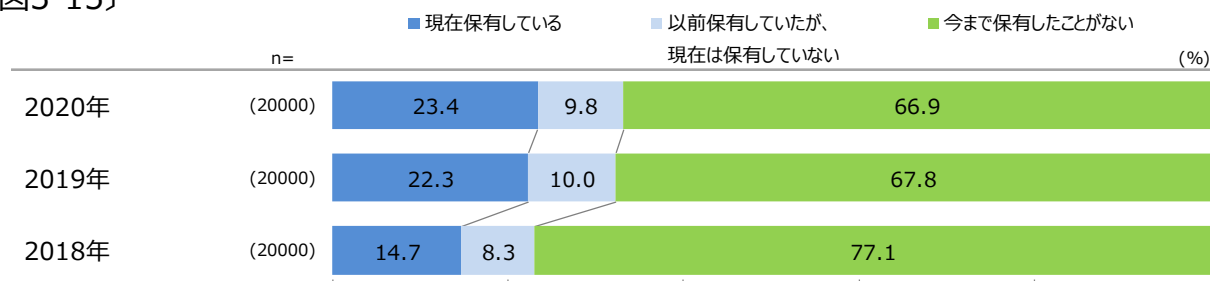


3. 回答者のプロフィール

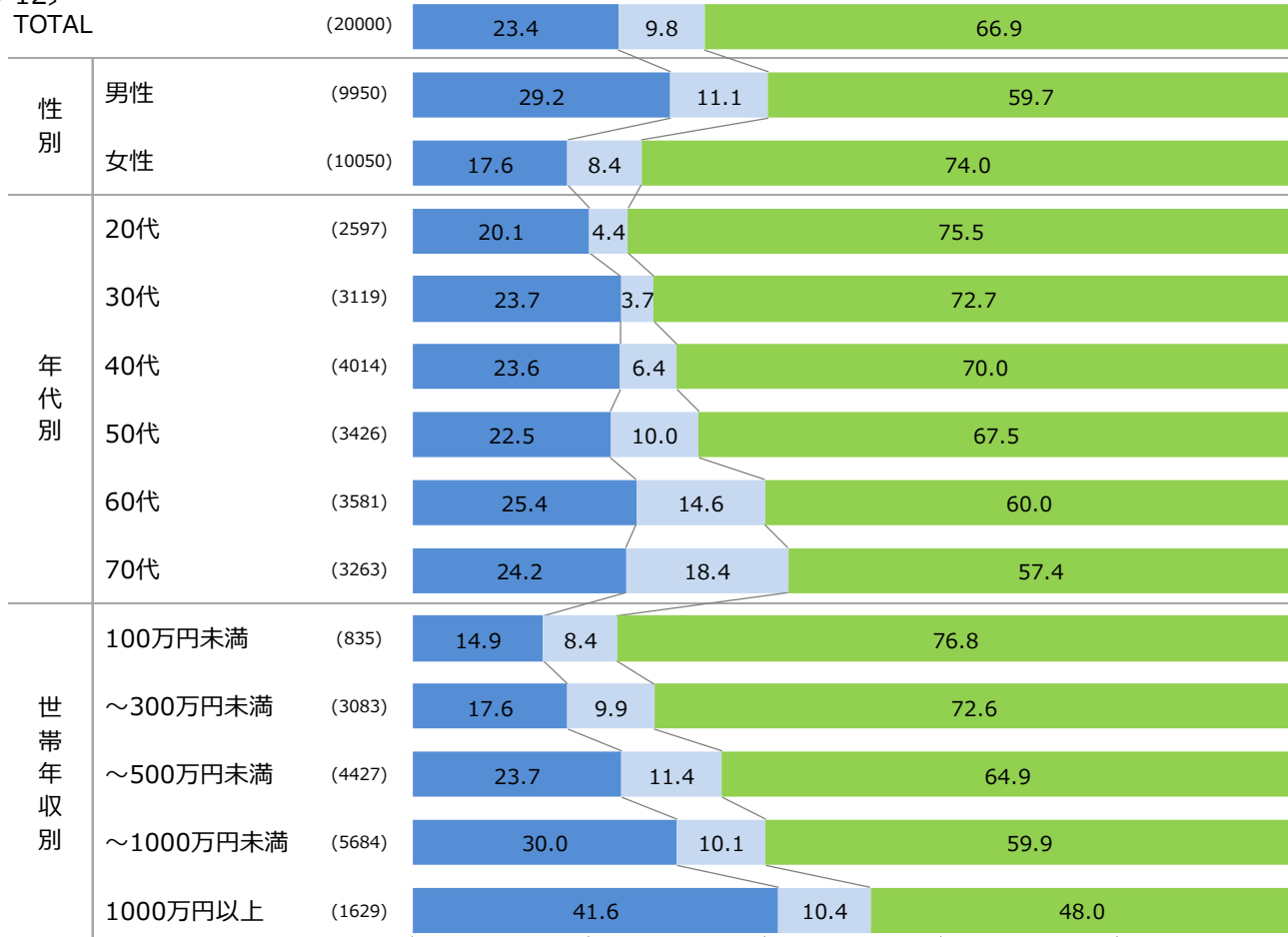
(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

- 投資信託の保有状況は、「現在保有している」という“投信現在保有層”が23.4%、「以前保有していたが、現在は保有していない」との“投信保有経験層”が9.8%、「今まで保有したことがない」という“投信保有未経験層”66.9%で、前回と同程度。
〔図3-11〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代が上がるにつれて、投信保有経験率（“投信現在保有層”と“投信保有経験層”の合計）が高くなる。また、世帯年収が高いほど、“投信現在保有層”が増加する。〔図3-12〕
前回と比べて、20代の“投信現在保有層”が5.2ポイント増加している。〔図3-12・図3-13〕
“投信現在保有層”の年代構成比は、20代比率が前回から若干増加、60代以上は若干減少。
依然、保有層は高齢層中心だが、最も比率が高い層は、前回の60代から今回は40代となっている。
〔図3-15〕

〔図 3-11〕



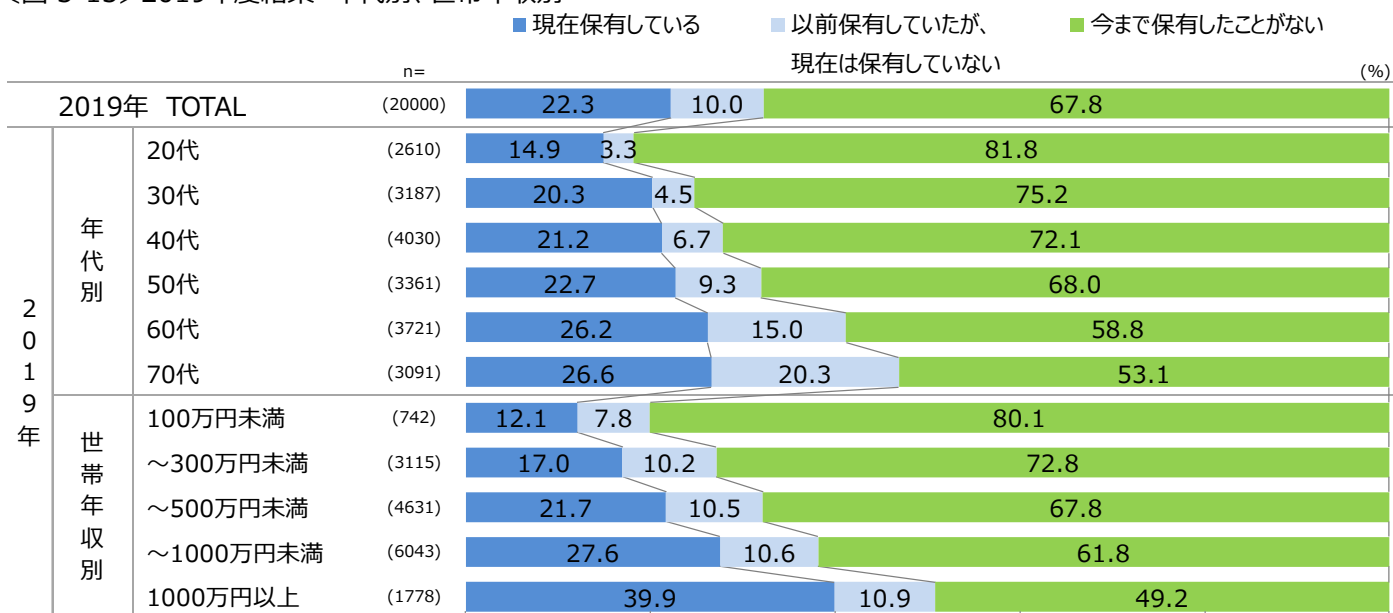
〔図 3-12〕



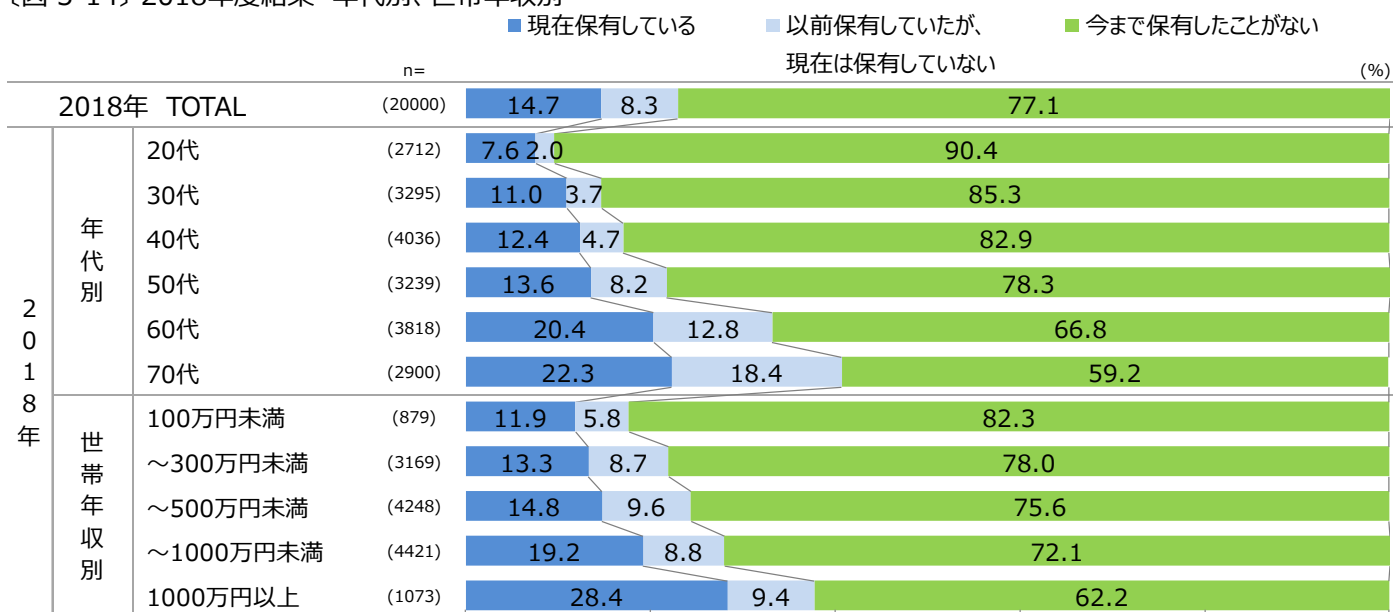
3. 回答者のプロフィール

(4) 投資信託の保有状況〔Q2:単数回答〕

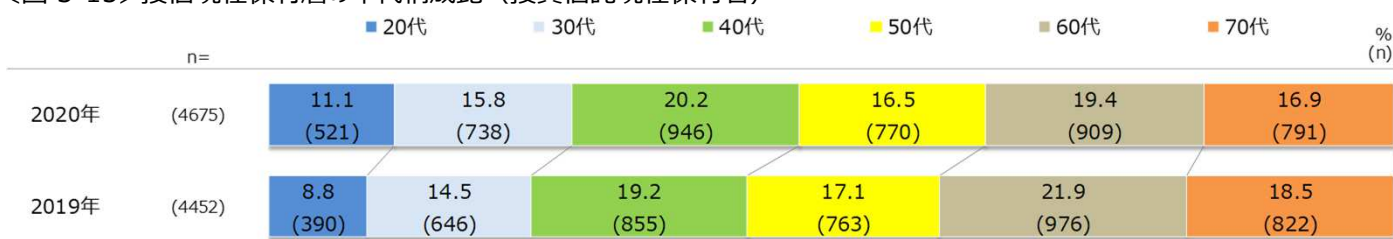
〔図 3-13〕 2019年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-14〕 2018年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 3-15〕 投信現在保有層の年代構成比（投資信託現在保有者）

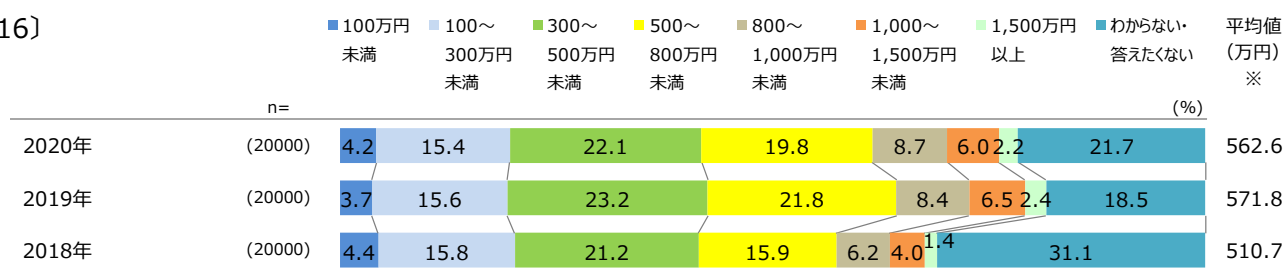


3. 回答者のプロフィール

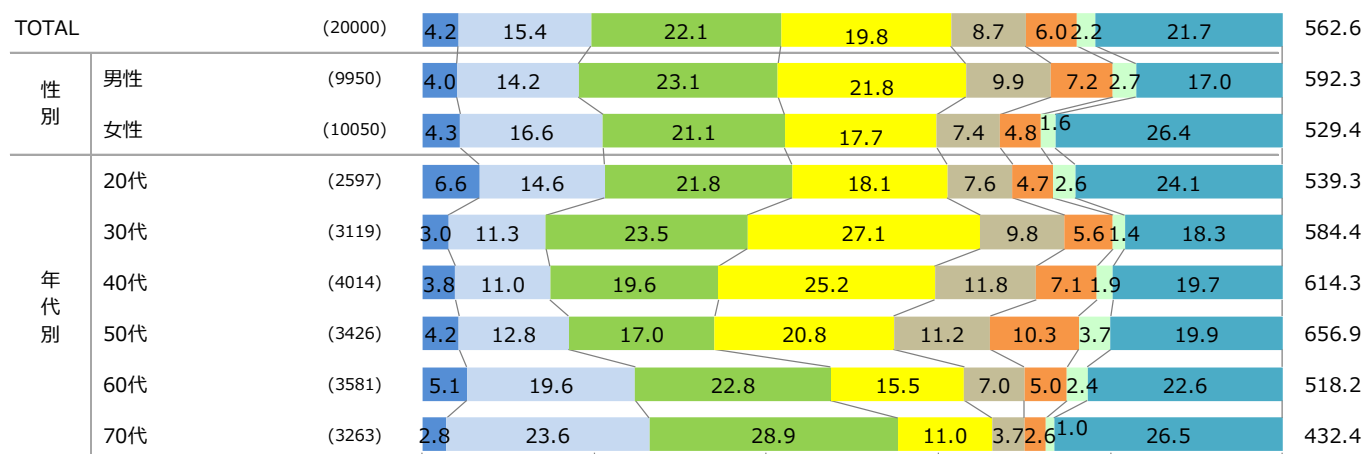
(5) 世帯年収〔Q33①：単数回答〕

- 世帯年収は「300～500万円未満」(22.1%)、「500～800万円未満」(19.8%)が高く、『800万円未満』合計で61.5%を占める。また、平均値は「562.6万円」と前回より9.2万円低い。〔図3-16〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で世帯年収の平均をみると、投信現在保有層、特に株式投信保有層で高い。〔図3-18〕

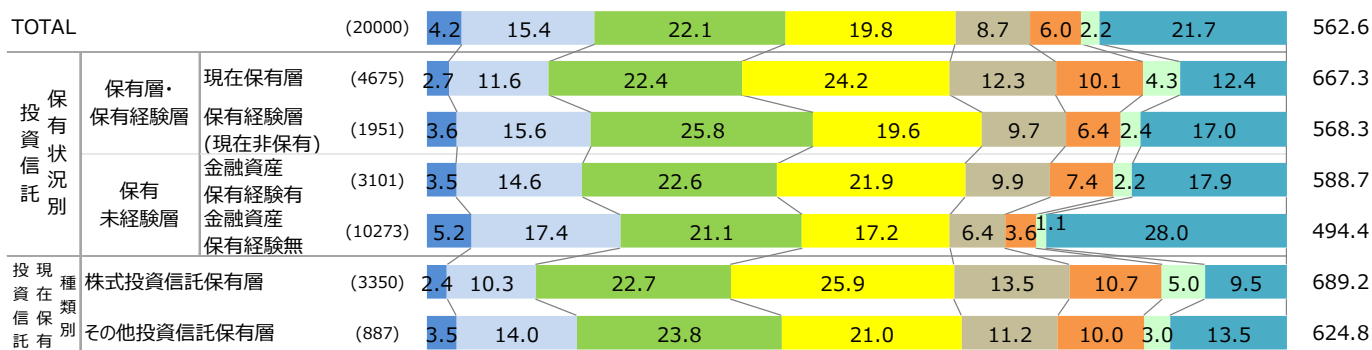
〔図 3-16〕



〔図 3-17〕



〔図 3-18〕



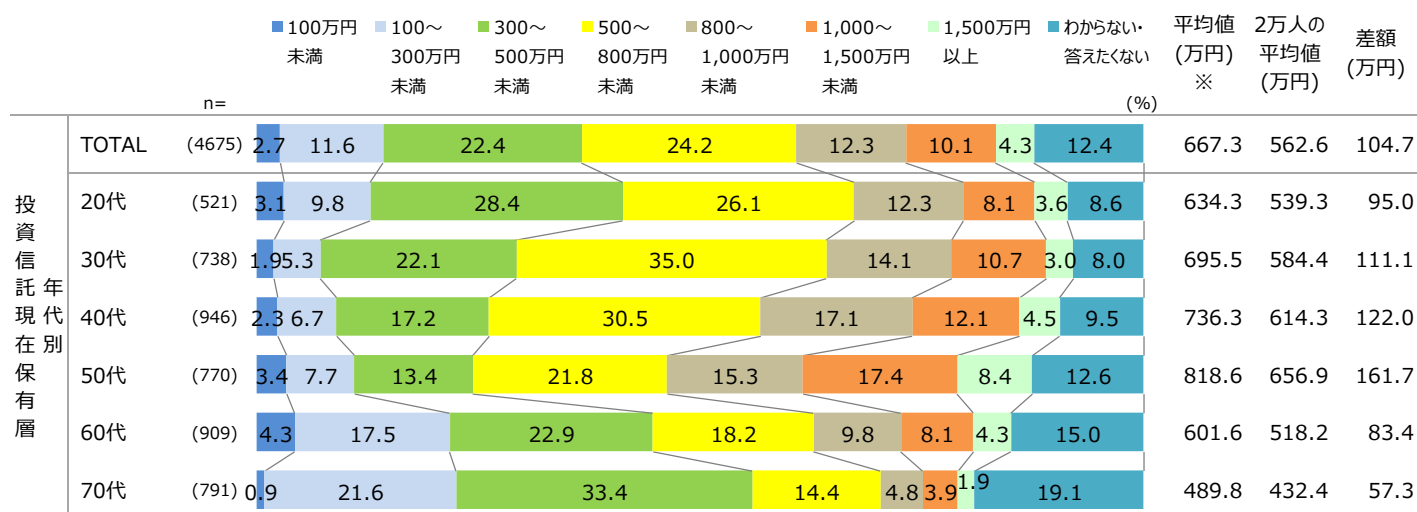
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(5) 世帯年収〔Q33①：単数回答〕

〔図 3-19〕



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

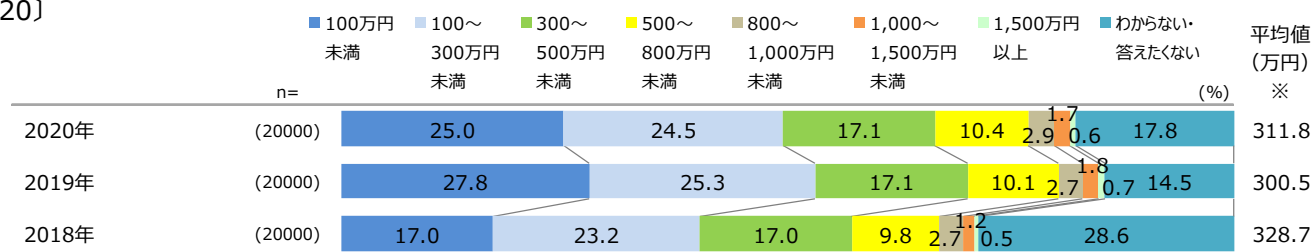
100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

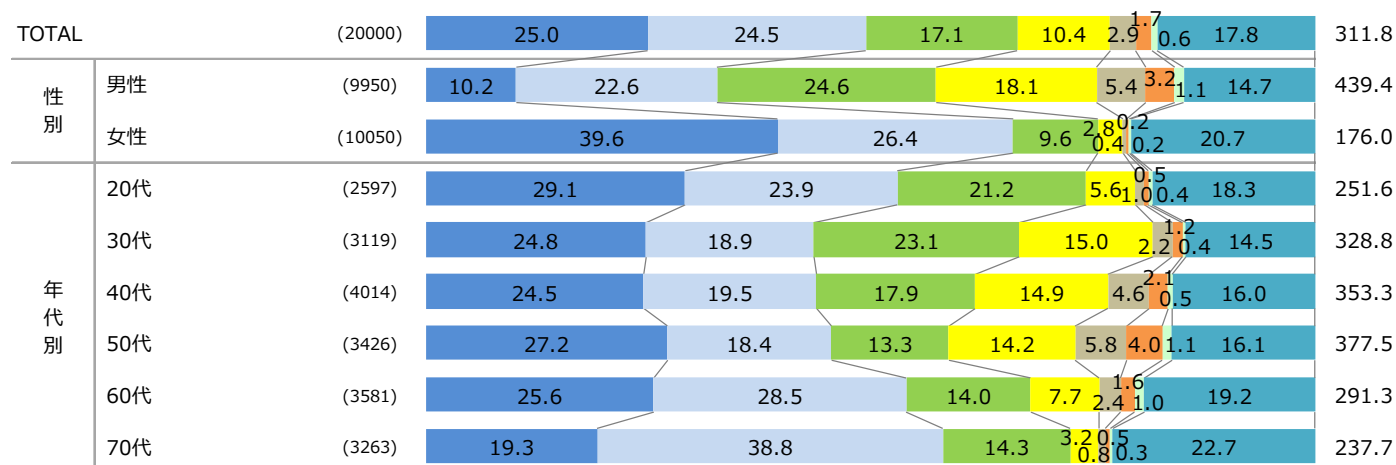
(6) 個人年収〔Q33②：単数回答〕

- 個人年収は「100万円未満」が25.0%、「100～300万円未満」が24.5%とやや高く、『500万円未満』合計で66.6%を占める。平均は「311.8万円」と前回に比べてやや高い。〔図3-20〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で個人年収の平均をみると、世帯年収と同様に、投信現在保有層、株式投信保有層で高い。〔図3-22〕

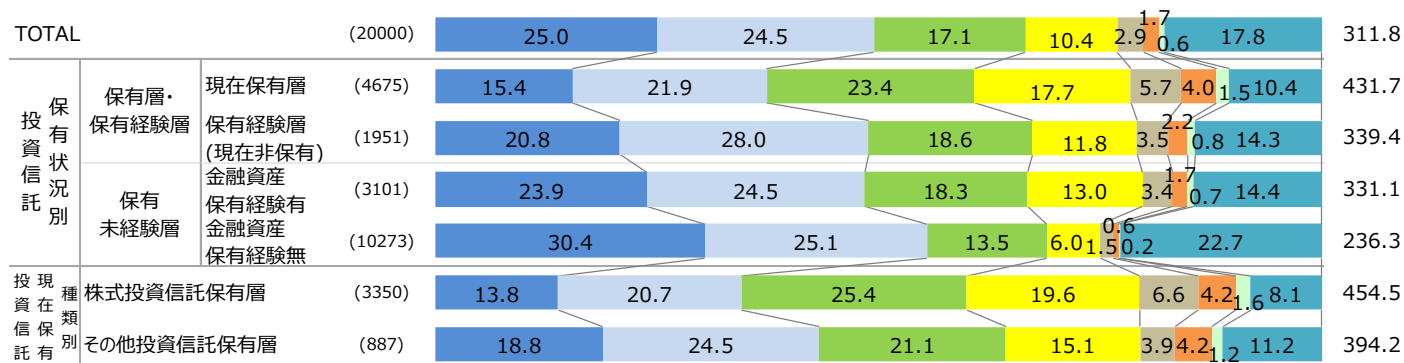
〔図 3-20〕



〔図 3-21〕



〔図 3-22〕



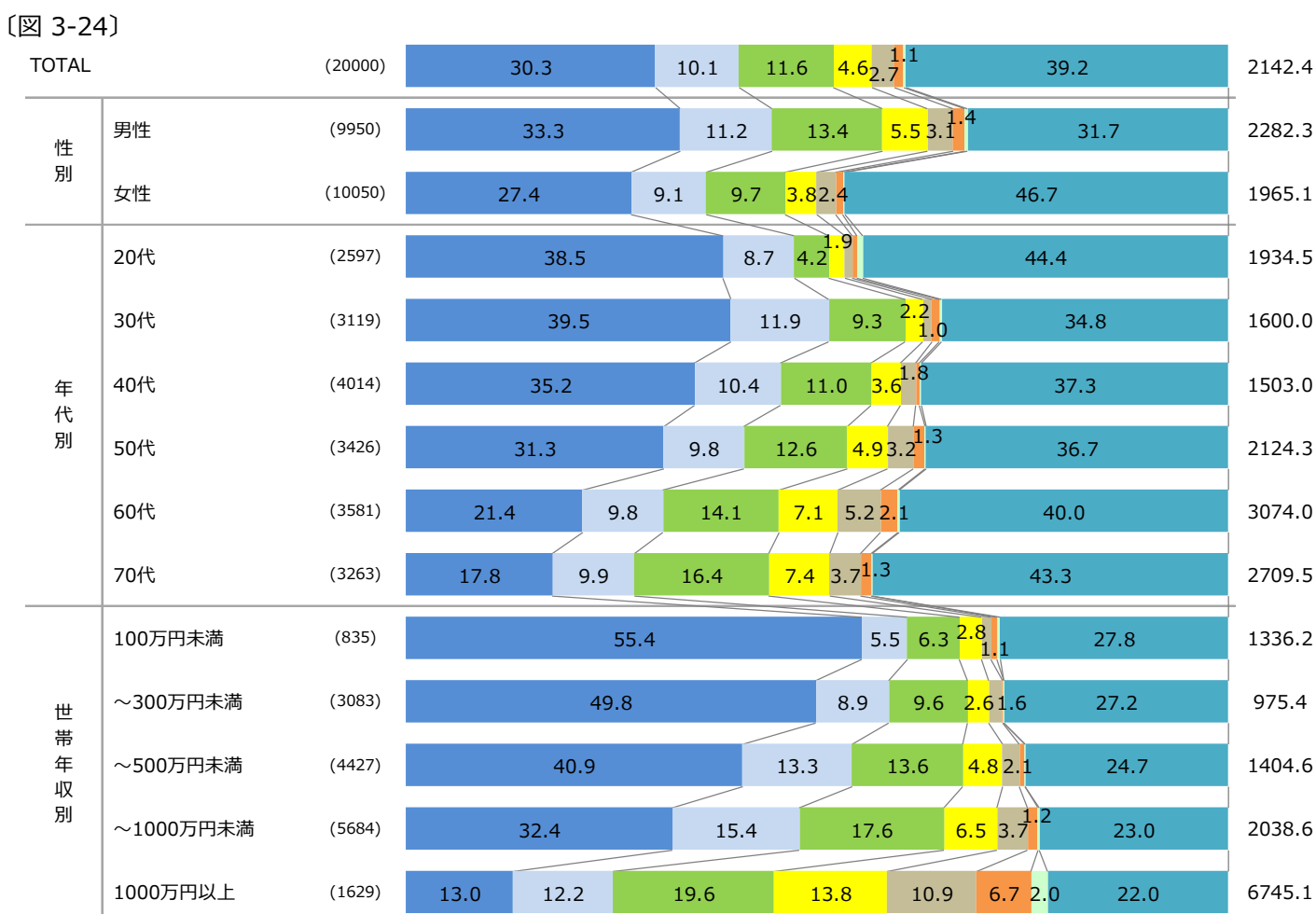
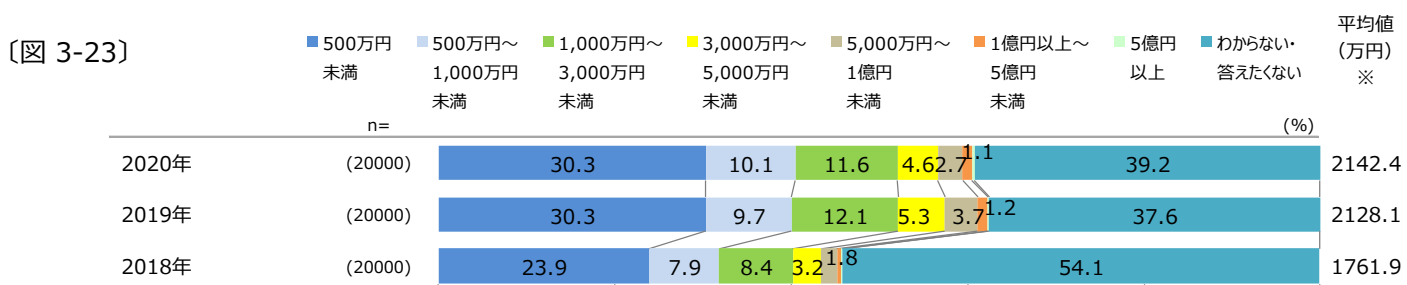
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円 / 800万円～1000万円未満：900万円 / 1000～1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

3. 回答者のプロフィール

(7) 保有金融資産額〔Q34:単数回答〕

- 保有金融資産額は「500万円未満」が30.3%と多く、『3,000万円未満』合計で52.0%を占める。また、平均値は「2142.4万円」で前回をやや上回る。〔図3-23〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 投信保有状況別や投信現在保有種類別で保有金融資産額の平均をみると、投信現在保有層が高い。〔図3-25〕



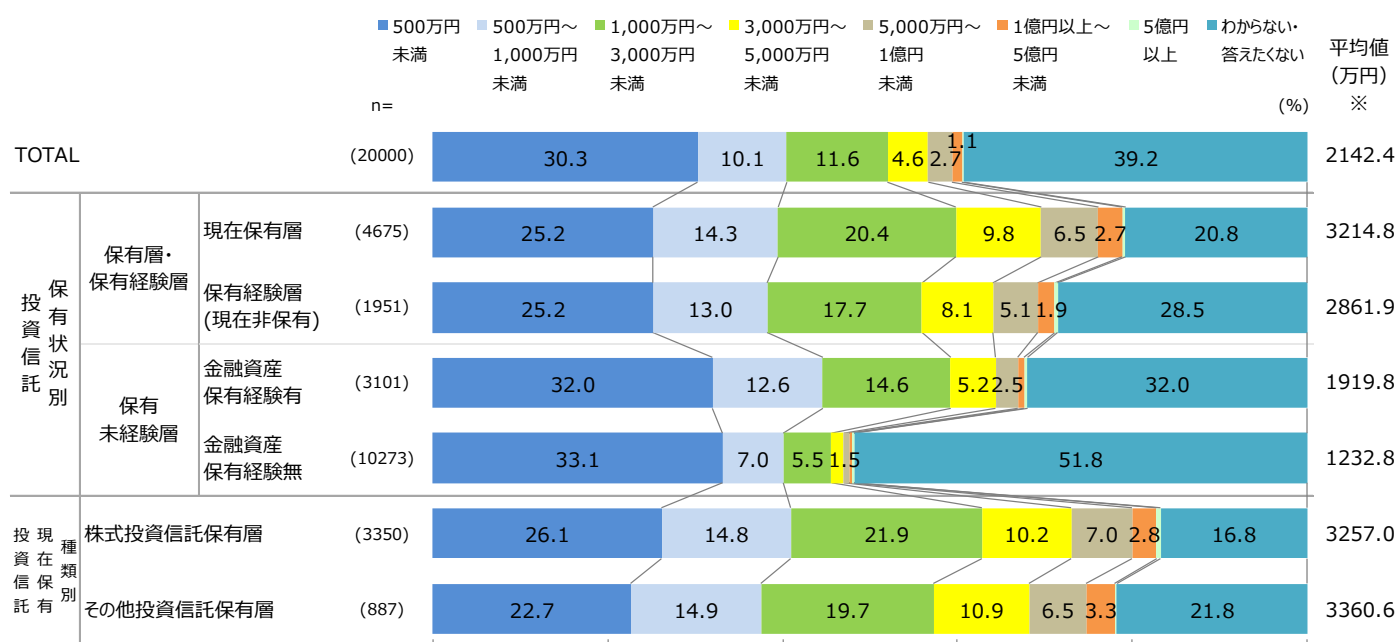
※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500~1000万円未満：750万円 / 1000~3000万円未満：2000万円 / 3000~5000万円未満：4000万円 / 5000万円~1億円未満：7500万円 / 1億円~5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

3. 回答者のプロフィール

(7) 保有金融資産額〔Q34:単数回答〕

〔図 3-25〕



※1%未満は非表示

※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

500万円未満：250万円 / 500～1000万円未満：750万円 / 1000～3000万円未満：2000万円 / 3000～5000万円未満：4000万円 / 5000万円～1億円未満：7500万円 / 1億円～5億円未満：3億円 / 5億円以上：7億円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(1) 投資信託の保有口座〔Q3:重複回答〕

- 投資信託の保有口座は、「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」が65.1%と最も高く、「NISA」(40.4%)が続く。「つみたてNISA」(24.4%)、「iDeCo（個人型確定拠出年金）」(13.5%)は10～20%台となっている。前回より「つみたてNISA」が7.0ポイント増加。〔図4-1〕
- 「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」「NISA」は高齢層ほど保有率が増加傾向にあり、「つみたてNISA」は若年層ほど保有率が高い。〔図4-2〕
「つみたてNISA」は、前回に比べて20代では8.8ポイント、30代では7.1ポイント、40代では9.7ポイント増加している。〔図4-2・図4-3〕

〔図 4-1〕

	n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない ・忘れた	(%)
2020年	(4675)	65.1	40.4	24.4	13.5	9.6	1.0	3.4	
2019年	(4452)	69.7	43.2	17.4	11.8	7.1	0.7	2.4	

〔図 4-2〕

		n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない ・忘れた	(%)
TOTAL		(4675)	65.1	40.4	24.4	13.5	9.6	1.0	3.4	
性別	男性	(2910)	67.2	40.3	24.3	15.5	12.9	0.9	2.7	
	女性	(1765)	61.6	40.6	24.4	10.3	4.3	1.1	4.5	
年代別	20代	(521)	48.2	32.8	48.0	18.6	15.5	1.7	4.4	
	30代	(738)	55.0	34.0	39.8	21.5	16.1	1.1	3.4	
	40代	(946)	61.0	36.0	29.9	22.4	13.0	0.7	2.7	
	50代	(770)	66.2	38.2	18.8	16.8	11.3	1.6	2.6	
	60代	(909)	74.3	50.3	11.7	3.0	3.9	0.7	3.4	
	70代	(791)	78.8	47.4	7.7	1.1	0.8	0.5	4.3	
世帯年収別	100万円未満	(124)	60.5	44.4	21.8	12.1	4.8	0.0	3.2	
	～300万円未満	(542)	68.3	42.8	17.5	7.0	2.6	1.1	4.1	
	～500万円未満	(1049)	65.3	39.7	24.7	10.5	5.1	0.8	2.7	
	～1000万円未満	(1705)	63.4	40.0	27.9	16.7	13.0	1.0	2.4	
	1000万円以上	(677)	69.3	43.0	25.0	20.5	18.3	1.5	1.9	

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(1) 投資信託の保有口座〔Q3:重複回答〕

〔図 4-3〕2019年度結果 性別、年代別、世帯年収別

		n=	特定口座 もしくは 一般口座 など通常の 課税口座	NISA	つみたてNISA	iDeCo (個人型 確定拠出 年金)	企業型DC (企業型 確定拠出 年金)	その他	わからない・ 忘れた	(%)
TOTAL		(4452)	69.7	43.2	17.4	11.8	7.1	0.7	2.4	
性別	男性	(2661)	72.2	42.1	17.6	14.1	10.0	0.6	2.4	
	女性	(1791)	66.0	44.8	17.1	8.4	2.8	0.9	2.4	
年代別	20代	(390)	51.3	33.6	39.2	18.2	14.1	0.5	4.6	
	30代	(646)	59.1	36.1	32.7	20.6	9.3	0.6	2.3	
	40代	(855)	66.9	40.0	20.2	20.5	9.8	0.6	2.1	
	50代	(763)	72.1	41.5	14.8	15.6	11.9	1.0	2.9	
	60代	(976)	74.9	49.7	7.0	2.0	2.4	1.0	1.9	
	70代	(822)	81.3	50.6	6.8	0.7	0.6	0.4	1.9	
世帯 年収別	100万円未満	(90)	70.0	42.2	10.0	11.1	3.3	0.0	6.7	
	～300万円未満	(529)	67.5	45.6	15.7	4.9	2.3	0.8	3.4	
	～500万円未満	(1006)	68.3	42.5	19.0	9.4	3.3	0.8	2.6	
	～1000万円未満	(1667)	69.3	43.1	17.3	12.7	8.4	0.7	1.2	
	1000万円以上	(710)	75.6	45.2	19.2	20.3	16.5	1.0	1.8	

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(2) 投資信託の保有種類〔Q6:重複回答〕

- 現在保有している投資信託の種類は、「国内株式投資信託」が54.4%で最も高い。次いで「外国株式投資信託」(43.6%)、「分散型投資信託」(25.6%)、「国内債券投資信託」(18.4%)、「外国債券投資信託」(17.7%)が続く。前回より「外国株式投資信託」が6.4ポイント増加。〔図4-4〕
- 年代別で保有率をみると、「国内株式投資信託」「外国株式投資信託」「ETF」は、若年層ほど高くなる傾向。〔図4-5〕
- 投資信託の平均保有数は2.17種類となっている。前回の2.25種類に比べて若干減少。〔図4-6〕

〔図 4-4〕

	n=	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	国内債券投資信託	外国債券投資信託	国内不動産投信(リート)に投資する投資信託	ETF	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信(リート)	その他	不明・回答拒否 (%)
2020年	(4675)	54.4	43.6	25.6	18.4	17.7	12.4	9.5	9.2	5.8	0.4	9.2
2019年	(4452)	58.1	37.2	27.8	19.6	20.1	15.5	8.5	10.9	6.8	0.5	8.7
2018年	(2936)	46.8	29.8	26.7	16.5	18.7	11.3	4.8	8.9	5.6	0.4	15.7

※選択肢「国内債券投資信託」「その他」は2018年より聴取

〔図 4-5〕

	n=	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	国内債券投資信託	外国債券投資信託	国内不動産投信(リート)に投資する投資信託	ETF	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信(リート)	その他	不明・回答拒否 (%)
TOTAL	(4675)	54.4	43.6	25.6	18.4	17.7	12.4	9.5	9.2	5.8	0.4	9.2
性別 男性	(2910)	57.9	48.1	25.5	19.7	19.2	14.3	12.5	10.3	7.0	0.4	6.6
性別 女性	(1765)	48.6	36.1	25.7	16.3	15.2	9.3	4.4	7.3	3.9	0.4	13.4
年代別 20代	(521)	57.6	50.3	18.8	20.3	16.5	9.8	11.5	6.1	6.1	0.2	6.9
年代別 30代	(738)	56.4	52.6	19.1	18.3	14.6	9.5	14.8	7.3	5.6	0.3	6.9
年代別 40代	(946)	58.7	50.7	27.6	21.0	19.3	12.4	12.2	8.6	6.0	0.4	6.9
年代別 50代	(770)	55.8	42.9	28.7	20.5	17.1	13.1	7.4	10.4	5.7	1.0	8.2
年代別 60代	(909)	50.8	38.1	29.6	15.0	19.1	15.3	7.0	10.2	6.3	0.0	11.9
年代別 70代	(791)	47.8	29.5	25.9	16.1	18.2	13.0	4.8	11.4	5.3	0.6	13.3
世帯年収別 100万円未満	(124)	47.6	41.9	25.0	22.6	23.4	15.3	11.3	10.5	10.5	0.0	9.7
世帯年収別 ~300万円未満	(542)	47.0	35.1	22.3	13.8	17.2	10.7	7.0	9.4	5.0	0.4	12.9
世帯年収別 ~500万円未満	(1049)	53.3	42.4	22.9	16.0	16.0	10.2	7.6	7.3	4.1	0.3	7.4
世帯年収別 ~1000万円未満	(1705)	58.9	48.5	27.2	19.7	17.8	13.4	10.6	8.6	5.8	0.4	5.6
世帯年収別 1000万円以上	(677)	61.2	49.9	30.3	26.4	22.6	16.7	14.2	13.3	9.5	0.6	4.9

〔図 4-6〕【投資信託の保有種類別回答者数と、平均保有数】

	国内株式投資信託	外国株式投資信託	分散型投資信託	国内債券投資信託	外国債券投資信託	国内不動産投信(リート)に投資する投資信託	ETF	外国の不動産投信に投資する投資信託	国内不動産投信(リート)	その他	平均保有数(種類) ※2
2020年 TOTAL(n=4247) ※1	2541	2039	1195	861	827	581	443	430	273	20	2.17
2019年 TOTAL(n=4064) ※1	2587	1656	1238	873	894	690	379	484	304	22	2.25

(2020年/2019年)

※1 投信保有者(n=4675/4452)から「種類不明・回答拒否」(n=428/388)を控除。

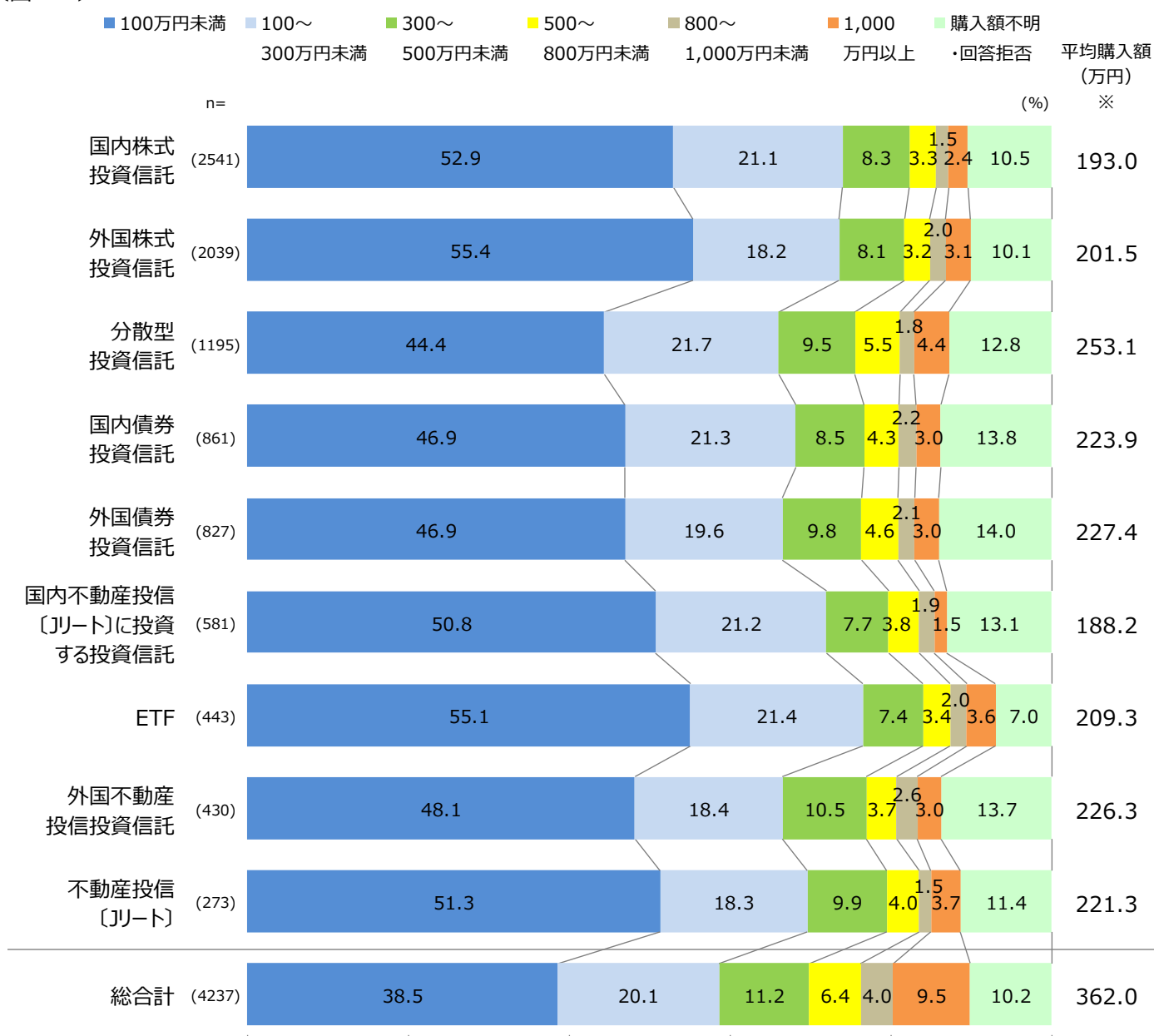
※2 平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、(n=4247/4064) で割って算出。

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(3) 投資信託の購入額〔Q7:単数回答-各種類現在保有層ベース〕

- 現在保有している投資信託の平均購入額は、総合計では「362.0万円」となる。種類別に平均購入額をみると、「分散型投資信託」が253.1万円で最も高く、次いで「外国債券投資信託」が227.4万円、さらに「外国不動産投資信託」が226.3万円、「国内債券投資信託」が223.9万円、「不動産投信」が221.3万円が続く。〔図4-7〕

〔図 4-7〕



※ 平均値は「購入額不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウェイト値は以下の通り

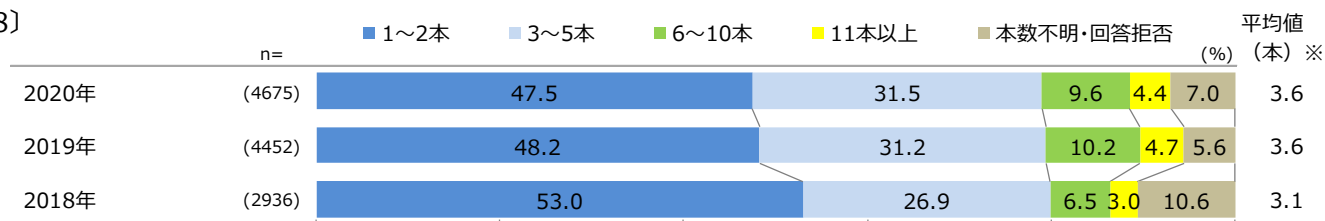
100万円未満：50万円 / 100～300万円未満：200万円 / 300～500万円未満：400万円 / 500～800万円未満：650万円
800～1000万円未満：900万円 / 1000万円以上：1500万円

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

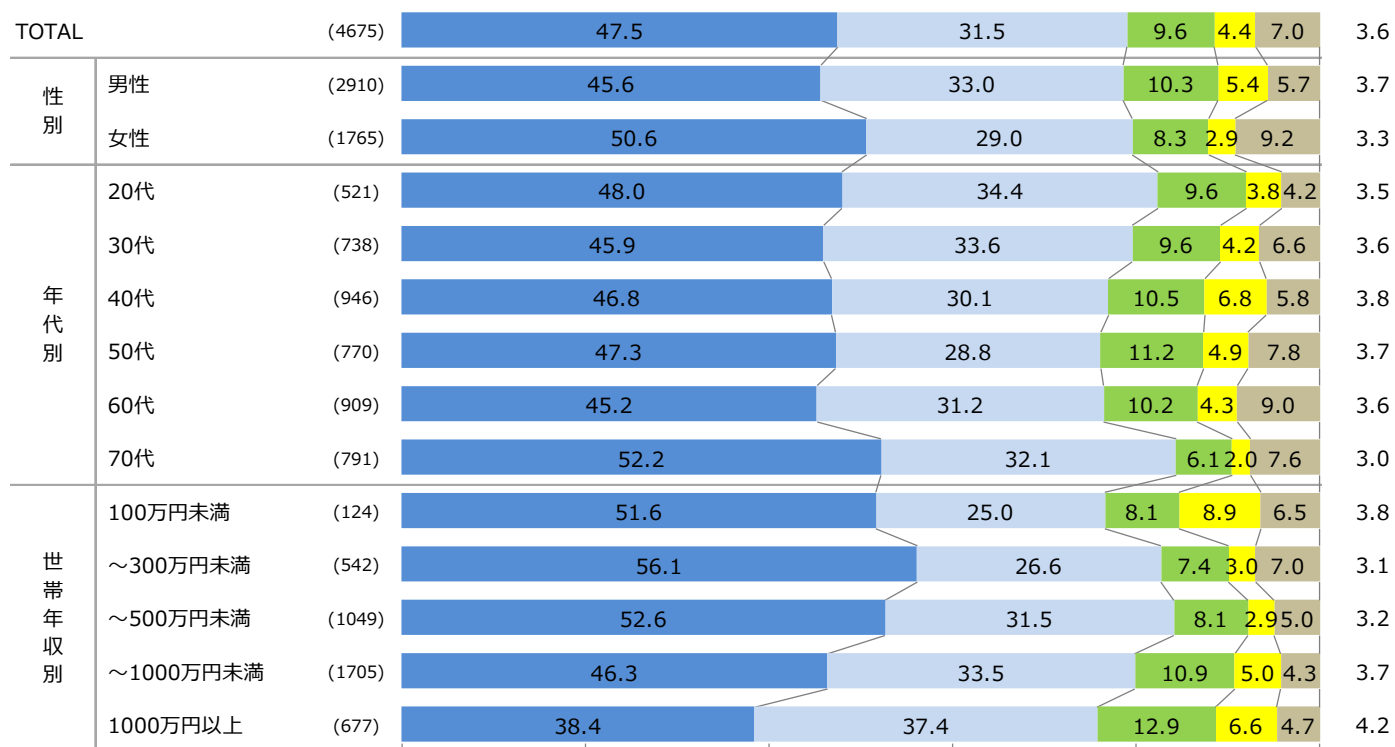
(4) 現在保有している投資信託の本数〔Q4:単数回答〕

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1～2本」(47.5%)が約半数を占める。
平均は3.6本で前回と変わらない。〔図4-8〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では40～50代の平均保有本数がやや多い。また、世帯年収が高いほど多くなる傾向があり、1,000万円以上は平均保有本数(4.2本)となっている。〔図4-9〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で平均保有本数(3.9本)が多い。〔図4-10〕

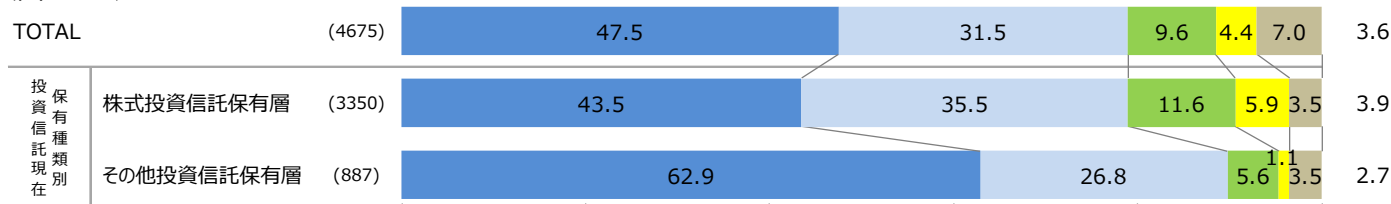
〔図 4-8〕



〔図 4-9〕



〔図 4-10〕



※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

1～2本：1.5本 / 3～5本：4本 / 6～10本：8本 / 11本以上：13本

4. 投資信託保有状況（現在保有層）

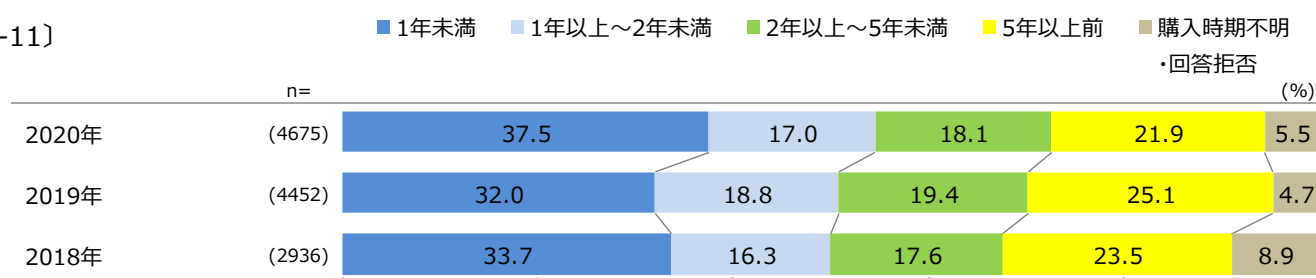
(5) 投資信託商品の直近購入時期〔Q5:単数回答〕

- 直近の購入時期は「1年未満」(37.5%)が最も高く、前回より5.5ポイント増加。〔図4-11〕

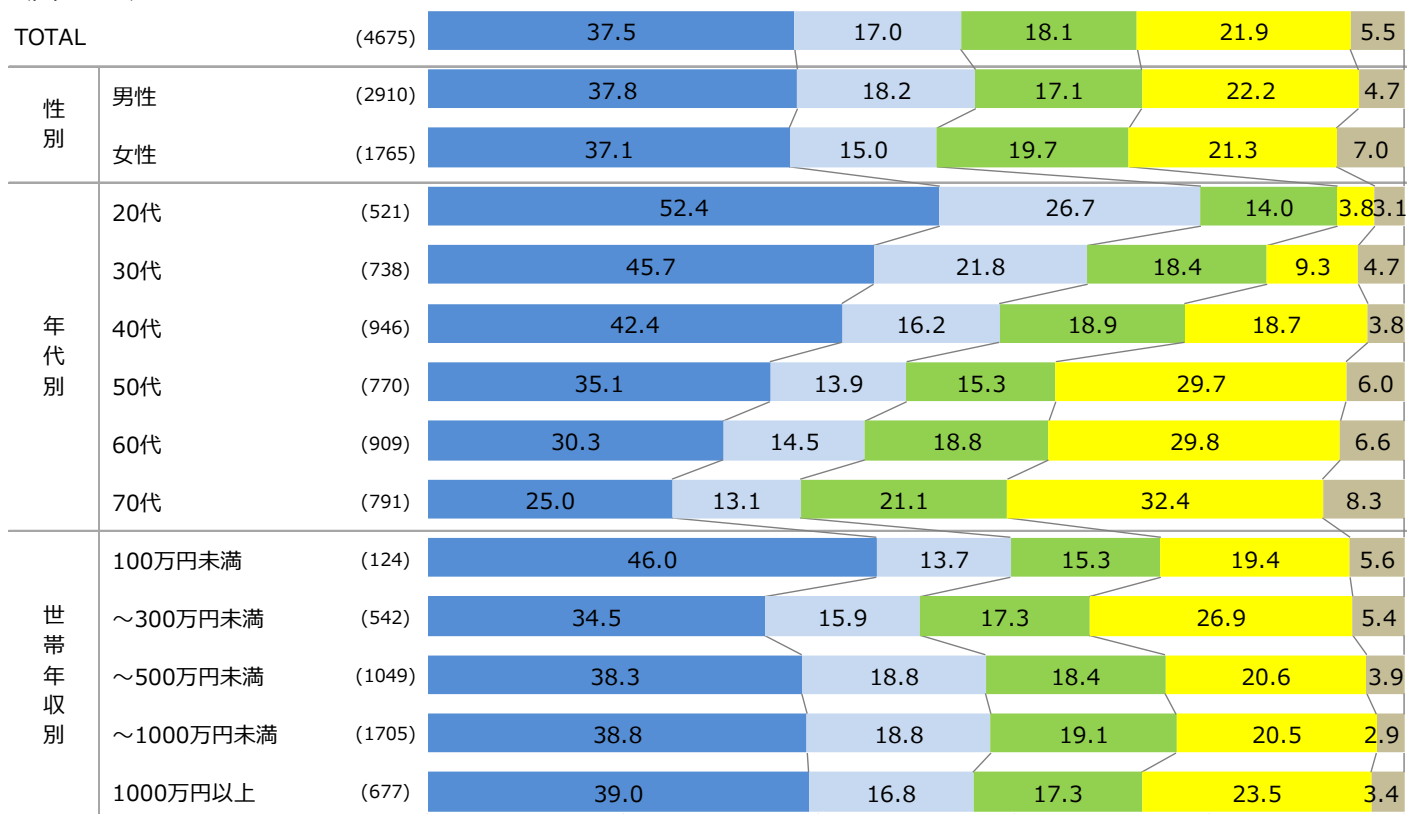
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

- 「1年未満」の購入率は、若年層ほど高くなる。〔図4-12〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で「1年未満」が高い。〔図4-13〕

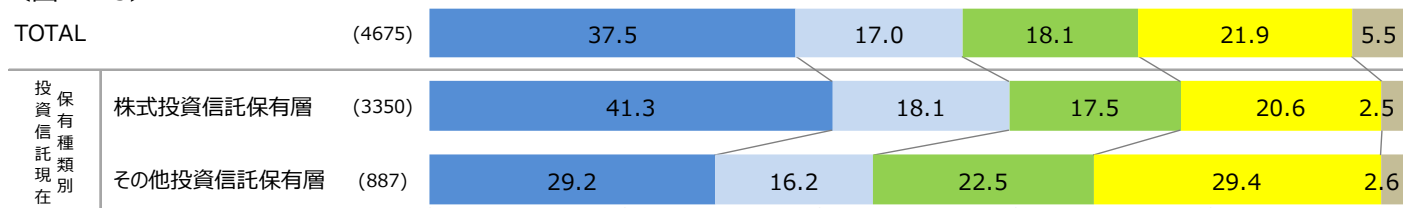
〔図 4-11〕



〔図 4-12〕



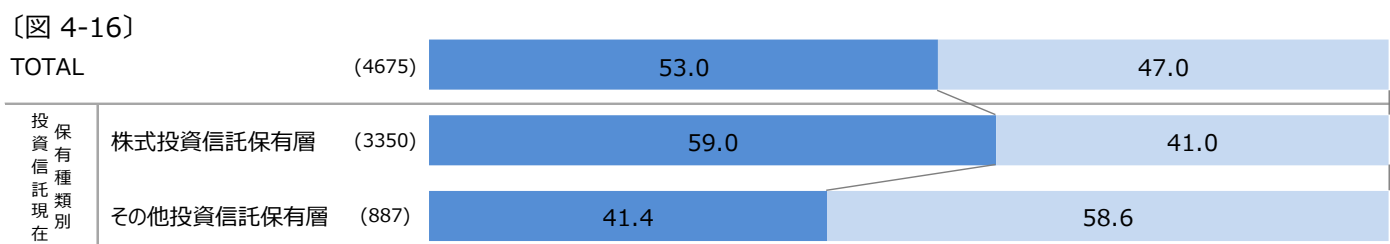
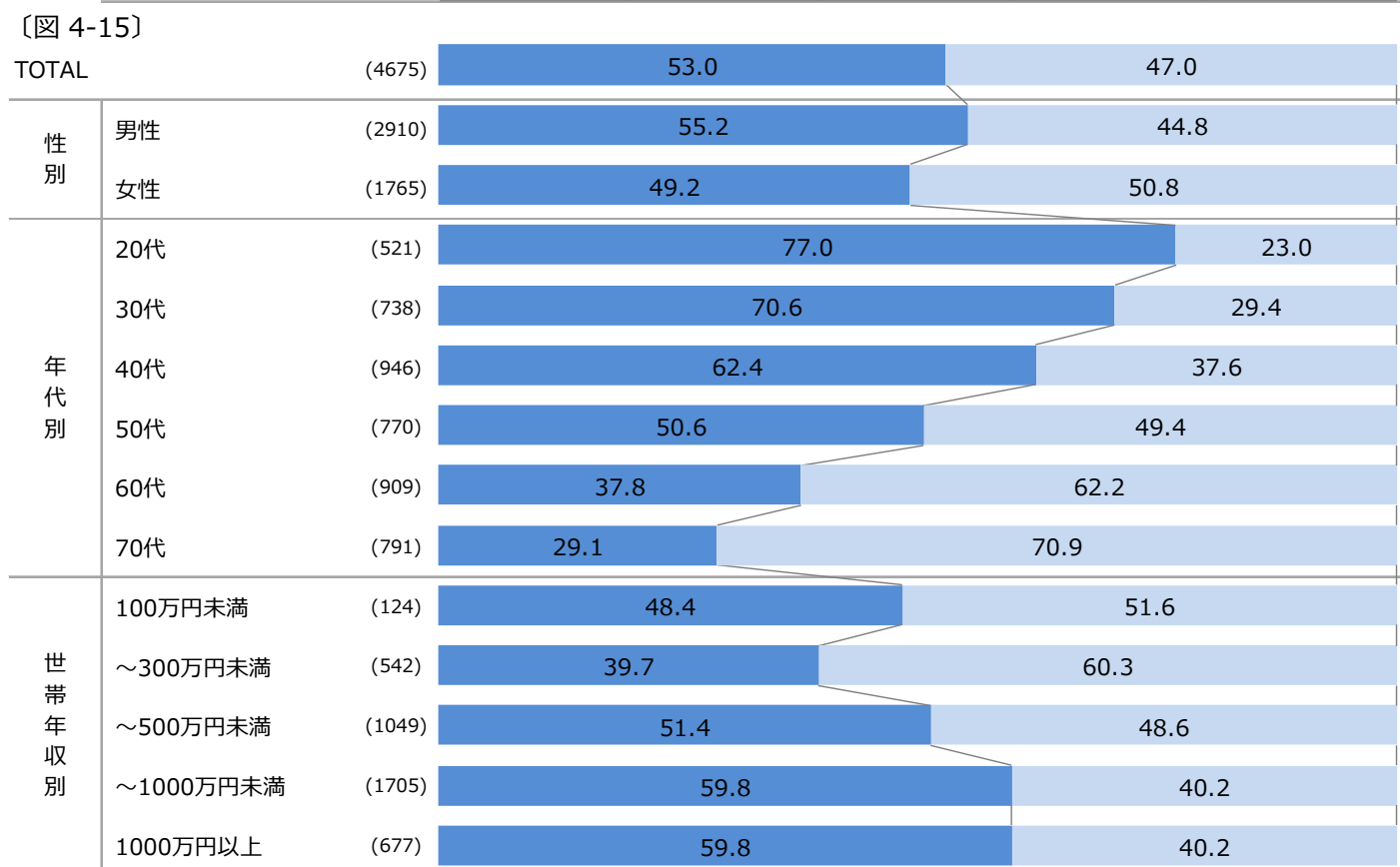
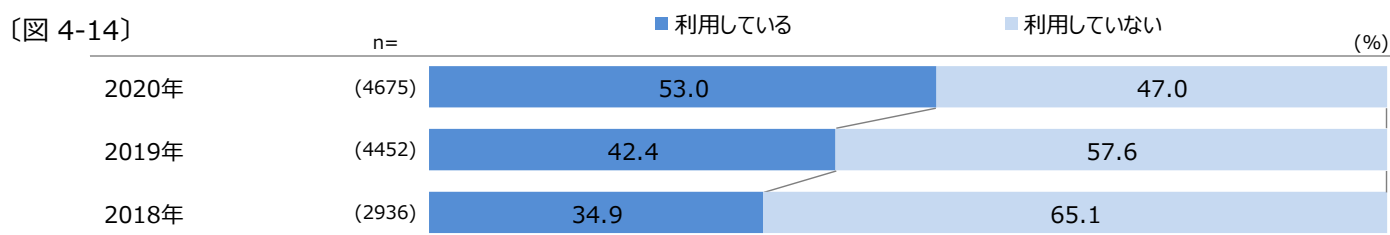
〔図 4-13〕



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

（6）投資信託の積立投資の利用状況〔Q18:単数回答〕

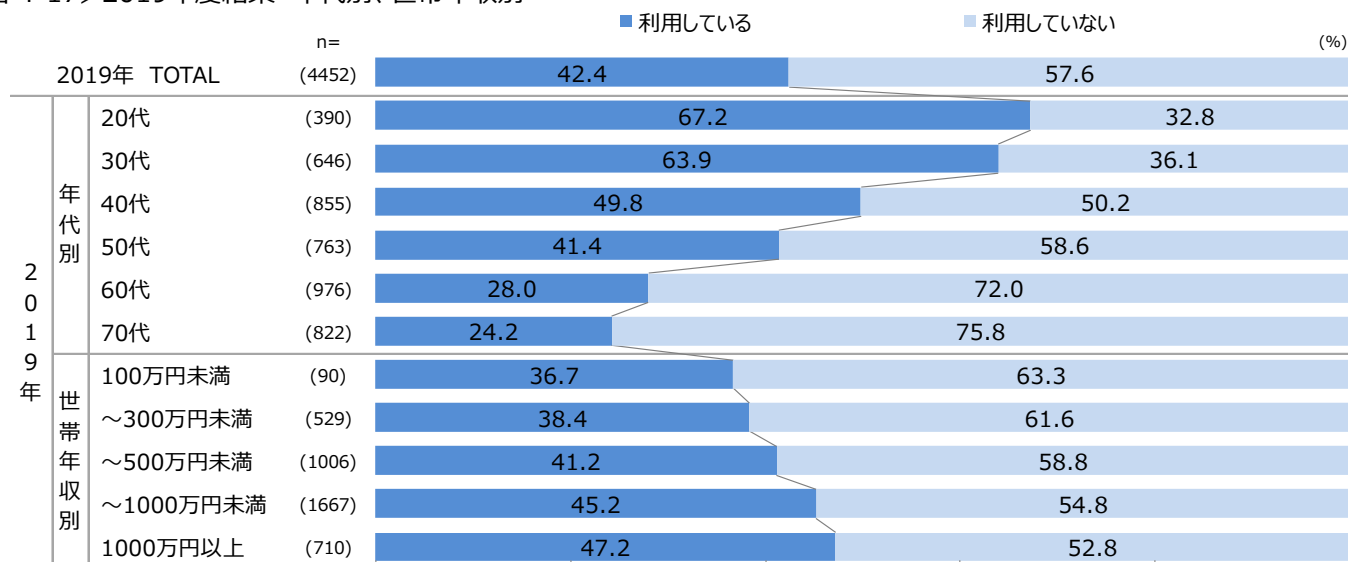
- 積立投資利用率は53.0%。前回と比べて10.6ポイント増加。〔図4-14〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 若年層ほど積立投資利用率は高く、特に20・30代は70%以上と高い。〔図4-15〕
また、全ての年代で利用率が増加している。〔図4-15・図4-17〕
なお、年代構成比では、前回と比べて20代比率が若干増加。全体としては40代以上が6割以上を占める。〔図4-19〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で積立投資利用率が高い。〔図4-16〕



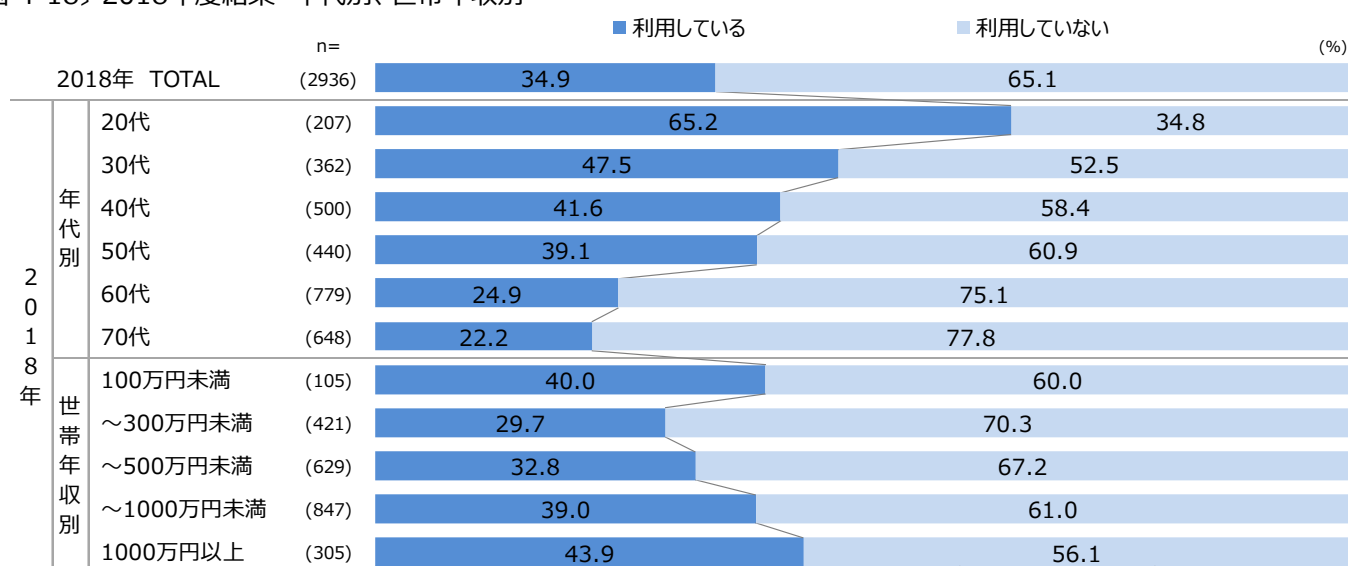
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(6) 投資信託の積立投資の利用状況〔Q18:単数回答〕

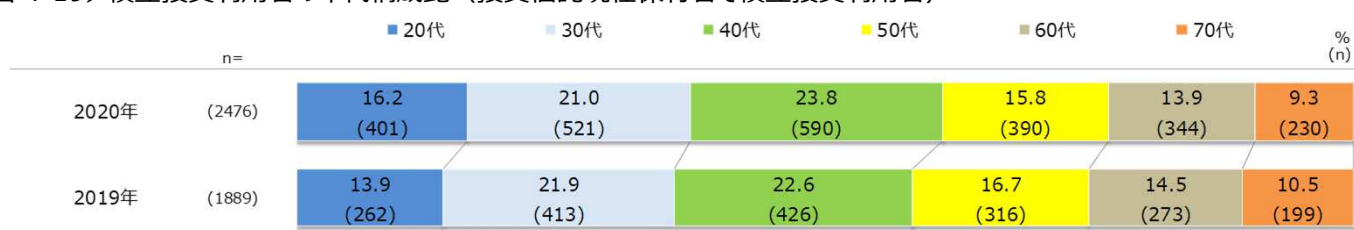
〔図 4-17〕 2019年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 4-18〕 2018年度結果 年代別、世帯年収別



〔図 4-19〕 積立投資利用者の年代構成比（投資信託現在保有者で積立投資利用者）

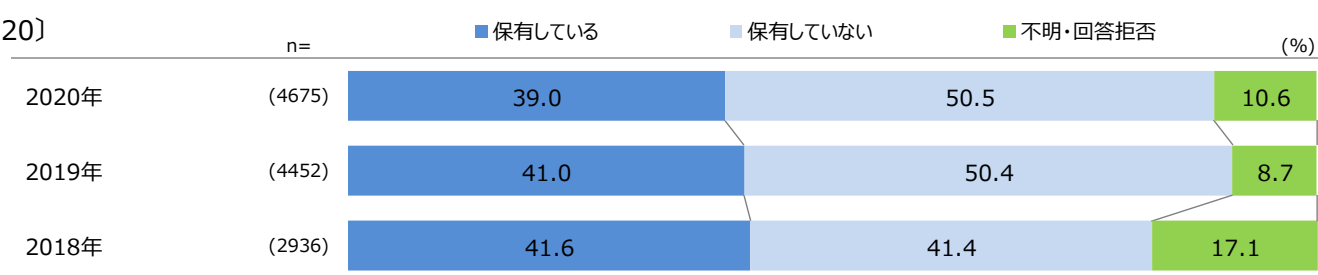


4. 投資信託保有状況（現在保有層）

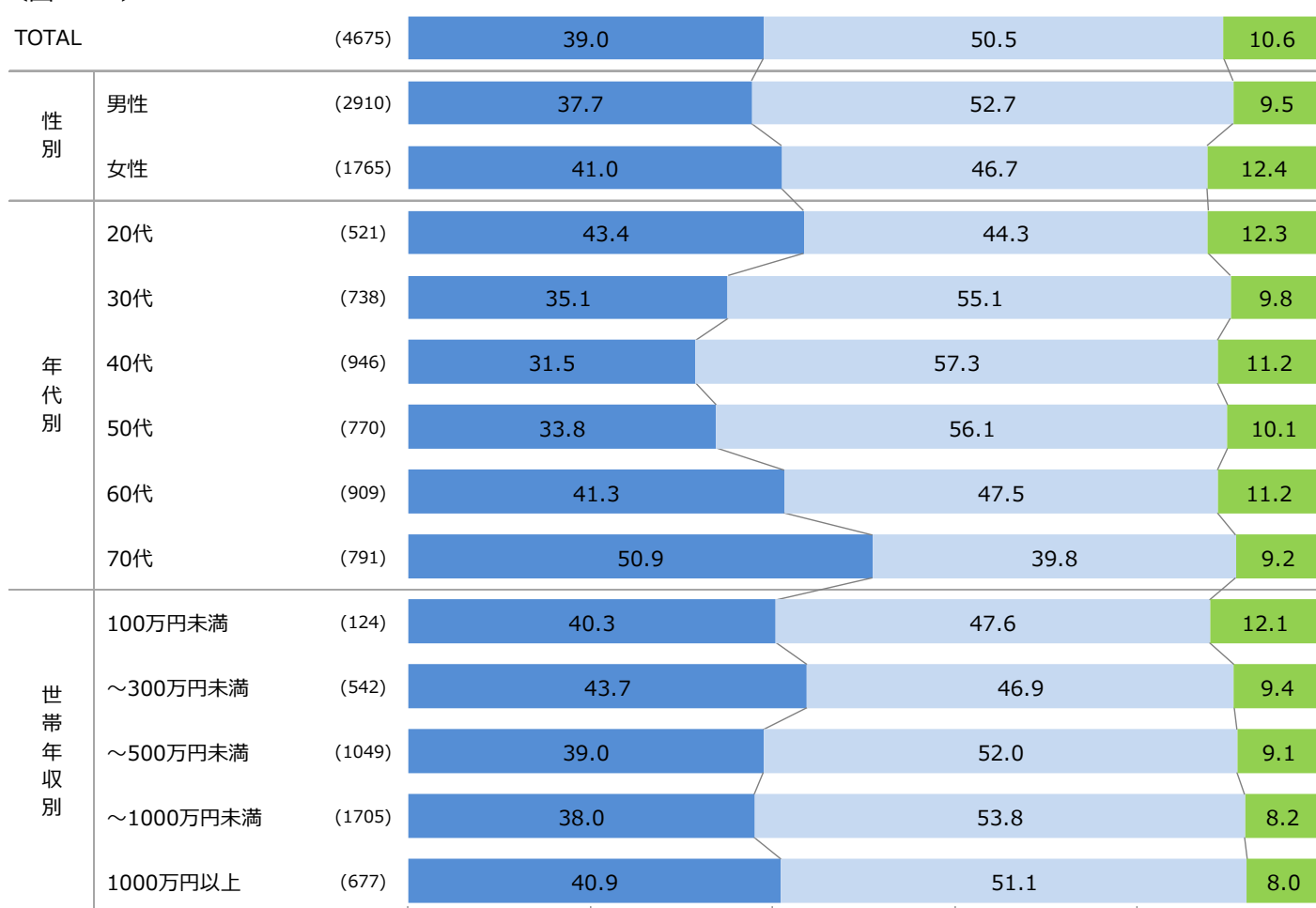
(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

- 現在投資信託保有層のうち、毎月分配型投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する分配方針のもの）の保有率は39.0%と、前回と同程度。〔図4-20〕
- 属性別では、女性(41.0%)の方がやや高い。また40代以上から年代が上がるにつれ保有率が増加する傾向。〔図4-21〕
毎月分配型投信保有者の年代構成比は、前回と比べて20代比率が5.3ポイント増加し、高齢層比率が若干減少しているものの、引き続き50代以上が半数以上占める。〔図4-23〕

〔図 4-20〕



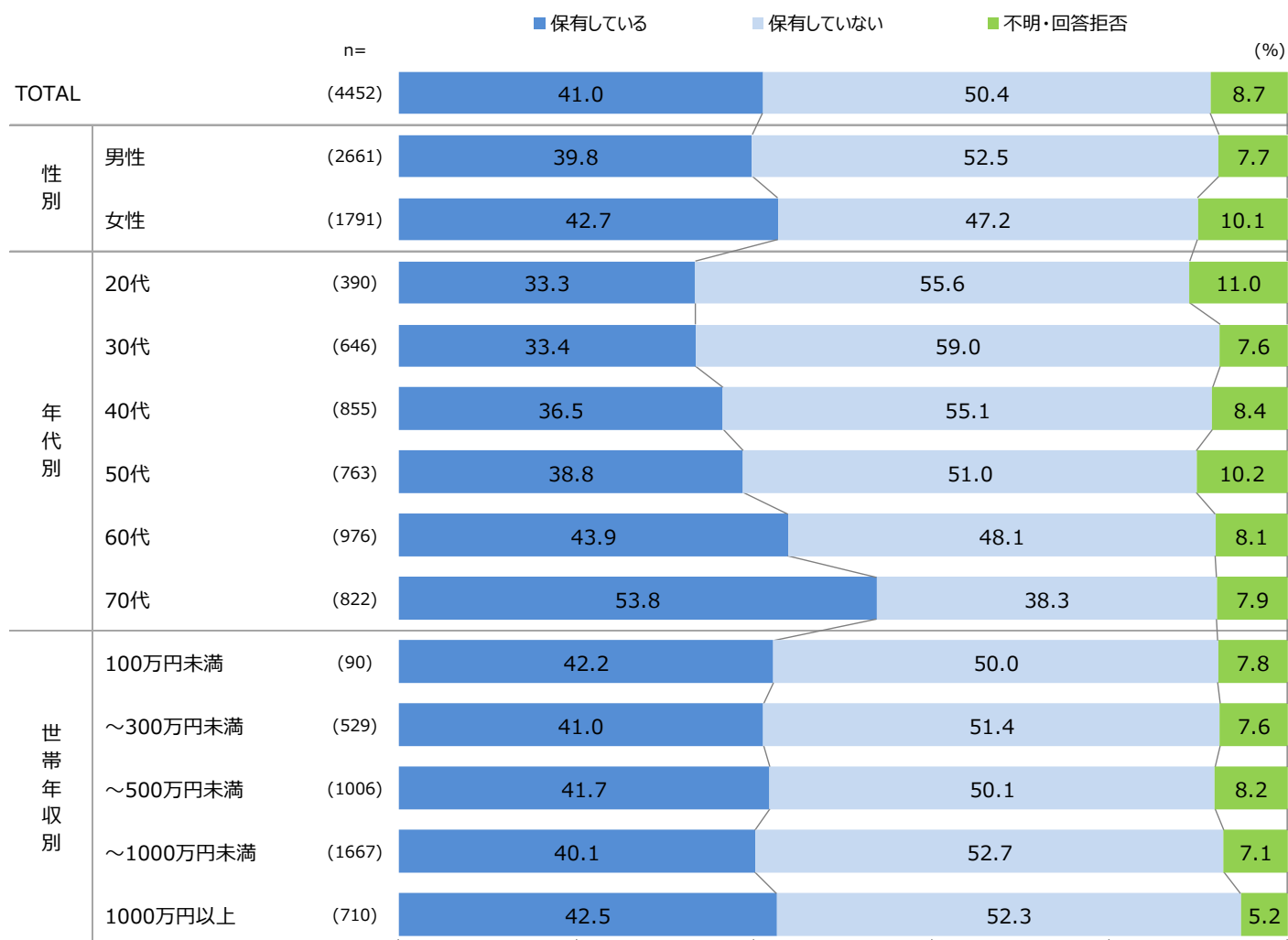
〔図 4-21〕



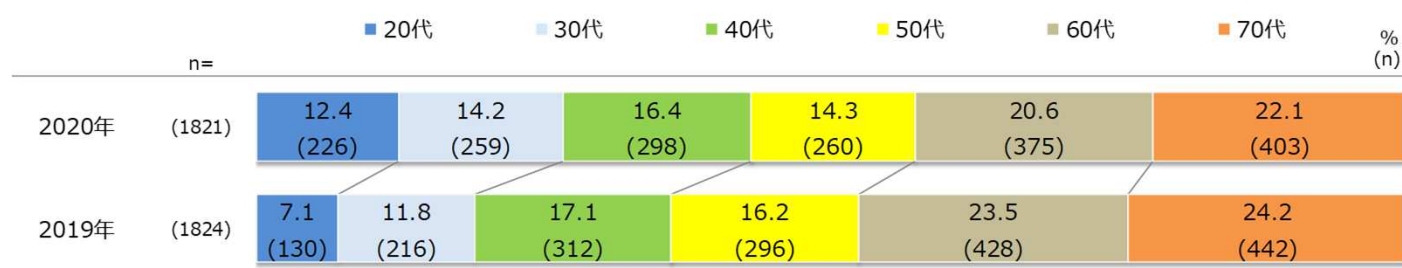
4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

〔図 4-22〕 2019年度結果 性別、年代別、世帯年収別



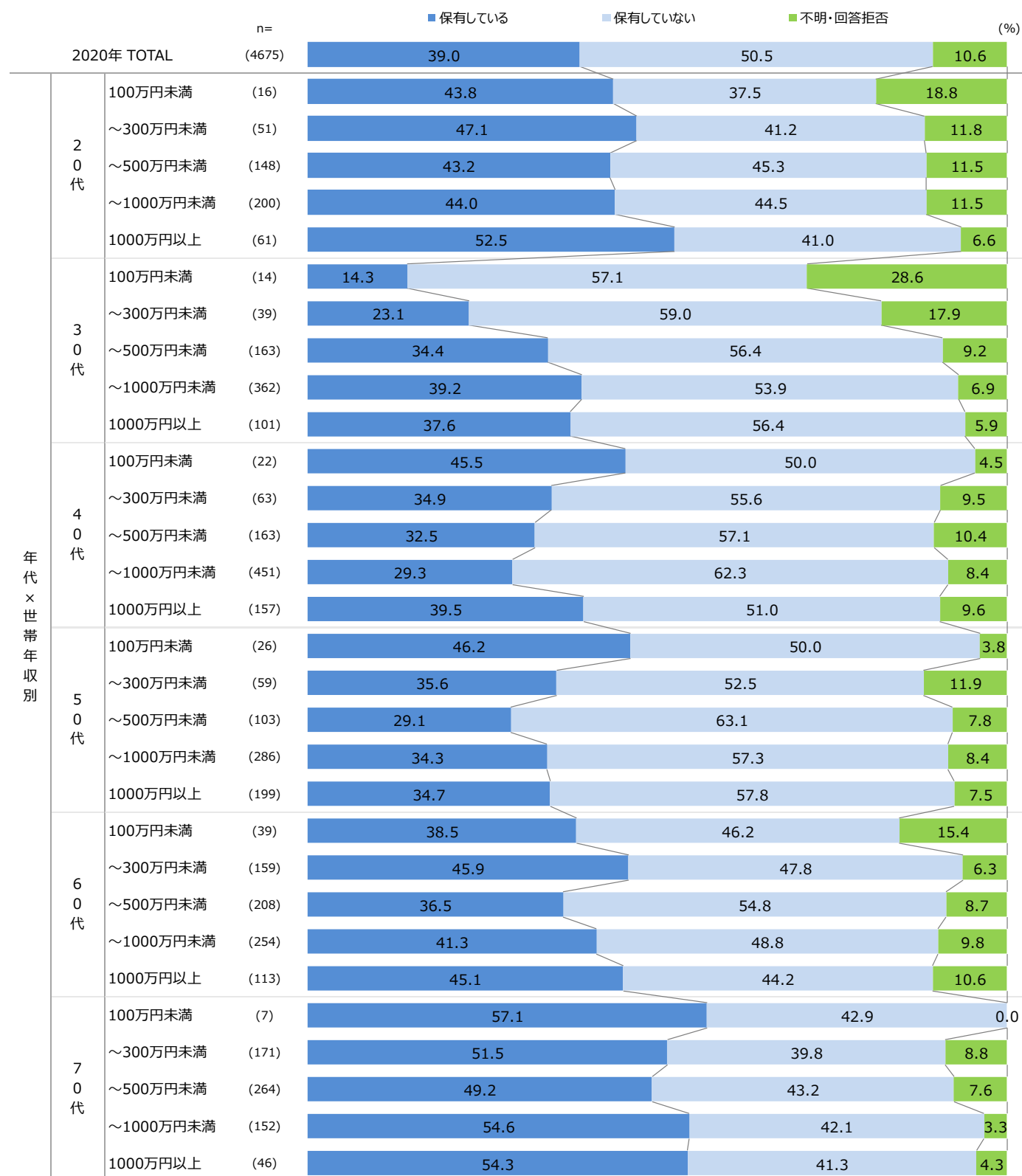
〔図 4-23〕 分配型投資信託保有者の年代構成比（投資信託現在保有者で毎月分配型投資利用者）



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

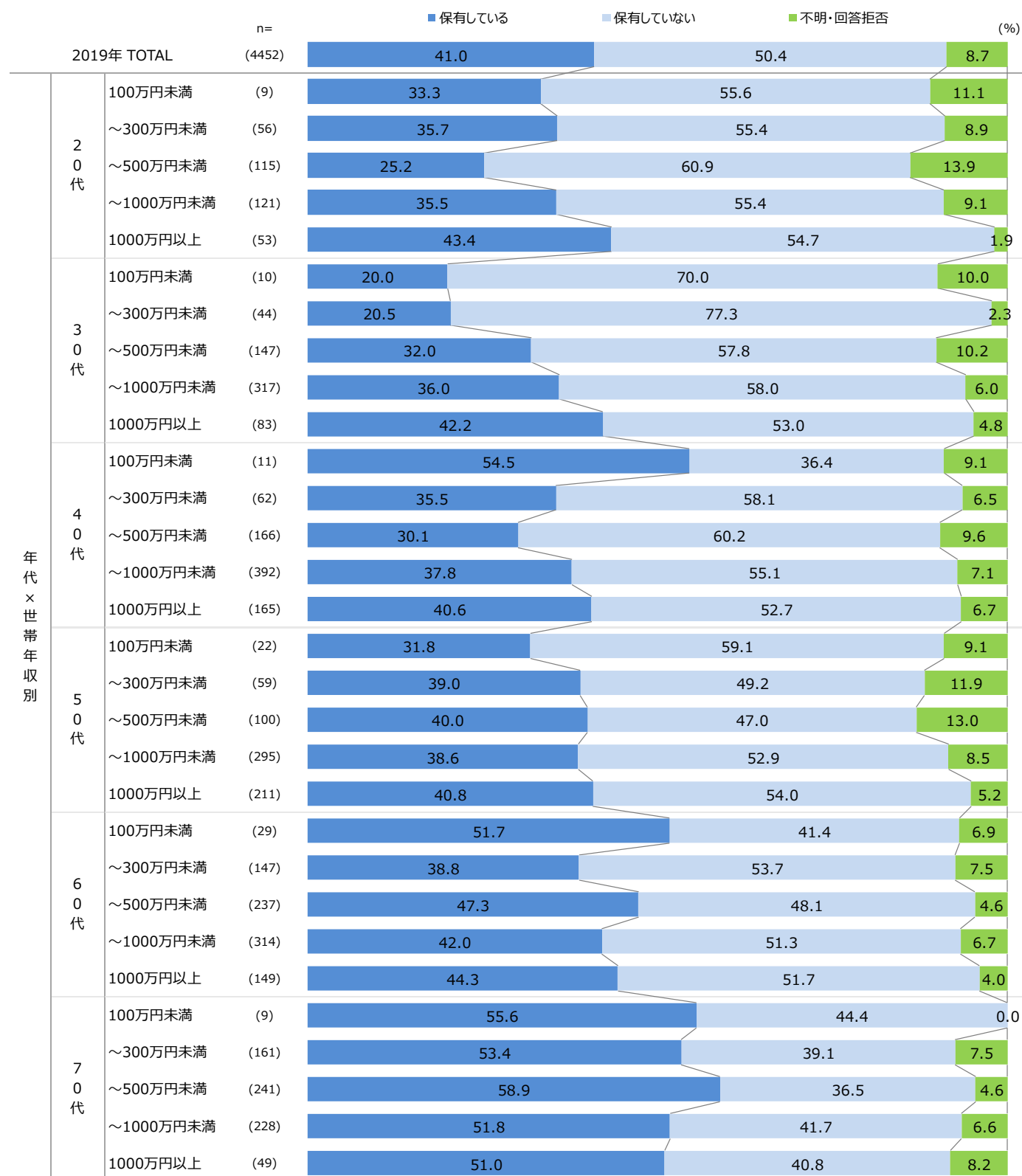
〔図 4-24〕 2020年度結果 年代×世帯年収別



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

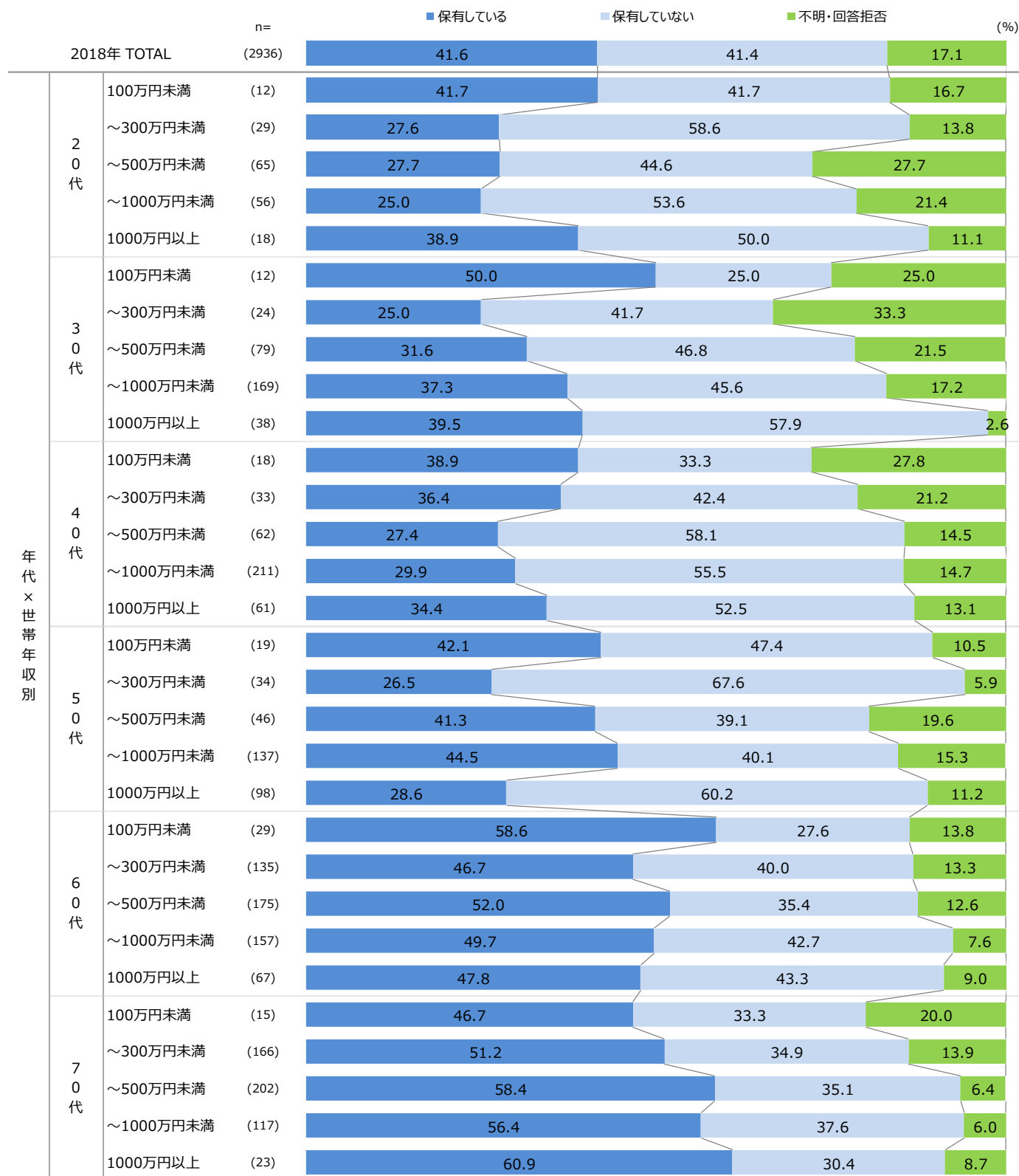
〔図 4-25〕 2019年度結果 年代×世帯年収別



4. 投資信託保有状況（現在保有層）

(7) 毎月分配型投資信託の保有状況〔Q20:単数回答〕

〔図 4-26〕 2018年度結果 年代×世帯年収別



5. 投資信託購入状況 (現在保有層・保有経験層)



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(1) 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

- 興味・関心・購入のきっかけは、「金融機関の人に勧められて」(40.0%)が突出して高い。次いで「インターネットで見たり調べたりして」(25.0%)、「投資信託に関する本を読んで」(12.5%)が続く。〔図5-1〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別でみると、「金融機関の人に勧められて」は50代以上で年代が上がるほど高くなる。また、「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」「少額投資非課税制度が始まったので」は40代以下で、「SNSからの情報を通じて」は20・30代で高い傾向。〔図5-2〕
- 投信現在保有層は、保有経験層に比べて「インターネットで見たり調べたりして」「投資信託に関する本を読んで」「少額投資非課税制度が始まったので」などが高く、「金融機関の人に勧められて」は低い。〔図5-3〕

〔図 5-1〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本を読んで	少額投資非課税制度が始まったので	投資信託の商品広告などを見て	経済的に余裕ができたので	家族や友人などから話を聞いて	景気や市場の状況を見て	DMを見たり電話案内を聞いて	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金2000万円に投資することを選択したことで興味を持った	老後2000万円に関する各種報道を受けて	SNSからの情報を通じて	確定拠出年金で投資を選択したことで	その他 (%)
2020年	(6626)	40.0	25.0	12.5	11.4	10.8	10.2	10.1	8.6	8.5	8.3	6.7	6.6	4.8	3.8	2.2	2.9
2019年	(6449)	42.6	23.0	11.3	9.6	11.2	10.2	10.5	8.2	9.1	9.9	6.5	5.3	2.7	2.4	2.2	2.9
2018年	(4588)	52.5	12.5	7.2	9.9	7.3	13.7	11.6	8.2	5.6	6.2	4.7	6.1	-	-	1.8	3.4

※選択肢「老後2000万円に関する各種報道を受けて」「SNSからの情報を通じて」は2019年より聴取

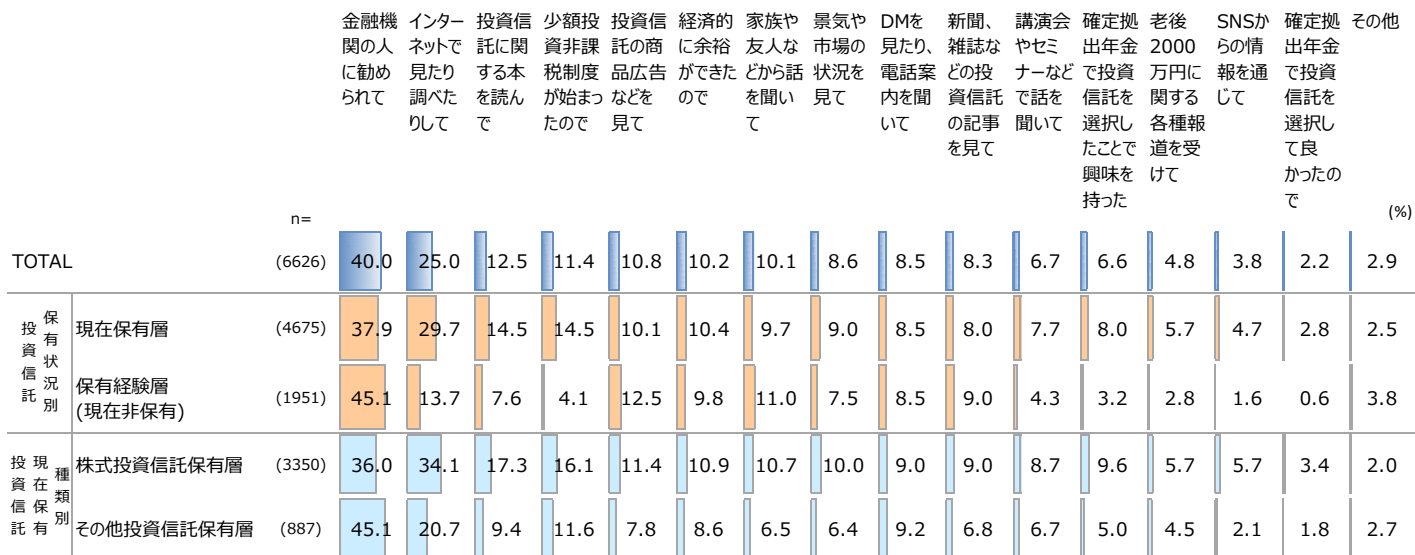
〔図 5-2〕

	n=	金融機関の人に勧められて	インターネットで見たり調べたりして	投資信託に関する本を読んで	少額投資非課税制度が始まったので	投資信託の商品広告などを見て	経済的に余裕ができたので	家族や友人などから話を聞いて	景気や市場の状況を見て	DMを見たり電話案内を聞いて	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	講演会やセミナーなどで話を聞いて	確定拠出年金2000万円に投資することを選択したことで興味を持った	老後2000万円に関する各種報道を受けて	SNSからの情報を通じて	確定拠出年金で投資を選択したことで	その他 (%)
TOTAL	(6626)	40.0	25.0	12.5	11.4	10.8	10.2	10.1	8.6	8.5	8.3	6.7	6.6	4.8	3.8	2.2	2.9
性別																	
男性	(4014)	33.4	30.4	15.4	11.8	12.4	11.5	7.1	10.4	9.8	9.7	7.0	8.8	5.4	4.1	2.8	2.6
女性	(2612)	50.0	16.7	8.1	10.8	8.3	8.3	14.7	5.7	6.5	6.0	6.4	3.1	3.9	3.3	1.2	3.3
年代別																	
20代	(635)	24.1	30.4	14.5	15.7	11.3	9.9	10.9	11.3	14.3	7.2	11.3	9.0	9.0	13.4	5.2	3.0
30代	(853)	23.0	40.0	21.0	16.9	11.7	11.5	12.5	11.4	10.9	8.2	7.7	10.6	8.3	9.3	4.6	1.4
40代	(1204)	24.5	39.0	19.0	15.4	11.3	7.3	11.0	8.6	7.9	8.2	6.4	9.0	7.4	5.1	2.4	2.6
50代	(1112)	36.3	26.2	11.2	9.8	12.3	8.8	8.1	7.8	7.0	9.2	5.3	8.8	4.0	1.5	2.3	2.8
60代	(1432)	52.1	16.7	8.7	8.9	8.8	12.5	9.4	7.5	6.6	7.3	6.4	3.8	2.4	0.3	0.9	3.4
70代	(1390)	61.5	9.0	5.8	6.5	10.4	10.9	9.7	7.2	8.0	9.1	5.8	2.0	1.7	0.4	0.4	3.7
世帯年収別																	
100万円未満	(194)	36.6	27.8	12.4	6.7	9.3	5.2	7.2	7.7	6.2	6.7	6.2	2.6	3.1	1.0	1.5	3.6
～300万円未満	(846)	48.8	18.8	8.5	9.1	9.5	10.0	8.6	7.4	6.7	6.6	7.1	3.7	3.8	2.2	1.4	3.2
～500万円未満	(1553)	43.5	23.2	12.1	10.6	11.7	10.6	9.7	6.9	9.1	8.2	5.9	4.9	5.0	3.3	1.4	3.1
～1000万円未満	(2277)	33.9	29.5	14.3	12.9	11.5	10.1	10.3	9.5	9.0	9.0	7.7	8.6	5.5	4.9	2.7	2.5
1000万円以上	(847)	37.8	28.6	15.7	12.6	12.5	13.7	10.9	11.2	11.5	10.2	8.0	10.9	4.8	4.8	4.4	2.1

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(1) 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ〔Q8：重複回答〕

〔図 5-3〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(2) 投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

- 投資信託の購入目的は、「老後の生活資金」(51.3%)が最も高く、次いで「資産のリスク分散」(24.6%)、「金銭的に余裕ある生活をするため」(20.8%)、「金融・経済・投資の勉強のため」(15.1%)が多く、それぞれ前回と同程度。〔図5-4〕
- 年代別では、40～70代で「老後の生活資金」が50%以上と高い。「金銭的に余裕ある生活をするため」「金融・経済・投資の勉強のため」「子供又は孫のための教育などの資金」は若年層ほど高い傾向。〔図5-5〕
- 投信現在保有層では、「老後の生活資金」「資産のリスク分散」が高い。〔図5-6〕

〔図 5-4〕

	n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい (%)
2020年	(6626)	51.3	24.6	20.8	15.1	9.3	7.6	7.1	5.1	4.9	3.7	3.0	1.6	1.2	16.4
2019年	(6449)	50.1	24.8	19.9	14.0	9.8	6.4	7.8	5.0	4.6	3.5	2.3	1.4	1.0	18.0

〔図 5-5〕

		n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい (%)
TOTAL		(6626)	51.3	24.6	20.8	15.1	9.3	7.6	7.1	5.1	4.9	3.7	3.0	1.6	1.2	16.4
性別	男性	(4014)	51.6	27.4	22.3	17.1	9.2	7.3	7.7	5.4	6.0	4.5	3.5	2.1	1.1	15.0
	女性	(2612)	51.0	20.4	18.6	12.0	9.3	8.0	6.0	4.6	3.3	2.3	2.1	0.9	1.3	18.5
年代別	20代	(635)	37.5	25.2	27.1	23.8	10.4	12.0	13.5	7.4	12.1	10.7	15.1	4.9	0.6	12.1
	30代	(853)	49.7	26.5	30.7	24.0	12.1	13.6	9.4	5.2	9.7	7.3	6.1	2.9	0.5	12.2
	40代	(1204)	52.6	25.4	21.3	20.1	10.0	11.5	6.9	4.2	4.6	4.1	2.2	1.8	0.6	16.2
	50代	(1112)	54.5	23.7	18.0	11.4	8.6	4.8	4.8	3.4	3.2	2.0	0.9	0.7	1.0	17.2
	60代	(1432)	55.7	24.7	19.3	9.6	7.1	3.6	5.2	4.9	2.9	1.4	0.5	0.7	1.5	16.6
	70代	(1390)	50.6	23.3	15.3	9.9	9.1	4.8	6.5	6.1	2.4	1.5	0.4	0.7	2.3	20.2
世帯年収別	100万円未満	(194)	46.4	20.1	14.4	13.4	8.2	3.6	3.6	1.0	3.6	2.6	4.6	0.5	2.6	18.0
	～300万円未満	(846)	52.2	19.5	16.5	12.1	9.3	3.5	5.3	3.8	2.8	2.0	2.7	1.3	1.4	17.1
	～500万円未満	(1553)	51.9	23.1	19.2	14.4	9.4	6.6	6.8	4.4	4.1	3.7	2.8	1.9	1.2	16.3
	～1000万円未満	(2277)	53.1	25.7	24.0	16.8	9.2	10.4	8.3	6.0	7.0	4.4	3.8	1.6	1.1	13.0
	1000万円以上	(847)	56.0	34.9	24.7	18.1	10.9	10.4	9.2	7.8	6.3	5.9	3.1	2.8	0.8	12.3

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(2) 投資信託の購入目的〔Q9：重複回答〕

〔図 5-6〕

		n=	老後の生活資金	資産のリスク分散	金銭的に余裕のある生活をするため	金融・経済・投資の勉強のため	不測の事態への備え	子供又は孫のための教育などの資金	レジャー資金	子供や孫に十分な資産を残したいため	住宅資金	高額商品の購入資金	結婚資金	事業用資金	その他	目的はないが資金を増やしたい (%)
TOTAL		(6626)	51.3	24.6	20.8	15.1	9.3	7.6	7.1	5.1	4.9	3.7	3.0	1.6	1.2	16.4
保有状況別 投資信託	現在保有層	(4675)	57.9	27.5	21.8	16.0	10.3	8.1	7.0	5.7	4.9	3.9	3.3	1.6	1.0	14.0
	保有経験層 (現在非保有)	(1951)	35.5	17.8	18.6	12.8	6.8	6.2	7.3	3.6	4.9	3.1	2.1	1.6	1.7	22.0
現在保有種類別 投資信託	株式投資信託保有層	(3350)	60.5	30.7	24.5	19.0	10.8	9.3	8.0	6.4	6.0	4.4	3.9	1.9	0.8	11.6
	その他投資信託保有層	(887)	56.1	23.8	17.0	10.1	10.1	5.5	4.5	4.3	2.8	3.3	2.5	1.0	1.0	13.5

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

- 購入時参考情報は、「販売用資料」(30.4%)、「目論見書・運用報告書」(28.8%)、「投資信託を販売している会社のHP」(28.7%)が30%前後で上位。〔図5-7〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 若年層は、インターネット経由やSNSからの情報が高い。一方、「金融機関の担当者の話」は高齢層ほど高い。〔図5-8〕
- 投信現在保有種類別では、株式投信保有層で「投資に関する情報サイト」「投信を販売している会社のHP」「その他のインターネットの情報サイト」「投資信託や資産運用に関する本」「SNSからの情報」が高く、その他投信保有層は「金融機関の担当者の話」が高い。〔図5-9〕

〔図 5-7〕

	n=	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	金融機関の担当者の話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	その他のインターネットの情報サイト	新聞	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	親族や友人の話	SNSからの情報	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	その他	特になし
2020年	(6626)	30.4	28.8	28.7	22.4	16.2	15.2	13.8	11.5	11.0	10.4	8.0	6.2	5.3	5.1	4.8	0.5	13.8
2019年	(6449)	30.7	28.7	28.0	24.5	15.5	15.5	11.6	12.8	11.1	9.2	8.2	4.2	5.4	5.3	4.9	0.4	15.1
2018年	(4588)	30.0	21.6	21.3	35.6	9.6	11.3	8.7	11.2	8.6	8.1	10.5	-	5.4	4.4	3.9	0.7	13.8

※選択肢「SNSからの情報」は2019年より聴取

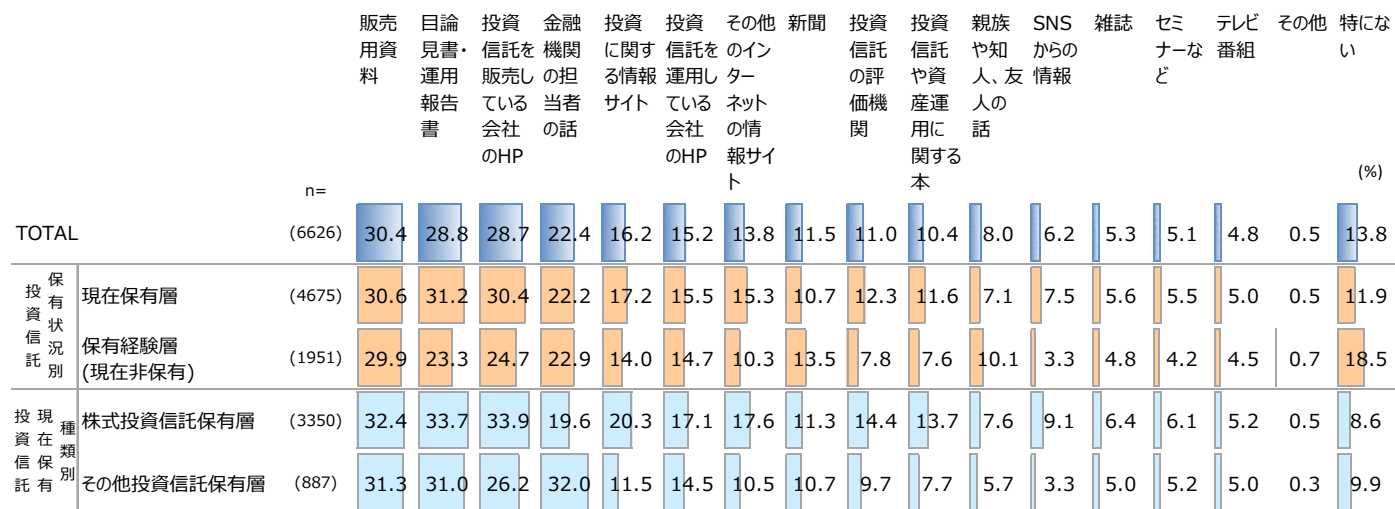
〔図 5-8〕

	n=	販売用資料	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	金融機関の担当者の話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	その他のインターネットの情報サイト	新聞	投資信託の評価機関	投資信託や資産運用に関する本	親族や友人の話	SNSからの情報	雑誌	セミナーなど	テレビ番組	その他	特になし	
TOTAL	(6626)	30.4	28.8	28.7	22.4	16.2	15.2	13.8	11.5	11.0	10.4	8.0	6.2	5.3	5.1	4.8	0.5	13.8	
性別																			
男性	(4014)	29.9	33.4	31.0	15.1	19.0	17.7	14.9	12.4	12.9	12.0	5.0	6.7	6.2	5.1	4.8	0.6	13.2	
女性	(2612)	31.1	21.8	25.1	33.7	11.9	11.5	12.1	10.2	8.2	8.1	12.6	5.5	4.1	5.2	4.9	0.4	14.8	
年代別																			
20代	(635)	28.8	29.3	30.1	7.6	17.8	16.7	14.2	12.1	11.8	12.9	9.9	20.5	6.6	4.3	6.5	0.5	10.6	
30代	(853)	26.0	31.4	32.8	10.1	20.5	17.5	21.2	10.0	13.2	17.9	10.0	13.6	6.9	5.6	4.9	0.8	10.0	
40代	(1204)	28.3	31.7	34.0	11.9	20.7	19.0	19.9	9.1	12.5	14.0	7.6	8.1	7.6	3.8	4.4	0.4	12.6	
50代	(1112)	29.8	29.0	30.0	19.4	18.3	15.3	14.7	9.3	11.5	10.1	7.0	3.2	7.0	4.2	3.6	0.5	13.7	
60代	(1432)	35.8	26.9	25.3	32.0	13.4	12.6	10.3	12.4	10.2	6.8	7.0	1.3	3.6	5.7	5.3	0.3	15.9	
70代	(1390)	30.4	26.4	23.3	38.5	10.3	12.7	6.7	15.3	8.4	5.6	8.2	1.1	2.3	6.6	4.9	0.6	16.8	
世帯年収別																			
100万円未満	(194)	26.3	30.9	27.8	16.0	16.0	15.5	10.8	4.6	9.8	4.1	6.7	3.1	3.1	3.6	3.6	1.0	19.6	
～300万円未満	(846)	29.9	24.5	25.2	27.5	12.4	13.0	11.9	10.4	10.6	8.9	6.6	3.0	4.6	5.7	5.3	0.2	16.8	
～500万円未満	(1553)	28.7	26.0	27.0	24.3	15.4	13.6	13.7	12.4	9.6	8.6	7.3	5.6	4.2	4.8	5.0	0.5	14.8	
～1000万円未満	(2277)	31.9	32.1	32.1	18.1	18.6	17.4	15.1	11.4	12.5	12.9	8.3	8.2	6.0	5.1	4.2	0.5	10.4	
1000万円以上	(847)	32.3	35.4	31.9	20.5	20.3	18.3	16.1	14.4	13.3	11.7	9.7	8.3	8.3	6.8	5.4	0.9	9.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(3) 投資信託購入時参考情報〔Q11：重複回答〕

〔図 5-9〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10①：最大3項目回答〕

- 購入時重視点は、「過去の運用実績」(37.1%)で最も高く、次いで「値上がりへの期待」(32.9%)、さらに「値下がりの不安が少ない」(26.6%)が続く。〔図5-10〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別でみると、「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」は若年層ほど重視率が高い傾向。高齢層は「換金のしやすさ」「過去の分配金額」が高い傾向。〔図5-11〕
- 投信保有経験層では「値下がりの不安が少ない」が高い。また、株式投信保有層では「過去の運用実績」「値上がりへの期待」「手数料や運用管理費用の水準」が他層に比べて高い。〔図5-12〕

〔図 5-10〕

	n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	分配頻度	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな	(%)
2020年	(6626)	37.1	32.9	26.6	23.7	18.7	11.0	10.6	10.6	8.2	7.1	5.9	4.7	3.5	0.7	11.9	
2019年	(6449)	35.2	33.8	26.5	22.6	17.6	10.8	10.4	11.4	10.1	6.2	5.6	4.7	2.9	0.4	12.8	
2018年	(4588)	29.1	32.3	24.0	13.2	21.5	9.1	10.7	7.8	10.9	4.8	7.8	5.8	-	1.9	12.1	

※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取、「社会性が高い企業が投資先」は2019年より聴取

〔図 5-11〕

TOTAL		(6626)	37.1	32.9	26.6	23.7	18.7	11.0	10.6	10.6	8.2	7.1	5.9	4.7	3.5	0.7	11.9
性別	男性	(4014)	40.8	34.9	23.7	25.0	17.1	11.2	10.3	9.7	8.0	7.9	6.4	4.3	2.9	0.6	11.5
	女性	(2612)	31.5	30.0	31.0	21.7	21.3	10.6	11.0	11.9	8.5	5.9	5.1	5.3	4.5	0.9	12.5
年代別	20代	(635)	41.4	27.6	29.8	26.3	20.6	11.0	7.1	7.9	5.2	6.5	4.6	3.3	3.0	0.0	9.6
	30代	(853)	39.7	33.1	24.3	30.7	17.2	7.7	6.6	8.9	5.6	8.0	6.3	3.0	2.9	0.5	10.8
	40代	(1204)	39.1	30.6	25.5	30.0	23.6	7.9	9.1	10.5	6.7	9.2	7.0	4.9	2.5	0.3	10.0
	50代	(1112)	35.7	32.3	26.0	25.8	20.2	9.3	8.8	12.0	8.1	6.7	5.8	4.7	3.6	1.5	12.2
	60代	(1432)	37.8	34.7	26.7	21.2	14.9	12.3	12.8	11.7	9.6	6.4	5.9	5.7	4.2	0.3	12.8
	70代	(1390)	32.2	36.0	27.8	13.7	17.4	15.5	15.0	10.6	11.1	6.2	5.4	5.1	4.3	1.2	13.9
世帯年収別	100万円未満	(194)	34.5	33.5	25.8	21.6	14.4	7.7	10.3	8.2	7.2	9.3	5.7	5.7	1.5	0.0	16.5
	～300万円未満	(846)	30.4	31.6	27.0	17.5	21.5	13.1	11.5	9.0	10.2	5.2	5.9	3.5	2.8	0.8	13.9
	～500万円未満	(1553)	34.8	33.5	27.4	21.9	20.5	12.2	11.0	10.8	8.2	6.6	5.9	5.2	3.8	0.6	10.9
	～1000万円未満	(2277)	41.5	34.1	26.4	28.1	18.4	10.3	9.7	11.3	8.0	8.3	6.9	4.5	3.2	0.8	8.6
	1000万円以上	(847)	44.9	34.9	26.6	26.7	15.6	9.9	10.6	12.0	7.3	8.5	6.0	4.8	3.8	0.4	9.3

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（4）投資信託購入の際の重視点〔Q10①：最大3項目回答〕

〔図 5-12〕

		n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費の水準	少額から投資できる	換金のしやすさ	過去の分配金額	商品内容のわかりやすさ	分配頻度	純資産額の大きさ	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	特にな
			(%)														
TOTAL		(6626)	37.1	32.9	26.6	23.7	18.7	11.0	10.6	10.6	8.2	7.1	5.9	4.7	3.5	0.7	11.9
投資信託 保有状況別	現在保有層	(4675)	38.1	32.8	24.5	26.7	19.0	9.1	10.3	10.4	8.6	8.5	7.0	4.9	3.3	0.6	11.0
	保有経験層 (現在非保有)	(1951)	34.7	33.3	31.6	16.5	18.2	15.4	11.2	11.1	7.3	3.9	3.3	4.2	4.1	0.9	14.0
投資信託 種類別	株式投資信託保有層	(3350)	41.7	35.9	24.0	29.7	19.4	9.1	10.0	10.6	8.4	9.9	7.3	5.1	3.4	0.5	7.2
	その他投資信託保有層	(887)	33.4	28.0	27.5	23.2	18.5	9.4	12.7	12.2	10.8	6.3	8.2	5.7	3.8	0.8	10.6

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(4) 今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q10②：最大3項目回答〕

- 今後の重視点では、「過去の運用実績」(26.9%)、「値上がりへの期待」(26.4%)、「値下がりの不安が少ない」(23.2%)が続く。購入時重視点（〔図5-10〕）と上位5位は同順。
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別でみると、若年層ほど「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」が高くなる傾向。〔図5-14〕
- 株式投信保有層では、「過去の運用実績」「値上がりへの期待」「手数料や運用管理費用の水準」が他層より高い。〔図5-15〕

〔図 5-13〕

	n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	純資産の大きさ	分配頻度	商品コンセプト	社会性が高い企業が投資先	評価会社による評価	その他	特にな
2020年	(6626)	26.9	26.4	23.2	19.8	12.4	8.3	8.1	6.6	5.8	5.6	5.5	4.2	4.2	0.7	15.5
2019年	(6449)	24.7	26.5	23.2	19.3	11.4	8.3	8.0	6.8	5.0	6.3	5.4	3.2	3.6	0.5	17.4
2018年	(4588)	23.8	29.5	32.5	16.8	16.4	10.2	10.7	8.8	5.8	8.3	8.0	-	6.1	1.3	15.7

※選択肢「値下がりの不安が少ない」「少額から投資できる」は2018年より聴取、「社会性が高い企業が投資先は2019年より聴取」

〔図 5-14〕

		n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	純資産の大きさ	分配頻度	商品コンセプト	社会性が高い企業が投資先	評価会社による評価	その他	特にな
TOTAL		(6626)	26.9	26.4	23.2	19.8	12.4	8.3	8.1	6.6	5.8	5.6	5.5	4.2	4.2	0.7	15.5
性別	男性	(4014)	30.0	28.0	20.1	20.9	11.3	7.2	7.9	6.9	6.2	5.5	6.1	3.5	3.8	0.6	14.1
	女性	(2612)	22.1	24.0	28.1	18.3	14.1	9.8	8.5	6.0	5.1	5.8	4.6	5.2	4.7	0.8	17.6
年代別	20代	(635)	30.9	22.5	22.7	20.9	12.4	6.0	8.3	5.5	5.5	5.2	4.4	3.5	3.0	0.0	11.5
	30代	(853)	31.2	28.8	23.0	27.0	13.4	6.9	5.3	5.5	6.6	4.2	5.4	4.0	3.4	0.5	11.0
	40代	(1204)	30.0	24.9	22.0	26.3	16.1	7.6	6.8	6.1	8.1	5.0	6.8	3.4	4.7	0.2	11.8
	50代	(1112)	26.7	27.2	23.9	22.1	13.4	9.8	8.1	5.1	5.1	5.3	5.7	3.5	4.3	1.3	14.5
	60代	(1432)	25.4	27.2	23.8	16.3	10.4	8.9	9.1	6.8	4.7	5.6	5.7	5.2	4.3	0.6	18.4
	70代	(1390)	21.4	26.4	23.5	11.2	9.8	8.8	9.9	9.1	5.0	7.5	4.5	4.8	4.5	1.3	21.0
世帯年収別	100万円未満	(194)	27.3	25.3	26.3	19.1	7.2	5.7	4.6	6.2	6.2	5.7	4.1	3.1	4.6	1.0	19.6
	～300万円未満	(846)	20.4	24.1	24.3	14.3	13.6	7.6	8.5	6.5	5.4	6.6	5.0	3.4	2.7	0.6	19.4
	～500万円未満	(1553)	25.1	27.6	22.9	18.6	13.6	7.9	9.3	6.8	5.0	5.3	5.3	4.1	4.6	1.1	15.7
	～1000万円未満	(2277)	30.6	27.5	23.4	23.3	12.1	8.8	7.6	6.8	6.8	5.8	6.7	4.3	4.2	0.4	10.8
	1000万円以上	(847)	32.7	29.9	22.3	21.6	9.4	9.0	7.9	6.1	6.8	5.5	5.5	5.1	5.1	0.6	10.9

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(4) 今後、投資信託購入の際に重視したい点〔Q10②：最大3項目回答〕

〔図 5-15〕

		n=	過去の運用実績	値上がりの期待	値下がりの不安が少ない	手数料や運用管理費用の水準	少額から投資できる	商品内容のわかりやすさ	換金のしやすさ	過去の分配金額	純資産の大きさ	分配頻度	商品コンセプト	社会性が高い企業が投資先	評価会社による評価	その他	特にな
			(%)														
TOTAL		(6626)	26.9	26.4	23.2	19.8	12.4	8.3	8.1	6.6	5.8	5.6	5.5	4.2	4.2	0.7	15.5
投資状況別	現在保有層	(4675)	28.1	27.9	21.3	22.8	13.0	8.2	7.0	6.8	6.9	6.1	6.5	4.2	4.5	0.6	12.7
	保有経験層 (現在非保有)	(1951)	24.0	22.9	27.8	12.6	10.9	8.5	10.7	6.0	3.1	4.5	3.1	4.0	3.3	1.0	22.0
投資信託保有種類別	株式投資信託保有層	(3350)	30.7	30.7	20.9	25.9	12.8	8.4	7.0	6.7	8.2	6.3	6.9	4.4	4.9	0.5	8.6
	その他投資信託保有層	(887)	24.5	24.0	24.4	18.8	14.2	9.6	6.9	8.5	4.4	6.9	6.9	5.0	4.7	0.6	12.9

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(5) 分配金の特徴認知状況〔Q13:重複回答〕

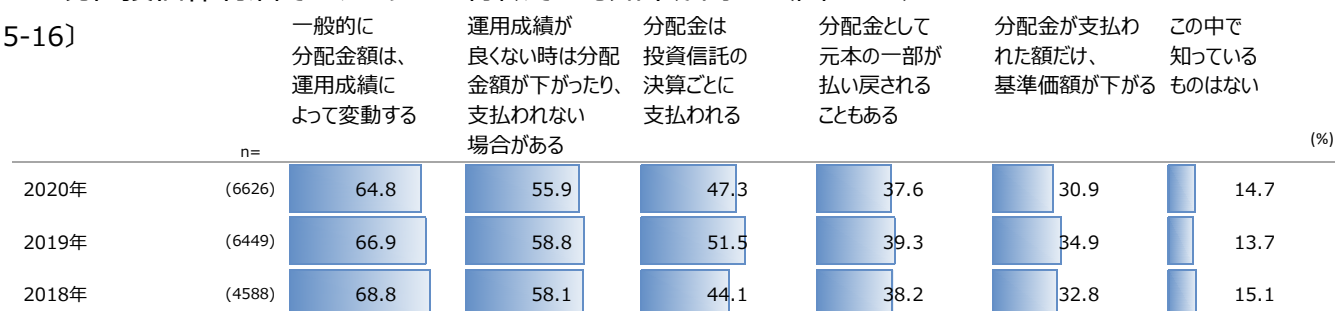
- 分配金の特徴認知は、「運用成績によって変動する」(64.8%)が最も高く、次いで「運用成績が良くない時は分配金額が下がったり、支払われない場合がある」(55.9%)、「分配金は投資信託の決算ごとに支払われる」(47.3%)が続く。〔図5-16〕

* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

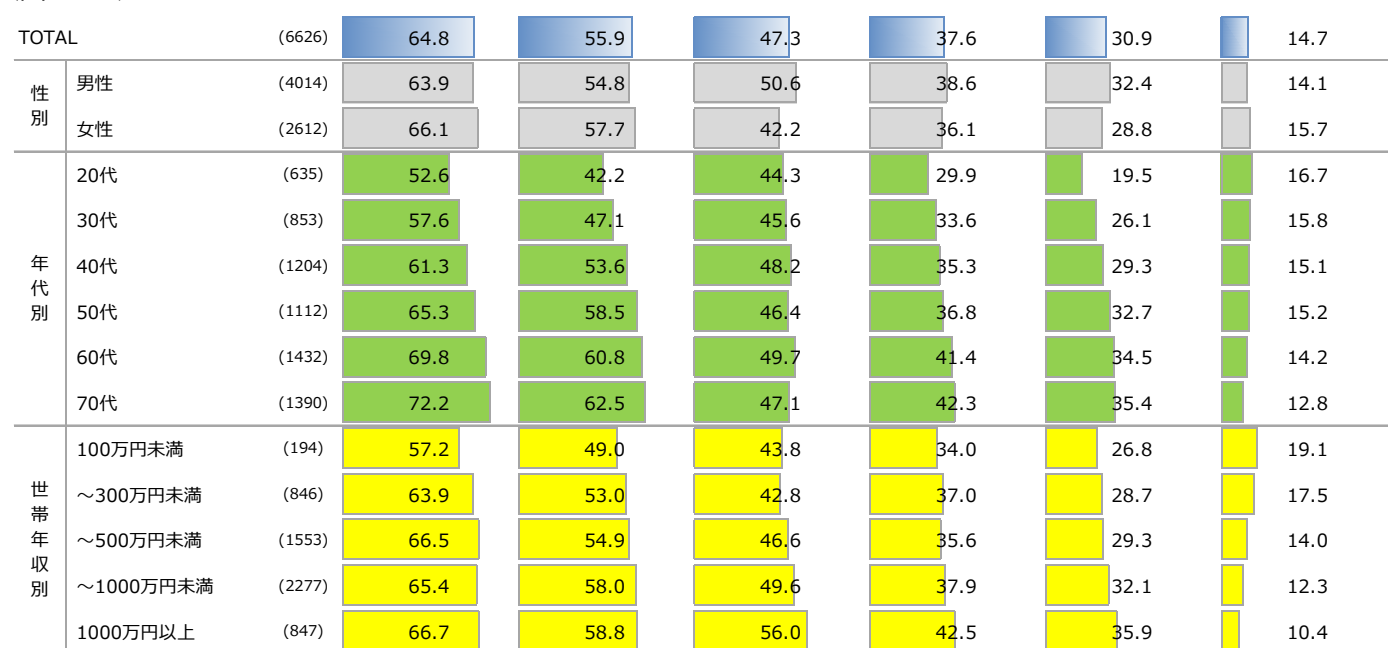
- 「分配金は投資信託の決算ごとに支払われる」以外は、どの特徴も年代が高いほど認知率が高い傾向。〔図5-17〕

- 現在投信保有層では、いずれの特徴でも認知率が高い。〔図5-18〕

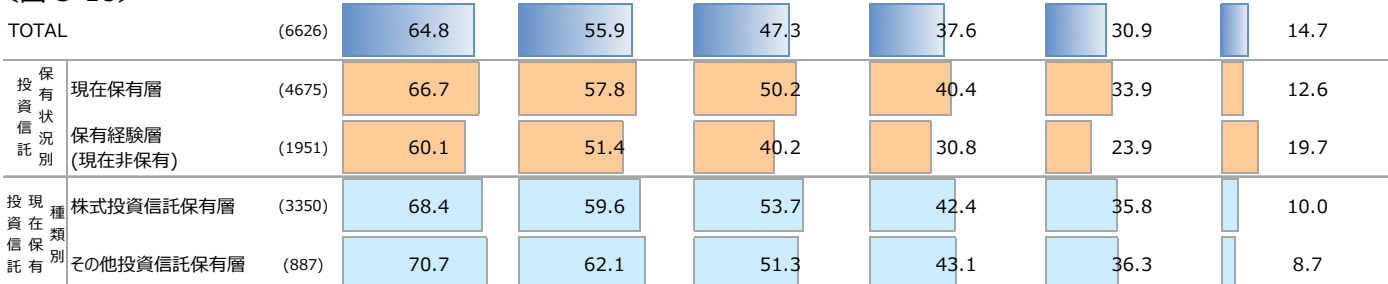
〔図 5-16〕



〔図 5-17〕



〔図 5-18〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(5) 分配金の特徴認知状況（毎月分配型保有者）〔Q13:重複回答〕

〔図 5-19〕

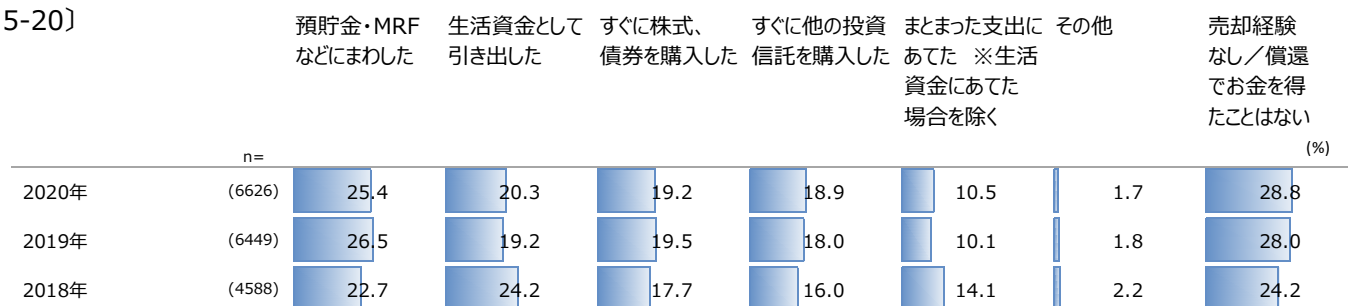
		n=	一般的に 分配金額は、 運用成績に よって変動する	運用成績が 良くない時は分配 金額が下がったり、 支払われない 場合がある	分配金は 投資信託の 決算ごとに 支払われる	分配金として 元本の一部が 払い戻される こともある	分配金が支払わ れた額だけ、 基準価額が下がる	この中で 知っている ものはない	(%)
毎月 現在 分配 型層 投資 年代 別	TOTAL	(1821)	74.5	65.7	57.4	49.9	42.5	5.2	
	20代	(226)	65.5	43.4	50.9	31.9	20.8	7.5	
	30代	(259)	59.8	49.4	53.3	36.7	28.2	8.9	
	40代	(298)	68.8	61.4	59.4	47.7	39.9	5.4	
	50代	(260)	76.9	72.3	55.8	49.6	47.3	6.9	
	60代	(375)	83.5	76.3	60.5	61.1	52.3	3.5	
	70代	(403)	83.4	77.7	60.5	60.0	53.6	1.7	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

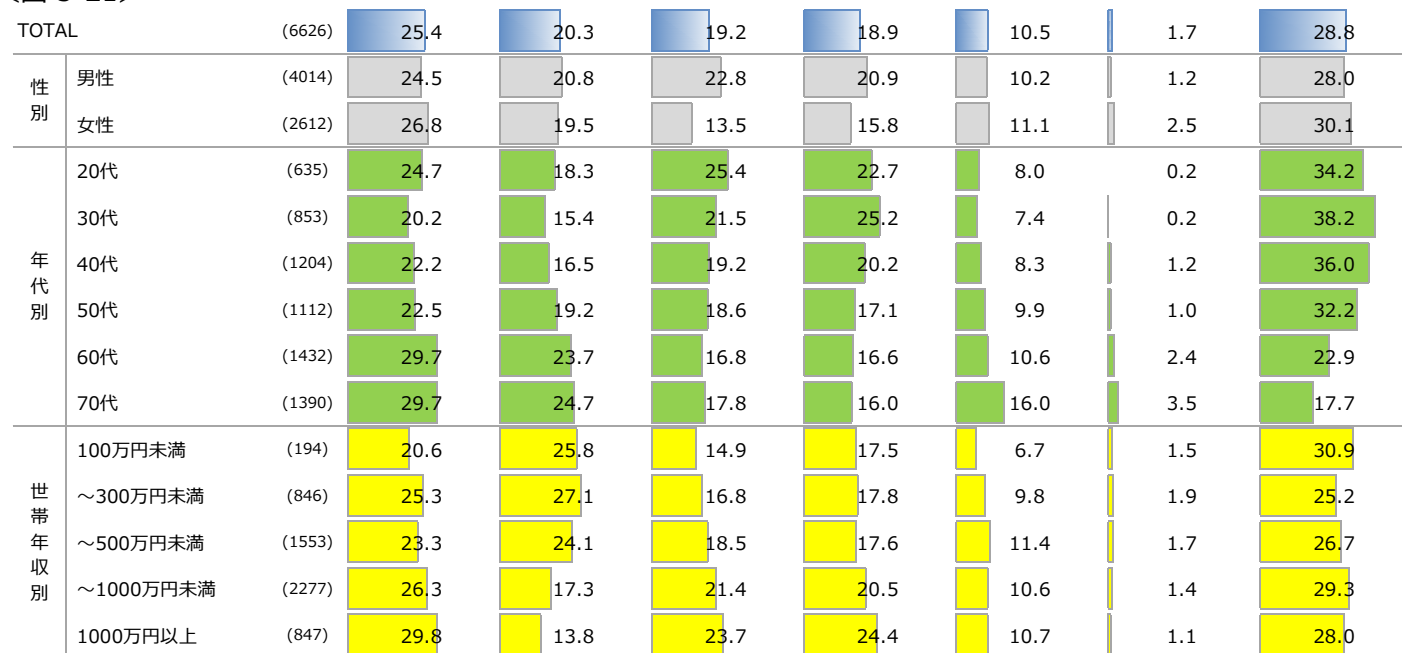
(6) 償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

- 投資信託の償還・売却資金流出先は、「預貯金・MRFなどにまわした」(25.4%)が最も高いが、「売却経験なし／償還でお金を得たことはない」も28.8%と高い。〔図5-20〕
- 年代別で見ると、高齢層ほど「生活資金」「預貯金・MRF」「まとまった支出」が増加する傾向。「すぐに株式・債券を購入」「すぐに他の投資信託購入」は40代以下でやや高い傾向。〔図5-21〕
- 現在投信保有層は、「すぐに他の投資信託購入」が他層より高い。〔図5-22〕

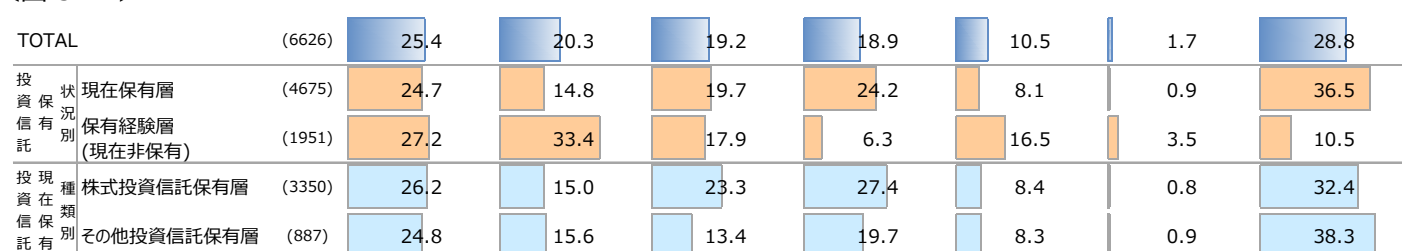
〔図 5-20〕



〔図 5-21〕



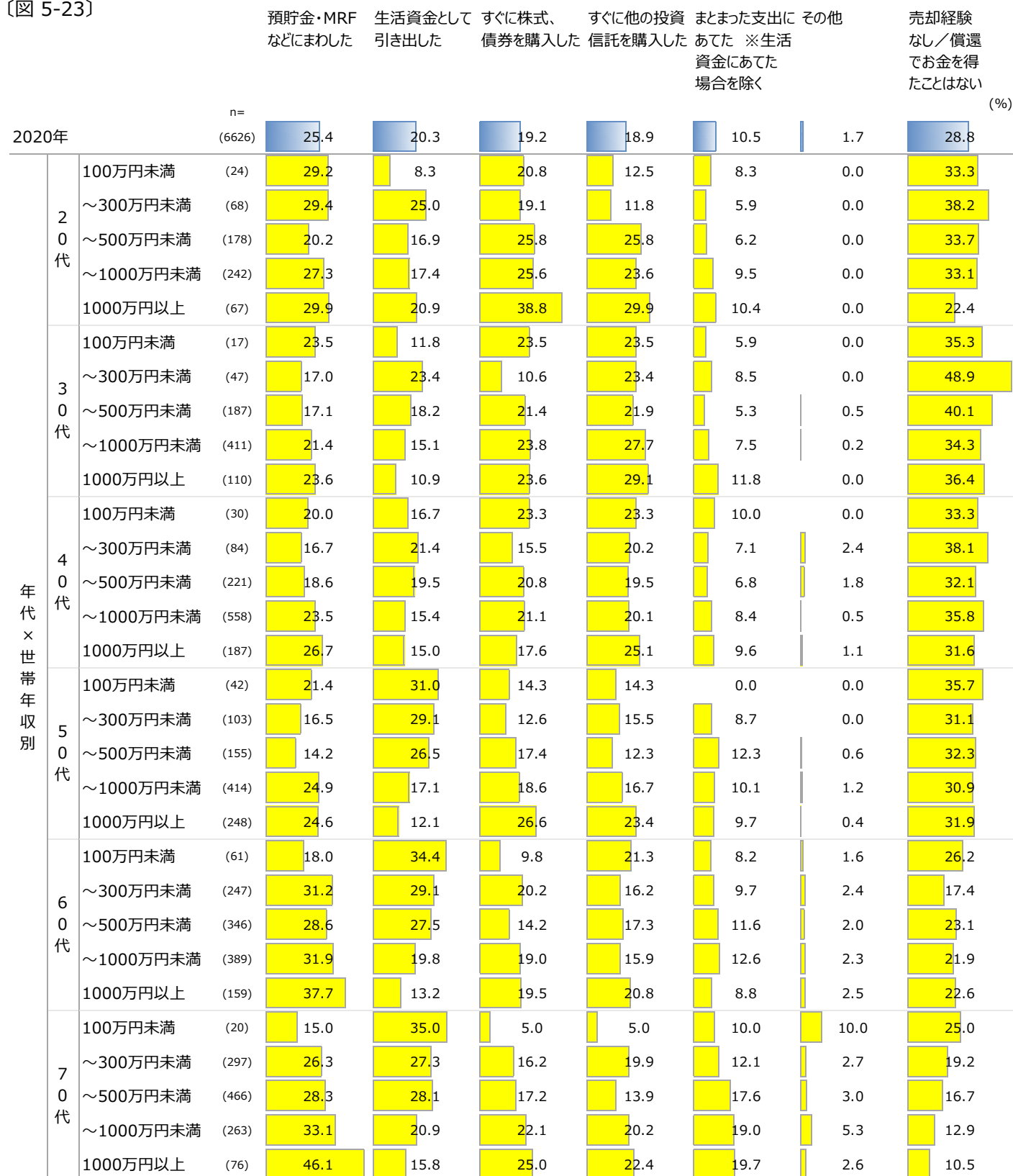
〔図 5-22〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(6) 償還・売却資金の流出先〔Q14:重複回答〕

〔図 5-23〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15①：重複回答〕

- 魅力点上位は前回と変わらず「少額でも分散投資ができる」(53.0%)、「専門知識や時間がなくても投資ができる」(35.0%)が続く。「積立投資ができる」(30.6%)は前回より4.3ポイント増加。〔図5-24〕

* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

- 年代別でみると、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「手数料が比較的安い」が高い傾向がみられ、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。〔図5-25〕
- 投信現在保有層は投信保有経験層に比べて各項目で高いが、中でも「少額でも分散投資ができる」「専門知識がなくても投資ができる」「積立投資ができる」「分配金が自動的に再投資される商品がある」「外国への投資が手軽にできる」が高い。〔図5-26〕

〔図 5-24〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	積立投資ができる	比較的高い利回りがある	少額でも投資の面白味がある	購入手続きが簡単である	定期的に分配金が受け取れる	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	外国への投資が手軽にできる	手数料が比較的安い	購入後の運用に関する情報が豊富	その他	わからない・特にない	(%)
2020年	(6626)	53.0	35.0	30.6	23.1	22.9	22.5	22.1	20.3	19.8	14.4	13.7	7.7	0.2	16.5	
2019年	(6449)	49.2	32.0	26.3	22.8	21.9	22.2	25.2	19.3	18.9	11.1	11.6	7.0	0.2	18.6	
2018年	(4588)	44.4	30.1	21.4	22.6	24.4	20.1	27.3	17.5	16.4	8.8	8.7	5.0	0.5	18.7	

※2020年は「外国への投資が手軽にできる」、2018～2019年は「海外投資が手軽にできる」で聴取

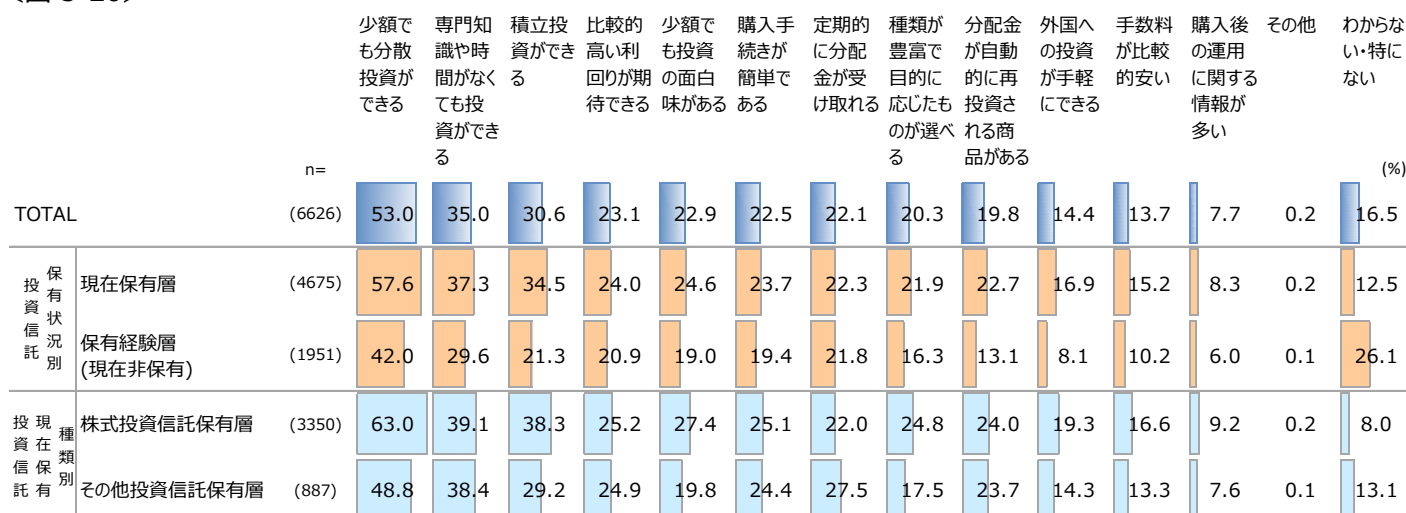
〔図 5-25〕

TOTAL		n=	53.0	35.0	30.6	23.1	22.9	22.5	22.1	20.3	19.8	14.4	13.7	7.7	0.2	16.5
性別	男性	(4014)	56.2	34.6	31.6	23.0	24.0	22.2	19.1	21.8	20.6	15.4	13.9	8.2	0.1	15.4
	女性	(2612)	48.2	35.6	29.1	23.2	21.3	22.9	26.8	17.9	18.7	12.7	13.4	6.9	0.3	18.2
年代別	20代	(635)	63.6	35.3	35.3	21.4	29.9	20.0	13.5	18.4	18.4	11.7	14.2	9.0	0.5	8.5
	30代	(853)	62.7	36.5	38.9	21.2	28.3	23.0	13.5	20.9	17.8	15.2	16.6	8.4	0.1	10.7
	40代	(1204)	62.8	35.3	38.2	20.0	26.3	20.9	15.0	21.6	19.4	15.8	17.3	7.2	0.2	12.4
	50代	(1112)	54.0	34.9	31.0	23.4	22.2	20.4	19.1	21.9	17.5	15.4	13.4	6.1	0.3	16.1
	60代	(1432)	44.2	35.2	24.9	25.3	19.4	23.6	27.1	19.2	22.0	14.2	12.5	7.6	0.1	21.0
	70代	(1390)	42.1	33.7	22.4	25.0	17.8	25.1	35.0	19.4	21.8	13.1	10.1	8.2	0.2	22.9
世帯年収別	100万円未満	(194)	47.4	28.9	23.2	19.6	19.1	18.6	14.9	15.5	17.5	12.4	12.4	6.7	0.0	27.8
	～300万円未満	(846)	46.9	30.5	24.6	23.3	22.9	22.9	25.5	18.4	17.4	11.9	11.9	7.1	0.0	20.7
	～500万円未満	(1553)	52.7	35.9	30.4	21.8	21.4	22.9	24.5	19.6	21.4	14.7	13.5	7.5	0.2	15.3
	～1000万円未満	(2277)	57.7	37.5	35.5	24.2	25.5	23.8	20.9	21.9	20.7	15.0	14.8	8.2	0.3	11.3
	1000万円以上	(847)	59.6	37.4	32.1	26.3	23.5	23.3	19.7	25.0	20.1	18.3	14.5	10.0	0.1	11.0

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託の優れていると感じる点〔Q15①：重複回答〕

〔図 5-26〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

（7）投資信託で特に魅力を感じる点〔Q15②：単数回答〕

- 投資信託で特に魅力を感じる点としては、「少額でも分散投資ができる」(24.3%)、「専門知識や時間がなくても投資できる」(12.9%)が上位にあがる。〔図5-27〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」が高く、高齢層ほど「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。〔図5-28〕
- 投信現在保有層、株式投信保有層では、「少額でも分散投資ができる」が高く、その他投信保有層では「定期的に分配金が受け取れる」が高い。〔図5-29〕

〔図 5-27〕

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資できる	比較的高い利回り期待できる	積立投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	購入手続きが簡単である	外国への投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多	その他	わからない・特にない	(%)
2020年	(6626)	24.3	12.9	9.4	8.4	7.4	5.9	3.7	2.7	2.6	2.3	1.9	0.9	0.2	17.6	
2019年	(6449)	23.2	12.3	9.4	6.9	9.2	6.1	3.2	2.1	2.5	2.3	1.6	0.8	0.2	20.0	
2018年	(4588)	18.2	14.0	11.0	5.6	12.5	8.1	3.3	2.1	1.9	2.5	1.3	0.4	0.4	18.7	

※2020年は「外国への投資が手軽にできる」、2018～2019年は「海外投資が手軽にできる」で聴取

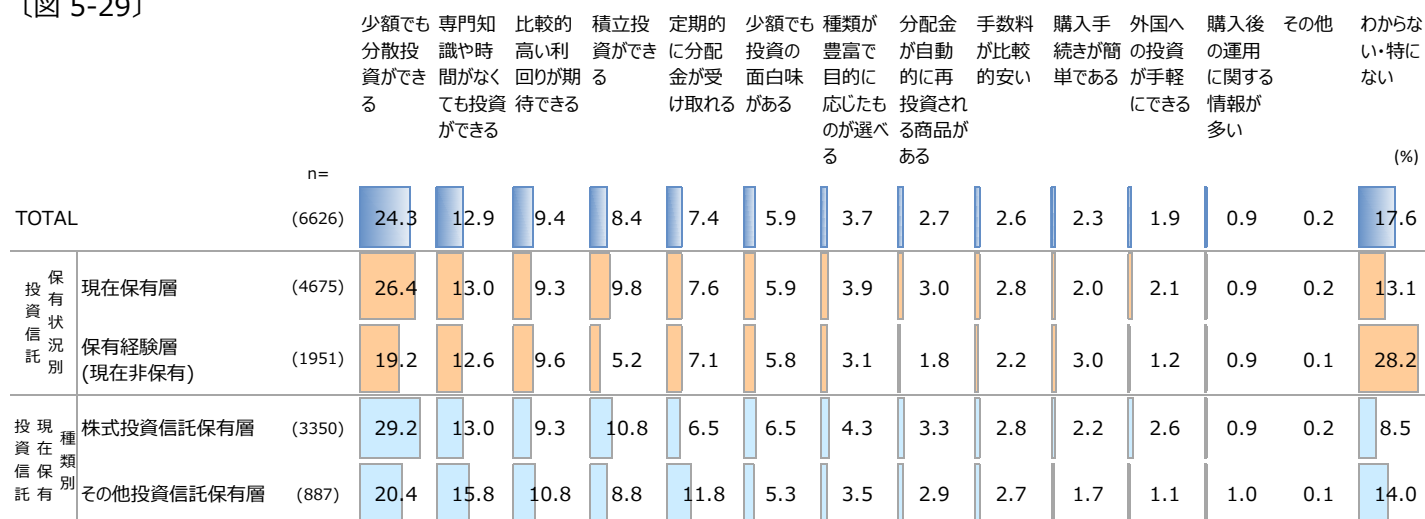
〔図 5-28〕

		n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資できる	比較的高い利回り期待できる	積立投資ができる	定期的に分配金が受け取れる	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	分配金が自動的に再投資される商品がある	手数料が比較的安い	購入手続きが簡単である	外国への投資が手軽にできる	購入後の運用に関する情報が多	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL		(6626)	24.3	12.9	9.4	8.4	7.4	5.9	3.7	2.7	2.6	2.3	1.9	0.9	0.2	17.6	
性別	男性	(4014)	27.1	12.5	9.0	8.9	5.4	6.3	4.1	2.9	2.5	2.0	2.1	1.0	0.1	16.1	
	女性	(2612)	20.0	13.4	10.0	7.7	10.6	5.4	2.9	2.3	2.7	2.8	1.5	0.7	0.3	19.8	
年代別	20代	(635)	34.6	11.8	6.9	11.7	2.8	7.9	4.1	3.1	3.0	1.9	1.7	1.6	0.3	8.5	
	30代	(853)	33.1	13.7	6.3	12.4	2.7	6.8	3.2	2.3	3.6	1.9	1.8	1.4	0.1	10.7	
	40代	(1204)	32.3	11.3	7.8	10.6	3.5	6.3	4.2	3.0	2.8	1.6	2.7	1.0	0.2	12.7	
	50代	(1112)	25.1	13.6	10.4	8.6	6.0	6.3	3.0	1.8	3.2	2.3	2.1	0.5	0.3	16.7	
	60代	(1432)	16.4	14.2	11.6	6.2	10.2	5.2	3.8	2.8	2.3	2.8	1.5	0.6	0.1	22.4	
	70代	(1390)	14.7	12.3	10.7	4.7	14.1	4.5	3.7	2.9	1.3	2.8	1.5	0.6	0.2	25.8	
世帯年収別	100万円未満	(194)	24.7	11.9	10.3	4.6	6.7	4.6	0.5	1.0	2.6	1.5	3.1	0.0	0.0	28.4	
	～300万円未満	(846)	20.7	12.1	9.9	6.3	10.0	6.1	3.0	2.0	2.5	3.2	1.9	0.5	0.0	21.9	
	～500万円未満	(1553)	23.7	13.5	9.1	8.0	9.0	5.2	4.0	3.3	2.5	2.1	1.7	1.2	0.1	16.7	
	～1000万円未満	(2277)	26.1	13.5	9.0	10.6	6.6	6.6	4.1	2.7	2.7	2.6	1.7	1.2	0.3	12.3	
	1000万円以上	(847)	29.5	13.9	12.0	9.3	3.7	6.1	4.1	3.0	1.9	1.8	2.5	0.7	0.1	11.3	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(7) 投資信託で特に魅力を感じる点〔Q15②：単数回答〕

〔図 5-29〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で不満を感じる点〔Q16①：重複回答〕

- 不満点は、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(27.9%)、「手数料が比較的高い」(27.2%)、「元本保証がない」(25.9%)、「リターンが低い」(23.5%)が上位。〔図5-30〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- どの不満も高齢層ほど高くなる傾向だが、「手数料が比較的高い」「元本保証がない」「種類が多く選択に迷う」「公社債に比べてリスクが高い」は高齢層ほど高い傾向。〔図5-31〕
- 株式投信保有層では、他層に比べて「元本保証がない」が低く、「株式に比べて面白さに欠ける」がやや高い。〔図5-32〕

〔図 5-30〕

	n=	仕組みや運用手法がわかりにくい	手数料が比較的高い	元本保証がない	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	種類が多く選択に迷う	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
2020年	(6626)	27.9	27.2	25.9	23.5	22.5	18.0	16.1	15.7	12.0	8.3	7.1	0.7	19.1	
2019年	(6449)	27.4	29.3	27.7	25.8	21.9	16.6	16.8	17.0	11.3	7.4	7.1	0.5	19.1	
2018年	(4588)	30.1	28.5	34.1	22.1	27.4	19.0	15.0	17.3	12.5	7.9	8.0	0.6	13.6	

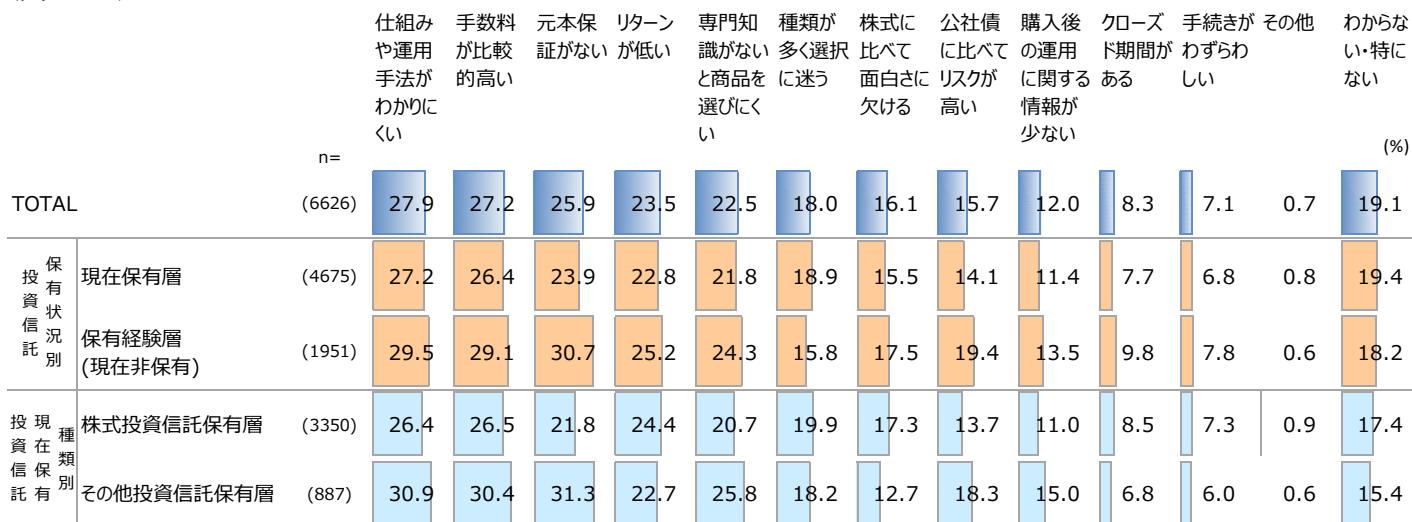
〔図 5-31〕

	n=	仕組みや運用手法がわかりにくい	手数料が比較的高い	元本保証がない	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	種類が多く選択に迷う	株式に比べて面白さに欠ける	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(6626)	27.9	27.2	25.9	23.5	22.5	18.0	16.1	15.7	12.0	8.3	7.1	0.7	19.1	
性別	男性 (4014)	24.8	26.5	18.6	25.6	18.0	16.3	18.9	14.0	11.5	7.8	6.7	0.8	20.7	
	女性 (2612)	32.5	28.2	37.1	20.3	29.6	20.6	11.8	18.3	12.9	9.1	7.8	0.6	16.6	
年代別	20代 (635)	25.2	15.4	9.0	22.8	20.3	13.7	18.7	12.3	12.9	7.9	8.2	0.6	19.2	
	30代 (853)	25.8	17.5	13.5	23.8	20.8	16.9	16.1	10.2	10.3	8.0	10.4	0.6	20.3	
	40代 (1204)	25.2	22.8	17.9	25.2	19.5	17.2	15.1	12.2	10.2	8.6	7.6	0.9	20.8	
	50代 (1112)	26.3	28.3	25.9	24.0	19.2	17.7	13.5	13.2	10.4	7.5	7.7	0.7	19.2	
	60代 (1432)	29.3	33.2	33.9	23.7	25.9	18.5	14.5	18.1	12.0	8.2	5.8	0.8	17.5	
	70代 (1390)	32.4	35.1	39.9	21.5	26.5	21.1	19.5	23.1	15.6	9.1	4.9	0.6	18.3	
世帯年収別	100万円未満 (194)	27.8	20.1	23.2	17.5	19.1	19.1	9.3	14.4	9.8	8.2	7.2	1.0	23.2	
	～300万円未満 (846)	30.6	29.7	30.9	22.8	27.0	18.2	15.5	18.0	12.8	7.7	6.4	0.7	19.1	
	～500万円未満 (1553)	29.2	26.2	29.3	22.9	22.9	18.2	17.5	15.7	12.9	9.0	7.0	0.6	18.0	
	～1000万円未満 (2277)	26.6	26.7	22.9	25.3	22.3	18.7	17.3	15.2	11.9	8.7	7.4	0.8	16.0	
	1000万円以上 (847)	25.7	29.5	18.8	26.1	19.4	16.6	17.6	15.1	11.7	8.4	7.9	0.7	18.4	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で不満を感じる点〔Q16①：重複回答〕

〔図 5-32〕



5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で特に不満に感じる点〔Q16②：単数回答〕

- 投信で特に不満を感じる点は、「手数料が比較的高い」(14.1%)、「元本保証がない」(14.0%)、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(10.6%)、「リターンが低い」(10.4%)が上位。〔図5-33〕
- 年代別でみると、高齢層ほど「手数料が比較的高い」「元本保証がない」が増加する。また、若年層では「仕組みや運用手法がわかりにくい」「リターンが低い」「専門知識がないと商品を選びにくい」が高い傾向。〔図5-34〕
- 株式投信保有層では、「元本保証がない」が他層より低い。〔図5-35〕

〔図 5-33〕

	n=	手数料が比較的高い	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さに欠ける	種類が多く選択に迷う	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
2020年	(6626)	14.1	14.0	10.6	10.4	7.4	6.0	5.0	4.6	3.2	2.2	2.1	0.7	19.8	
2019年	(6449)	14.7	15.2	9.7	11.0	6.8	6.1	4.4	5.6	2.8	1.5	1.8	0.4	19.7	
2018年	(4588)	13.7	19.7	9.8	8.8	10.0	5.2	5.4	5.1	3.3	1.9	2.3	0.4	13.6	

〔図 5-34〕

	n=	手数料が比較的高い	元本保証がない	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	専門知識がないと商品を選びにくい	株式に比べて面白さに欠ける	種類が多く選択に迷う	公社債に比べてリスクが高い	購入後の運用に関する情報が少ない	クローズド期間がある	手続きがわずらわしい	その他	わからない・特にない	(%)
TOTAL	(6626)	14.1	14.0	10.6	10.4	7.4	6.0	5.0	4.6	3.2	2.2	2.1	0.7	19.8	
性別															
男性	(4014)	15.1	8.7	10.6	12.3	6.5	7.4	5.0	4.3	3.5	2.5	2.3	0.7	21.2	
女性	(2612)	12.6	22.1	10.5	7.5	8.7	3.8	5.1	5.2	2.8	1.8	1.7	0.5	17.5	
年代別															
20代	(635)	7.9	4.6	14.2	11.7	10.1	8.3	6.1	5.2	6.0	2.8	3.1	0.5	19.5	
30代	(853)	10.2	6.8	13.0	11.8	10.0	6.9	6.1	3.8	4.2	2.5	3.8	0.6	20.4	
40代	(1204)	13.5	9.6	10.3	12.7	8.2	6.4	4.5	4.3	2.7	3.1	2.9	0.8	21.1	
50代	(1112)	16.2	14.6	11.0	11.5	5.5	4.9	4.8	4.2	3.1	2.0	1.8	0.7	19.8	
60代	(1432)	16.1	18.2	9.3	9.1	6.8	5.4	5.5	4.9	2.5	1.7	1.3	0.7	18.4	
70代	(1390)	16.3	21.7	8.6	7.3	5.8	5.4	4.0	5.3	2.7	1.7	0.9	0.6	19.6	
世帯年収別															
100万円未満	(194)	12.4	13.9	13.9	8.2	6.2	3.6	6.7	5.2	1.0	2.1	2.6	1.0	23.2	
～300万円未満	(846)	14.4	16.0	9.3	10.2	7.7	5.1	4.7	4.5	4.0	2.1	1.8	0.6	19.6	
～500万円未満	(1553)	12.0	17.3	10.6	9.9	6.8	6.7	4.8	4.6	3.3	2.6	2.0	0.6	18.9	
～1000万円未満	(2277)	14.7	11.7	10.4	11.8	7.9	7.0	5.5	5.2	3.7	2.5	2.3	0.7	16.6	
1000万円以上	(847)	18.3	8.4	11.7	12.4	7.6	5.7	4.7	4.8	3.0	1.8	2.0	0.7	19.0	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(8) 投資信託で特に不満を感じる点〔Q16②：単数回答〕

〔図 5-35〕

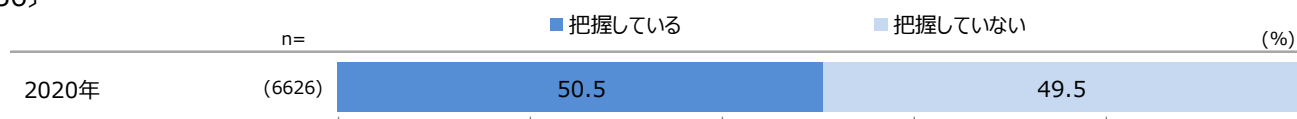
		手数料 が比較 的高い	元本保 証がない	仕組み や運用 手法が わかりに くい	リターン が低い	専門知 識がない と商品を 選びにく い	株式に 比べて 面白さに 欠ける	種類が 多く選択 に迷う	公社債 に比べて リスクが 高い	購入後 の運用 に関する 情報が 少ない	クローズ ド期間が ある	手続きが わずらわ しい	その他	わからな い・特に ない	(%)
TOTAL	n= (6626)	14.1	14.0	10.6	10.4	7.4	6.0	5.0	4.6	3.2	2.2	2.1	0.7	19.8	
保有状況別 投資信託	現在保有層 (4675)	14.3	12.5	10.9	10.8	7.7	6.1	5.6	4.3	3.1	2.0	2.1	0.7	20.1	
	保有経験層 (現在非保有) (1951)	13.6	17.6	9.8	9.5	6.7	5.6	3.6	5.6	3.5	2.8	1.9	0.6	19.0	
現在保有種類別 投資信託	株式投資信託保有層 (3350)	14.8	10.5	10.7	11.7	7.9	7.1	6.1	4.3	3.3	2.2	2.3	0.8	18.2	
	その他投資信託保有層 (887)	16.3	18.4	10.7	10.1	7.1	4.6	5.2	5.1	2.9	1.6	1.7	0.5	15.8	

5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

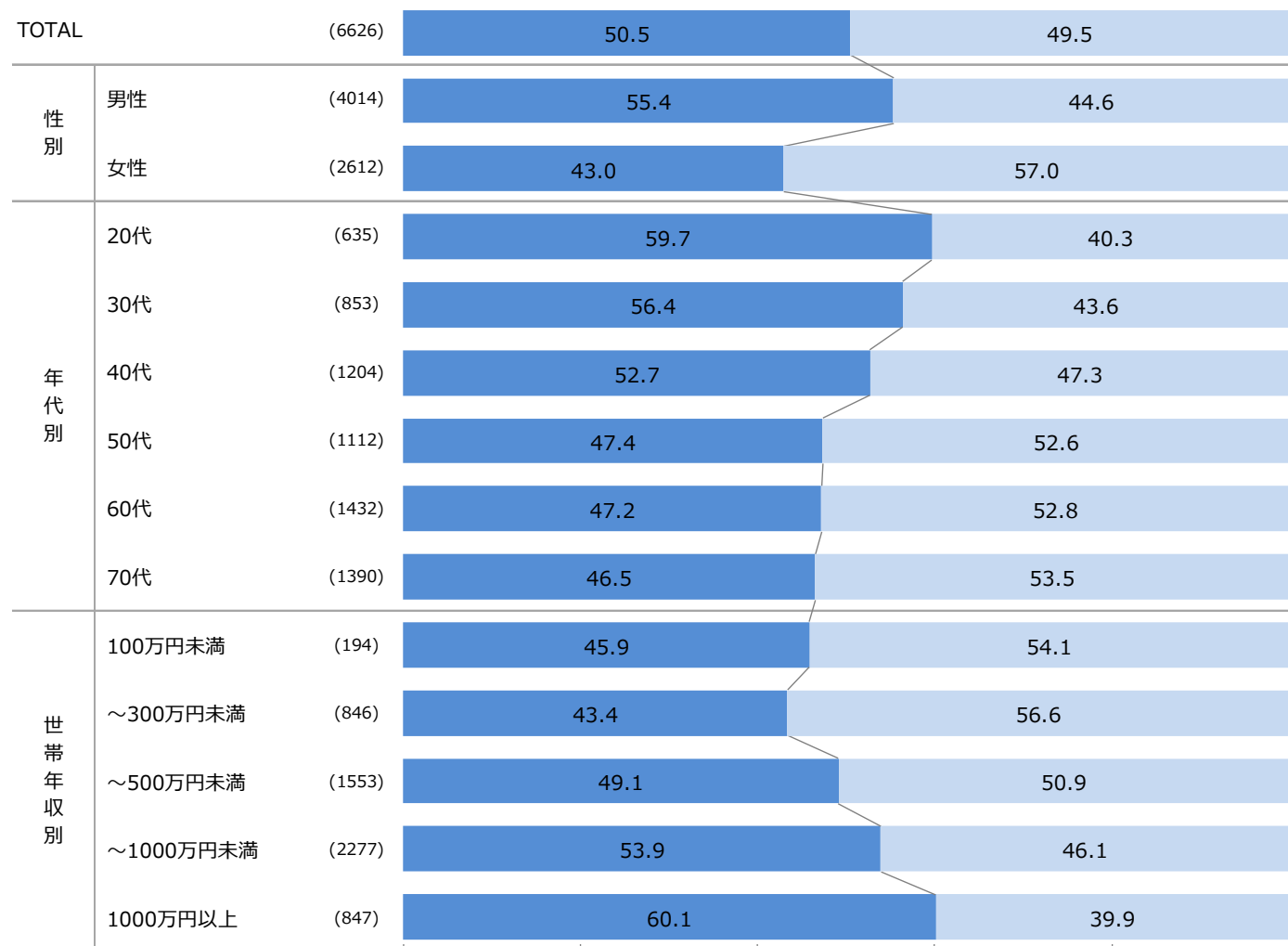
(9) トータルリターンの把握状況〔Q24:単数回答〕

- 現在、または過去に保有していた投資信託の「トータルリターン」は、現在投信保有層・保有経験層での把握率は50.5%で、半数が把握している。〔図5-36〕
- 年代別では若年層ほど把握率が高い。また、世帯年収が高いほど把握率が高くなる傾向。〔図5-37〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層は、把握率が56.6%と投信保有経験層より20.9ポイント高い。投信株式投信保有層は、61.5%と6割が把握している。〔図5-38〕

〔図 5-36〕



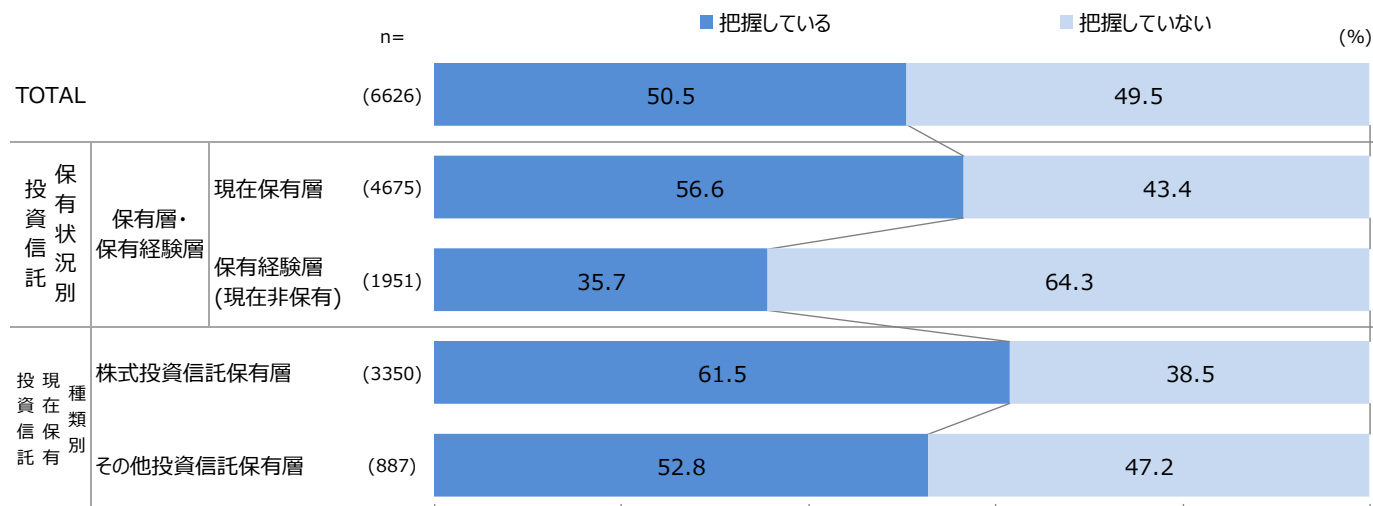
〔図 5-37〕




5. 投資信託購入状況（現在保有層・保有経験層）

(9) トータルリターンの把握状況〔Q24:単数回答〕

〔図 5-38〕



6. 投資信託保有未経験者の状況 (金融資産保有未経験層を含む)



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(1) 投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

- 投信保有未経験層の投信非購入理由は、「投資の知識がない」(39.5%)、「興味がない」(36.8%)、「損をしそうで怖い」(31.4%)が上位。前回と比較して「興味がない」が4.9ポイント減少。〔図6-1〕
- 年代別でみると、若年層ほど「投資の知識がない」「なんとなく機会がなかった」が高くなり、「興味がない」「元本保証がない」は低くなる傾向。50代以下では「損をしそうで怖い」「まとまった資金がない」が60代以上に比べてやや高い。〔図6-2〕
- 投信保有状況別では、金融資産保有経験のある層では、「元本保証がない」「手数料など費用が高い」「投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい」が高い。投信保有経験の無い層では「投資の知識がない」(40.4%)が特に高い。〔図6-3〕

〔図 6-1〕

	n=	投資の知識がない	そもそも興味がない	損をしそうで怖い	まとまった資金がない	投資信託の仕組みがよくわからない	元本保証がない	手数料など費用が高い	なんとなく機会がなかった	商品の種類が多く自分では選べない	投資信託の存在がなかった	購入するのにかか	投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい	その他 (%)
2020年	(13374)	39.5	36.8	31.4	24.4	22.8	22.6	12.6	9.2	7.7	5.6	5.1	3.6	0.8
2019年	(13551)	36.8	41.7	29.1	22.7	20.2	22.9	12.9	7.4	6.7	4.9	4.2	4.0	0.7
2018年	(15412)	38.0	48.4	29.9	24.3	22.8	20.2	10.2	11.8	8.1	5.3	5.1	2.6	0.9

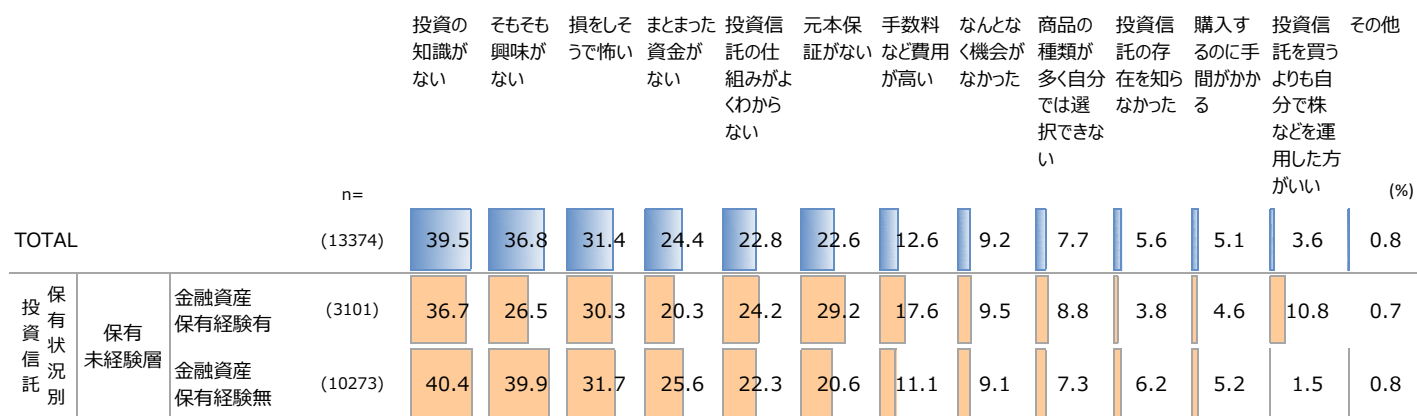
〔図 6-2〕

	n=	投資の知識がない	そもそも興味がない	損をしそうで怖い	まとまった資金がない	投資信託の仕組みがよくわからない	元本保証がない	手数料など費用が高い	なんとなく機会がなかった	商品の種類が多く自分では選べない	投資信託の存在がなかった	購入するのにかか	投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいい	その他 (%)
TOTAL	(13374)	39.5	36.8	31.4	24.4	22.8	22.6	12.6	9.2	7.7	5.6	5.1	3.6	0.8
性別	男性 (5936)	33.9	36.7	26.4	24.3	18.5	20.8	12.5	9.6	5.4	5.5	4.8	5.5	1.0
	女性 (7438)	44.1	36.8	35.3	24.4	26.1	24.0	12.7	8.8	9.5	5.7	5.3	2.2	0.7
年代別	20代 (1962)	45.0	31.4	30.8	26.5	25.3	10.8	9.0	12.9	6.4	9.5	6.7	3.5	0.8
	30代 (2266)	44.7	30.5	33.6	25.4	25.2	15.8	11.2	11.3	7.7	6.7	6.5	3.9	0.8
	40代 (2810)	40.1	32.7	33.6	25.4	22.2	23.0	13.0	10.1	7.1	5.8	5.4	3.0	0.5
	50代 (2314)	40.2	37.7	33.8	25.2	23.5	28.7	15.2	7.6	8.7	5.0	5.7	2.9	0.7
	60代 (2149)	33.0	44.6	27.5	20.6	19.7	27.3	14.1	6.5	6.8	4.0	2.7	3.2	0.8
	70代 (1873)	33.4	45.7	27.3	22.7	20.6	29.4	12.5	6.4	9.5	2.7	2.9	6.0	1.4
世帯年収別	100万円未満 (641)	32.9	47.0	26.5	27.3	20.1	21.2	12.6	7.8	7.8	6.6	6.1	2.2	0.6
	～300万円未満 (2237)	39.9	37.4	32.4	30.4	22.6	24.1	14.4	8.4	7.6	6.4	5.3	3.4	1.1
	～500万円未満 (2874)	43.0	33.6	32.5	26.8	24.4	23.9	12.5	9.8	8.0	5.4	5.0	3.9	0.7
	～1000万円未満 (3407)	43.8	29.0	34.7	24.2	25.1	23.3	13.2	9.8	8.1	5.2	4.9	4.4	0.5
	1000万円以上 (782)	39.0	26.3	34.3	16.4	22.0	24.3	14.1	10.9	8.8	5.2	8.1	4.6	0.4

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(1) 投資信託の非購入理由〔Q26:重複回答〕

〔図 6-3〕



6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

- 投資信託購入検討のきっかけは、前回同様に全体的に分散傾向。上位には「金融や投資を勉強して理解できたら」(22.1%)、「手取り収入が増えたら」(20.5%)、「身近な人に勧められたら」(20.1%)がある。〔図6-4〕
- 年代別では、若年層ほど「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」「初心者セミナーなどがあれば」「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」が高くなる傾向。〔図6-5〕
- 投信保有状況別でみると、金融資産保有経験のある層では「手数料の低い投資信託商品が充実してきたら」「税制上の優遇措置がより拡大してきたら」が、投信保有経験の無い層では「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」「身近な人に勧められたら」が他層に比べてやや高い。〔図6-6〕

〔図 6-4〕

	n=	金融や投資を勉強して理解できたら	手取り収入が増えたら	身近な人に勧められたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、説明してもらえる機会があれば	金融機関などで、専門知識を持つ人に教えてもらえたら	経済が上がり、期待できる様になっ	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら	税制上の優遇措置が、より拡大してきたら	退職金・相続などの臨時収入があったら	その他
2020年	(13374)	22.1	20.5	20.1	17.6	16.7	13.4	12.4	11.7	11.5	10.0	8.9	5.1	9.3
2019年	(13551)	20.1	19.7	17.4	17.0	15.8	13.3	10.9	11.7	11.8	12.4	8.9	5.1	9.4
2018年	(15412)	23.1	21.8	20.1	16.1	15.7	14.0	15.7	13.8	10.4	-	16.4	6.7	11.3

※選択肢「職場で確定拠出年金・つみたてNISA等が整備されたら」は2019年より聴取
 ※「その他」には、「興味がない」「特にない」「わからない」なども含む

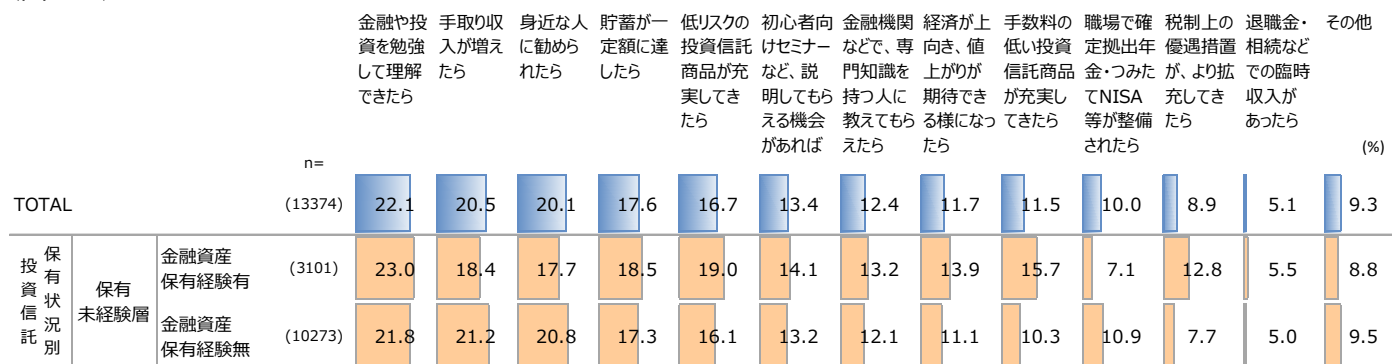
〔図 6-5〕

TOTAL	(13374)	22.1	20.5	20.1	17.6	16.7	13.4	12.4	11.7	11.5	10.0	8.9	5.1	9.3
性別	男性 (5936)	19.9	22.5	15.5	19.8	13.3	11.6	11.6	11.3	11.0	12.0	10.1	5.5	9.0
	女性 (7438)	23.8	19.0	23.8	15.8	19.5	14.9	13.0	12.1	11.9	8.5	7.9	4.8	9.5
年代別	20代 (1962)	26.5	27.2	29.3	25.6	15.6	18.3	16.8	11.0	10.0	13.1	7.4	4.4	3.9
	30代 (2266)	25.2	26.1	28.9	20.2	16.3	17.7	15.0	9.9	11.2	11.5	7.3	4.5	4.1
	40代 (2810)	23.1	24.8	20.5	19.0	16.3	13.0	12.6	10.3	12.0	12.6	9.3	5.5	6.1
	50代 (2314)	21.0	19.8	16.2	15.9	17.9	11.9	12.0	12.7	13.2	9.6	9.8	6.4	10.3
	60代 (2149)	17.4	12.9	12.5	12.7	16.9	10.0	9.1	12.6	11.1	7.4	9.1	5.4	14.9
	70代 (1873)	18.8	10.1	13.0	11.7	17.5	9.7	8.5	14.8	11.0	4.6	10.2	4.0	18.5
世帯年収別	100万円未満 (641)	17.8	22.2	16.7	18.7	12.5	10.3	6.6	9.0	10.3	14.8	6.9	5.5	12.5
	～300万円未満 (2237)	20.9	24.2	18.4	18.5	17.8	12.5	11.5	11.5	11.6	7.6	7.1	4.9	10.9
	～500万円未満 (2874)	23.9	23.2	21.5	19.2	17.6	15.2	14.0	12.3	11.8	7.8	9.1	5.1	7.8
	～1000万円未満 (3407)	24.5	21.3	23.8	20.0	17.6	16.1	14.8	12.0	12.7	9.7	9.6	5.9	5.7
	1000万円以上 (782)	24.9	14.6	23.1	17.5	16.4	16.4	15.0	13.4	14.5	9.5	12.1	7.0	4.9

6. 投資信託保有未経験者の状況（金融資産保有未経験層を含む）

(2) 投資信託購入検討のきっかけ〔Q27:重複回答〕

〔図 6-6〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(1) 投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

- 投資信託の特徴認知では、「元本保証がない」(49.7%)が特に高く、「リスクとリターンは表裏一体の関係」(40.9%)が続く。この他に「価格変動と為替リスクがある」(34.5%)、「証券会社以外でも購入できる」(31.2%)、「過去実績は将来のリターンを保証するものではない」(30.6%)が上位。〔図7-1〕

* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる

- 年代、世帯年収が高くなるほど、いずれの商品特徴の認知率も高くなる。〔図7-2〕
- 投信現在保有種別でみると、株式投信保有層はその他投信保有層に比べて、「投信は信託銀行で分別管理」「MRFは投信商品である」「投信の評価を行う会社がある」の認知度がやや高い。〔図7-4〕

〔図 7-1〕

	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外のもので購入できる	過去の実績は、将来のリターンを保証するものではない	国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある	投資信託は、運用会社が運用している	NISAやDCで投資信託が購入できる	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
2020年	(20000)	49.7	40.9	34.5	31.2	30.6	24.9	24.4	24.4	21.0	12.0	10.6	10.5	9.2	33.8
2019年	(20000)	51.6	40.5	36.3	34.5	-	37.0	26.9	24.7	22.5	12.8	11.6	11.3	9.9	34.3
2018年	(20000)	49.0	30.0	34.1	32.3	-	34.1	22.1	24.3	18.2	9.7	8.7	8.7	7.5	36.8

※選択肢「過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない」は2020年より聴取

※2020年は「国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある」、2018～2019年は「国内の投資信託と海外の投資信託」で聴取

〔図 7-2〕

	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外のもので購入できる	過去の実績は、将来のリターンを保証するものではない	国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある	投資信託は、運用会社が運用している	NISAやDCで投資信託が購入できる	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない
TOTAL	(20000)	49.7	40.9	34.5	31.2	30.6	24.9	24.4	24.4	21.0	12.0	10.6	10.5	9.2	33.8
性別															
男性	(9950)	51.9	43.1	37.9	32.2	34.6	28.3	29.7	26.1	25.1	15.4	13.0	13.1	12.1	30.3
女性	(10050)	47.5	38.7	31.0	30.2	26.6	21.6	19.2	22.7	16.8	8.7	8.1	7.9	6.3	37.2
年代別															
20代	(2597)	28.0	33.1	27.7	18.4	20.8	17.7	17.0	18.3	13.7	7.9	6.2	6.7	6.9	42.5
30代	(3119)	39.8	37.2	29.5	24.0	25.3	19.7	21.0	22.4	17.3	11.5	8.4	7.2	8.7	38.4
40代	(4014)	48.1	39.8	31.4	28.3	29.7	22.9	23.2	24.2	19.8	12.2	9.7	9.8	9.4	36.1
50代	(3426)	56.5	43.4	35.2	33.5	33.9	25.5	26.8	24.3	23.0	13.1	11.3	11.6	10.1	31.9
60代	(3581)	60.0	44.8	38.8	38.3	35.4	29.2	28.6	27.4	25.5	13.6	12.8	13.3	9.9	28.8
70代	(3263)	59.8	45.1	42.8	41.5	35.6	32.7	27.9	28.2	24.4	12.7	13.9	13.1	9.6	27.1
世帯年収別															
100万円未満	(835)	38.3	29.9	24.0	20.1	20.4	15.9	14.4	16.5	13.9	7.7	6.7	7.2	5.4	46.8
～300万円未満	(3083)	46.5	36.9	30.5	27.7	26.8	21.5	20.3	21.5	17.6	9.1	8.7	8.3	6.0	38.5
～500万円未満	(4427)	51.7	42.7	36.6	33.4	31.6	25.2	25.1	25.3	21.6	11.6	10.9	10.4	8.9	30.6
～1000万円未満	(5684)	56.1	47.9	40.6	35.9	37.2	30.1	30.0	28.6	25.3	14.8	12.6	12.6	11.9	25.1
1000万円以上	(1629)	63.0	53.0	47.9	41.3	42.8	37.2	36.5	34.6	33.1	23.2	18.5	20.9	18.6	17.1

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(1) 投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

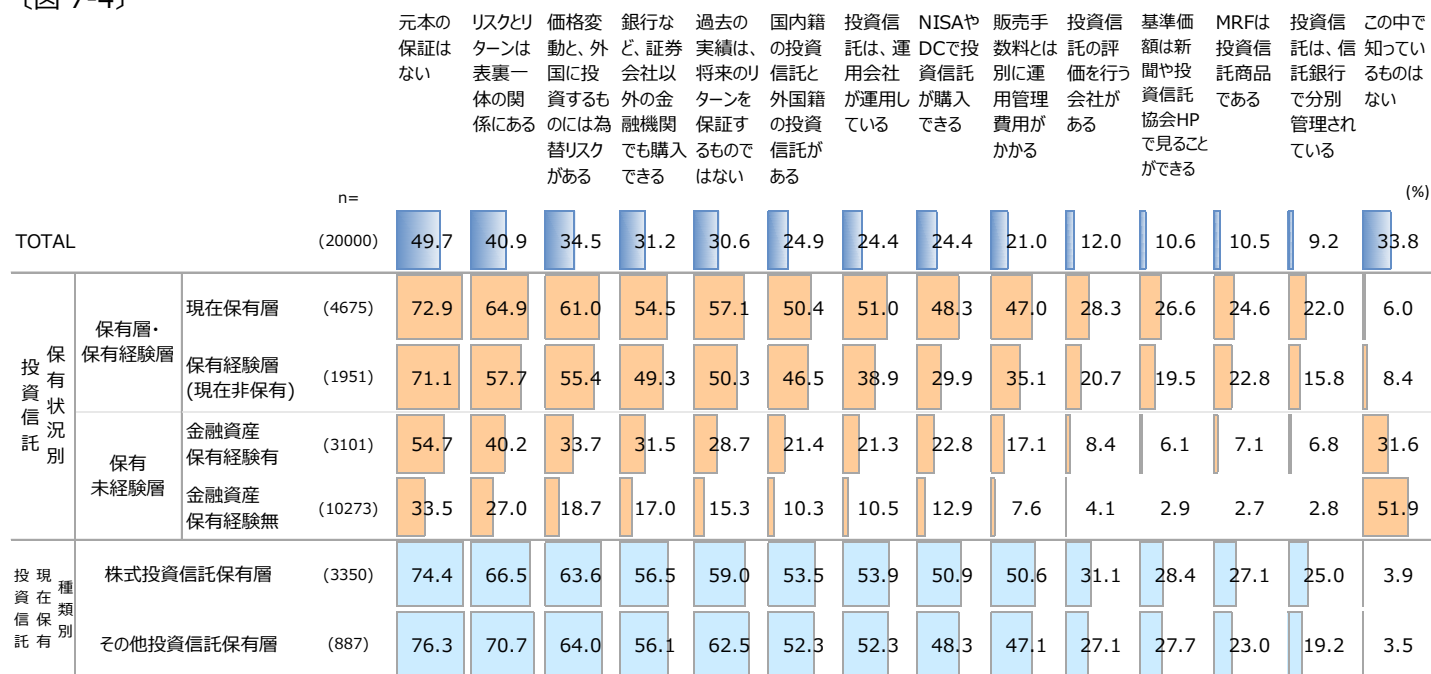
〔図 7-3〕

		n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格変動と、外国に投資するものには為替リスクがある	銀行など、証券会社以外の金融機関でできる	過去の実績は、将来のターンを保證するものではない	国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある	投資信託は、運用会社が運用している	NISAやDCで投資信託が購入できる	販売手数料とは別に運用管理費用がかかる	投資信託の評価を行う会社がある	基準価額は新聞や投資信託協会HPで見ることができる	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	この中で知っているものはない	(%)
TOTAL		(20000)	49.7	40.9	34.5	31.2	30.6	24.9	24.4	24.4	21.0	12.0	10.6	10.5	9.2	33.8	
年代×世帯年収別	20代	100万円未満 (171)	19.3	25.7	22.2	9.9	12.9	12.3	12.3	14.6	10.5	7.6	5.8	8.8	5.3	51.5	
		～300万円未満 (379)	24.5	29.0	26.6	11.9	16.6	12.7	13.7	14.0	11.3	3.4	3.4	4.2	4.2	49.1	
		～500万円未満 (566)	33.7	38.5	32.2	23.0	24.2	21.4	21.6	21.6	15.4	9.5	7.2	7.8	7.2	31.4	
		～1000万円未満 (667)	33.1	41.8	35.7	24.9	27.7	24.7	22.2	24.1	18.3	10.5	7.9	9.3	9.6	30.0	
		1000万円以上 (189)	42.3	41.8	35.4	28.0	31.2	23.8	23.3	23.8	20.1	15.3	11.6	10.1	15.9	21.7	
	30代	100万円未満 (94)	29.8	30.9	19.1	16.0	18.1	11.7	13.8	11.7	9.6	10.6	6.4	4.3	5.3	50.0	
		～300万円未満 (352)	33.5	31.8	24.7	19.0	21.0	15.3	15.9	17.0	12.2	8.8	5.4	3.7	4.8	47.7	
		～500万円未満 (732)	38.8	36.2	27.0	20.1	21.9	17.3	18.9	20.1	14.8	9.8	7.1	7.2	6.1	39.6	
		～1000万円未満 (1151)	46.7	45.2	36.1	30.8	32.1	26.0	25.6	27.4	21.5	14.0	10.7	9.0	11.0	28.3	
		1000万円以上 (220)	56.4	46.8	48.2	38.6	37.3	34.5	36.8	38.6	35.0	25.0	18.6	15.0	21.8	10.5	
	40代	100万円未満 (152)	36.2	28.3	21.7	23.7	19.1	15.1	11.2	15.8	14.5	7.9	5.9	7.9	4.6	51.3	
		～300万円未満 (443)	38.1	34.1	23.3	21.2	23.0	15.6	16.9	16.5	13.5	9.5	6.8	6.5	6.1	46.7	
		～500万円未満 (786)	47.5	37.4	30.5	27.0	28.5	21.5	21.6	23.4	18.2	10.1	8.7	8.8	9.2	35.9	
		～1000万円未満 (1484)	56.1	46.3	37.7	34.0	36.7	27.8	29.4	29.8	24.9	15.2	12.7	11.8	12.1	27.0	
		1000万円以上 (360)	59.2	53.1	45.0	37.8	41.7	34.2	34.7	34.7	31.9	22.5	17.8	20.6	17.8	20.8	
	50代	100万円未満 (144)	54.2	40.3	27.8	28.5	31.9	23.6	25.7	19.4	21.5	8.3	11.1	6.9	8.3	38.2	
		～300万円未満 (438)	50.7	37.2	28.3	25.3	28.8	18.3	18.9	18.0	17.8	9.4	8.0	9.6	6.2	39.3	
		～500万円未満 (583)	53.0	40.1	32.8	30.7	30.7	22.0	24.0	22.8	20.6	10.3	10.1	8.1	8.6	34.8	
		～1000万円未満 (1098)	62.2	47.9	40.0	36.9	38.2	28.6	31.1	27.0	25.7	13.8	11.2	13.1	10.9	25.2	
		1000万円以上 (480)	70.4	58.1	51.5	46.0	47.5	39.6	40.2	36.5	36.0	24.2	19.4	22.3	18.3	15.8	
60代	100万円未満 (184)	52.7	32.1	28.3	25.5	25.5	17.4	14.7	21.2	15.2	6.5	6.5	6.0	4.3	38.6		
	～300万円未満 (701)	56.6	40.1	31.8	33.7	29.1	24.7	24.8	25.7	22.5	10.7	10.7	10.1	6.6	32.5		
	～500万円未満 (816)	63.6	50.0	44.6	44.4	40.7	29.9	31.6	29.3	29.2	15.8	15.7	14.3	11.6	24.9		
	～1000万円未満 (805)	69.3	53.9	47.8	44.8	44.6	37.6	36.8	32.0	31.7	18.4	16.0	16.8	13.7	19.5		
	1000万円以上 (265)	68.7	53.6	49.4	46.4	44.5	42.6	35.8	34.0	35.1	23.0	18.5	26.8	17.4	17.7		
70代	100万円未満 (90)	32.2	18.9	21.1	13.3	10.0	13.3	5.6	12.2	8.9	5.6	3.3	8.9	4.4	57.8		
	～300万円未満 (770)	56.5	41.6	39.1	39.1	33.4	31.2	24.0	28.3	21.0	10.3	12.5	11.2	6.6	29.5		
	～500万円未満 (944)	64.8	49.9	47.4	47.4	38.7	34.4	29.9	31.3	27.8	12.7	14.4	13.7	9.6	21.0		
	～1000万円未満 (479)	74.7	58.0	56.2	51.6	48.9	45.1	38.8	31.5	34.2	18.2	21.1	19.8	15.9	14.2		
	1000万円以上 (115)	78.3	60.9	58.3	47.8	52.2	51.3	48.7	38.3	38.3	31.3	27.8	31.3	23.5	13.9		

7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(1) 投資信託の商品特徴認知状況〔Q12:重複回答〕

〔図 7-4〕

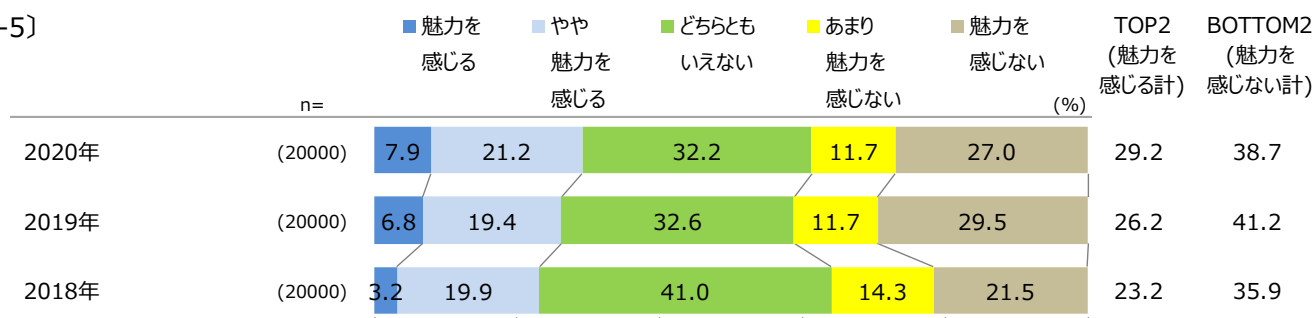


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

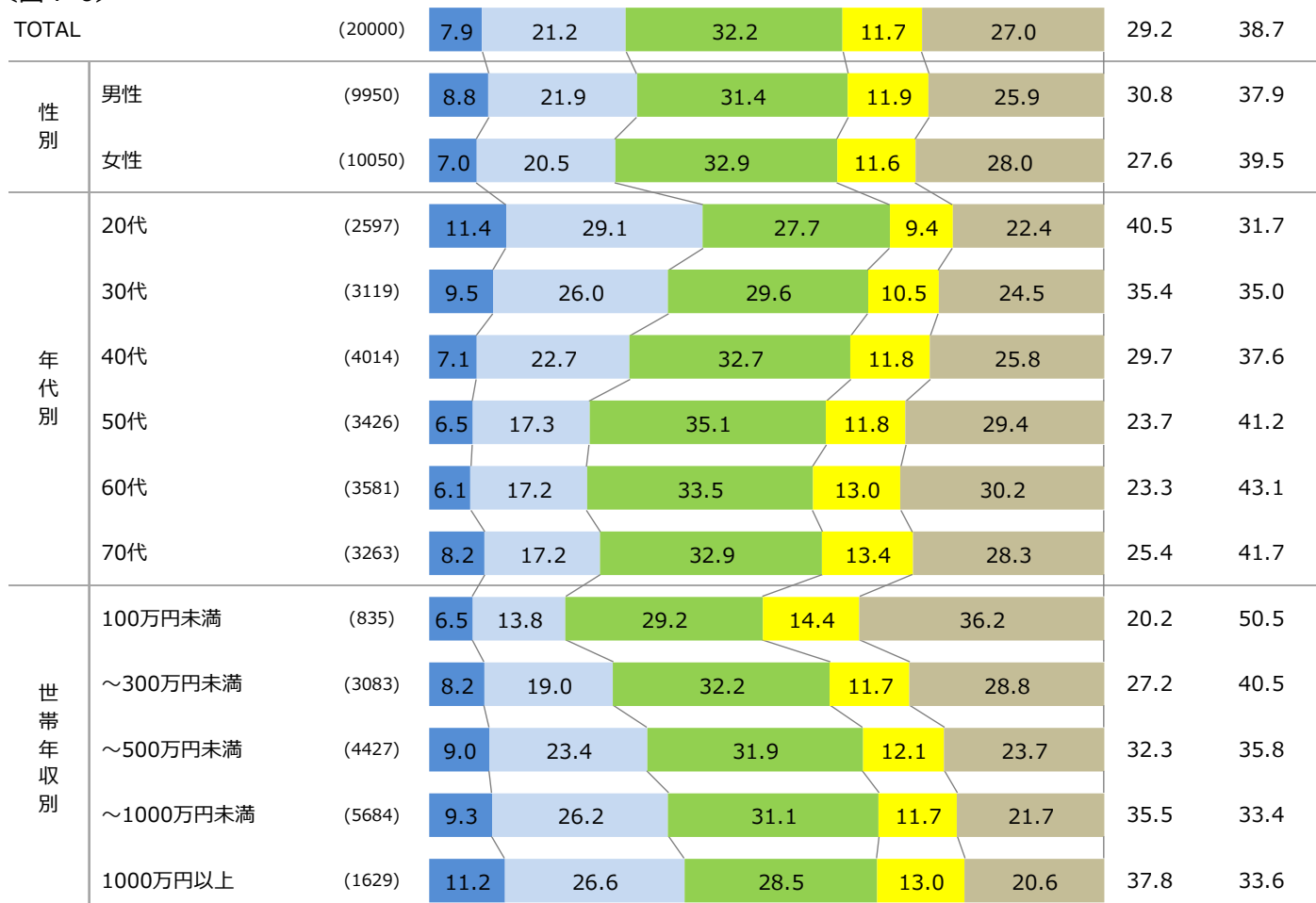
(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力度は、TOP2(魅力を感じる計)が29.2%で、魅力を感じない人(38.7%)の方が多い。TOP2はと前回より3.0ポイントとわずかに増加。〔図7-5〕
* 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では、TOP2が20代で40.5%、30代で35.4%と他の年代に比べて高い。〔図7-6〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、魅力を感じる人は68.0%。うち、40代以下で75%以上が当該商品に対して魅力を感じている。〔図7-9〕

〔図 7-5〕



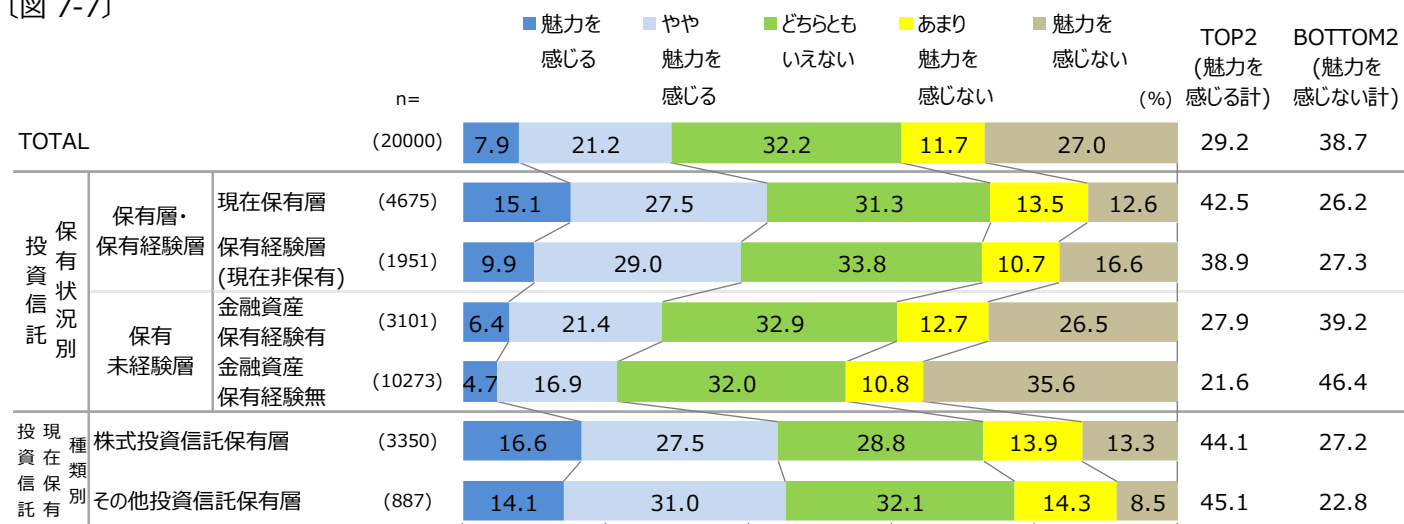
〔図 7-6〕



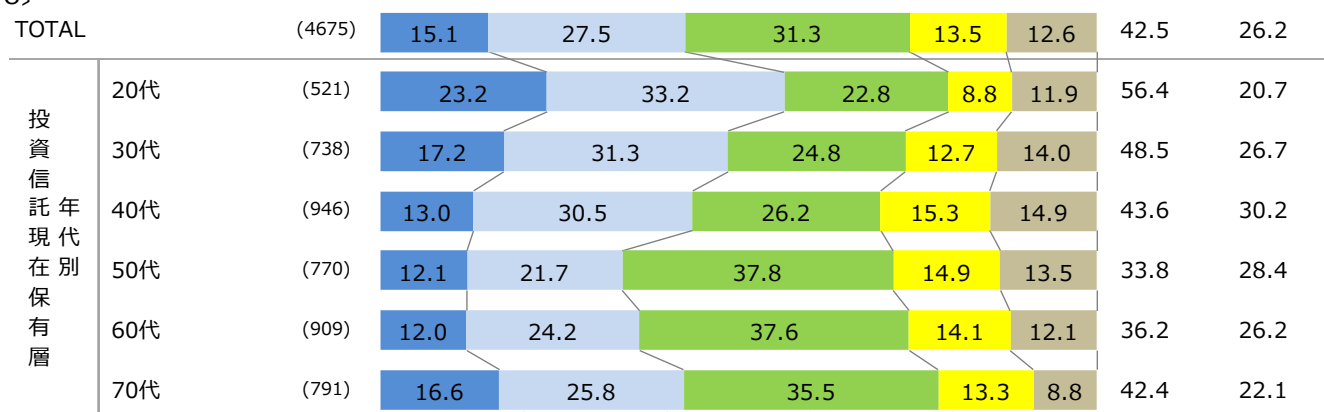
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(2) 毎月分配型投資信託への魅力有無〔Q21:単数回答〕

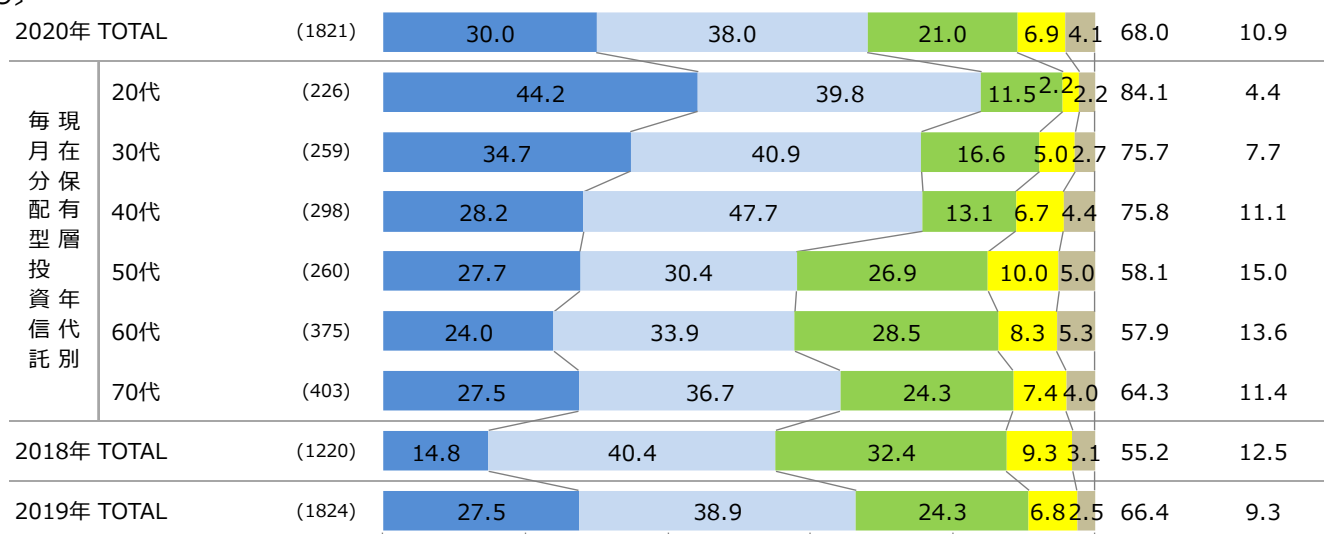
〔図 7-7〕



〔図 7-8〕



〔図 7-9〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の魅力点では、「分配金を受け取ることで安心できる」(59.7%)、「毎月利益を確定したい」(55.0%)が上位。〔図7-10〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別でみると、若年層ほど「毎月利益を確定したい」が高い傾向。70代では「分配金で年金補完」が高く、毎月分配型投資信託に魅力を感じている人のうち、4人に1人が評価している様子。〔図7-11〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、30～60代で「分配金を受け取ることで安心できる」が60%程度と高い。一方、「毎月利益を確定したい」は20代中心とした若年層で高い。〔図7-14〕

〔図 7-10〕

	n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資信 託の他に魅力的な商 品がなかった	その他
2020年	(5830)	59.7	55.0	19.7	4.3	0.3
2019年	(5244)	62.0	55.0	20.7	4.3	0.3
2018年	(4631)	57.2	56.9	15.9	4.5	0.6

〔図 7-11〕

	n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資信 託の他に魅力的な商 品がなかった	その他
TOTAL	(5830)	59.7	55.0	19.7	4.3	0.3
性別						
男性	(3061)	60.2	53.9	22.0	4.5	0.4
女性	(2769)	59.0	56.1	17.3	4.0	0.3
年代別						
20代	(1053)	53.0	60.5	17.4	5.4	0.5
30代	(1105)	57.2	57.8	17.5	4.3	0.4
40代	(1194)	60.4	54.4	20.0	3.7	0.2
50代	(813)	64.7	57.7	17.1	4.1	0.1
60代	(836)	62.9	50.8	21.4	4.3	0.4
70代	(829)	62.2	46.6	26.2	3.7	0.6
世帯年収別						
100万円未満	(169)	51.5	61.5	21.3	4.7	0.0
～300万円未満	(840)	59.4	56.3	20.8	3.7	0.1
～500万円未満	(1432)	59.1	54.7	19.9	4.1	0.3
～1000万円未満	(2017)	61.3	53.3	19.5	3.9	0.2
1000万円以上	(616)	59.6	52.8	21.8	6.0	0.3

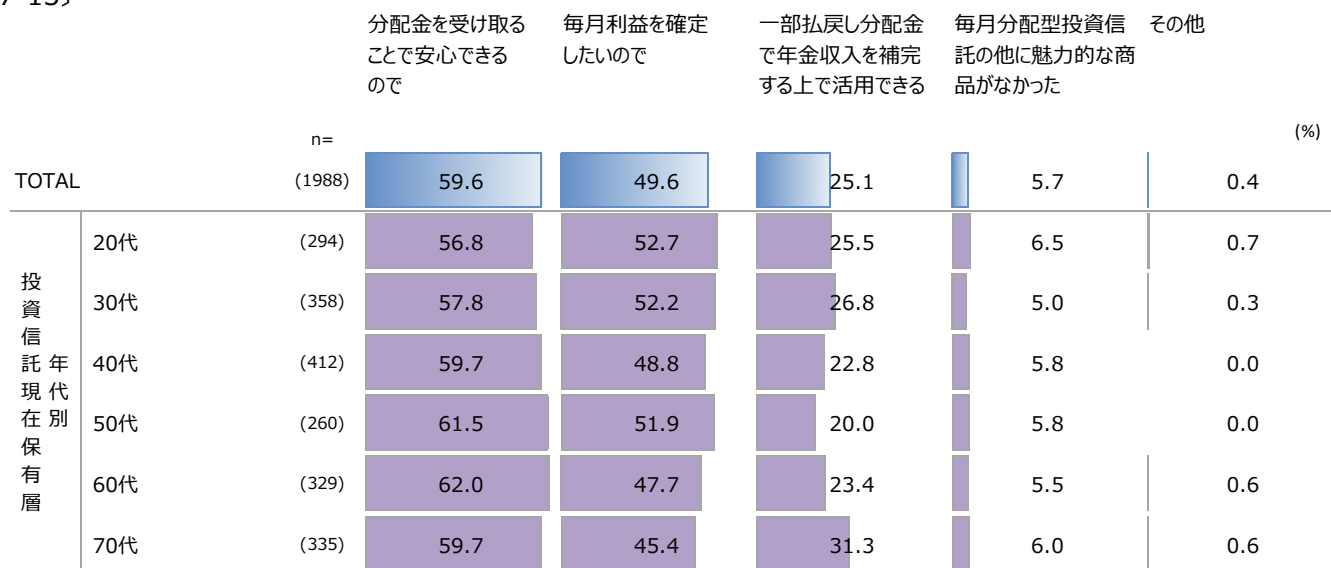
〔図 7-12〕

	n=	分配金を受け取る ことで安心できる ので	毎月利益を確定 したいので	一部払戻し分配金 で年金収入を補完 する上で活用できる	毎月分配型投資信 託の他に魅力的な商 品がなかった	その他
TOTAL	(5830)	59.7	55.0	19.7	4.3	0.3
投資信託保有状況別						
保有層・保有経験層						
現在保有層	(1988)	59.6	49.6	25.1	5.7	0.4
保有経験層 (現在非保有)	(759)	62.6	46.5	20.7	3.4	0.4
保有未経験層						
金融資産 保有経験有	(864)	60.2	58.7	18.9	2.8	0.5
金融資産 保有経験無	(2219)	58.6	61.2	14.9	3.8	0.3

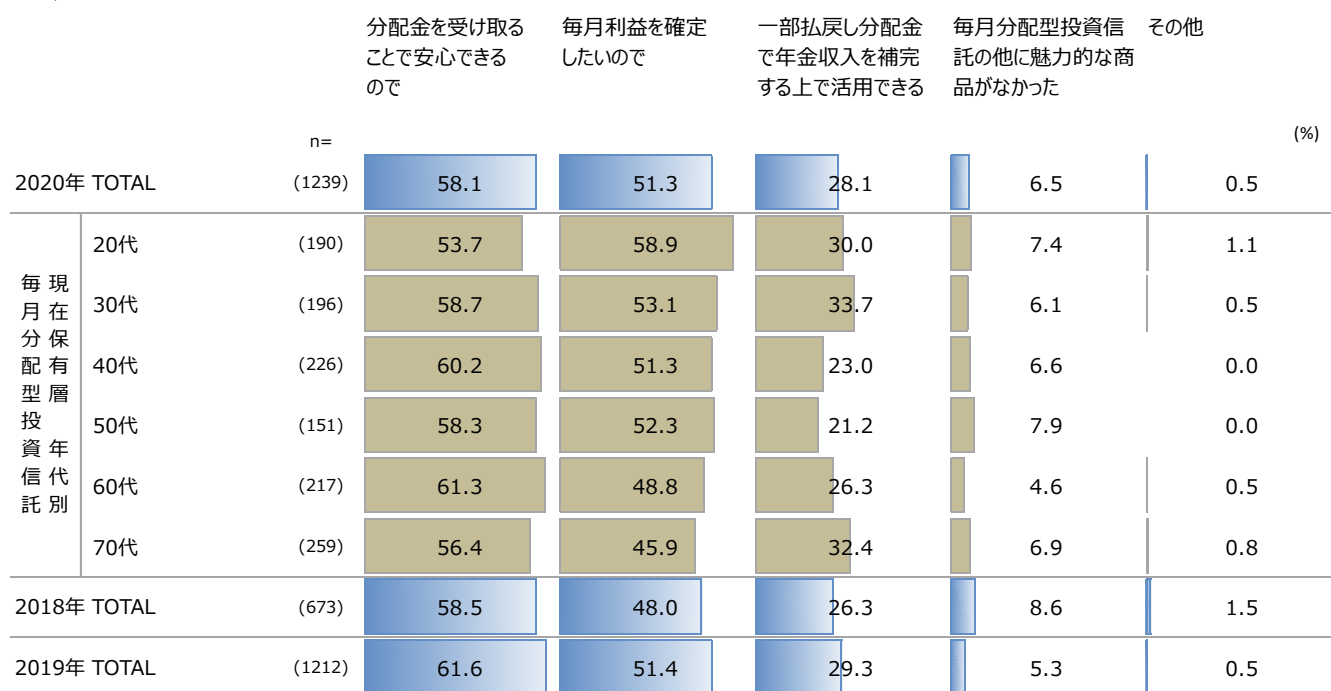
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(3) 毎月分配型投資信託商品の魅力点(毎月分配型魅力者) 〔Q22：重複回答〕

〔図 7-13〕



〔図 7-14〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（4）毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

- 毎月分配型投資信託の非魅力点は、「基準価額が下がる」(23.9%)が最も高く、次いで「分配金は必要ではないので」(19.9%)が続く。〔図7-15〕 * 2018年からの変動は調査パネル変更の影響も考えられる
- 年代別では、20～30代は「分配金は必要ない」が、30～40代は「複利効果が得られないので」がやや高い傾向。〔図7-16〕
- 世帯年収別では、「長期投資に合わないので」「分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので」「複利効果が得られないので」が年収が高いほど高くなる傾向。〔図7-16〕
- 毎月分配型投信現在保有層では、「元本の一部が払い戻される場合がある」(50.3%)は前回より6.5ポイント減少、「分配金額が変動する場合がある」(17.2%)は9.7ポイント減少。〔図7-19〕

〔図 7-15〕

	n=	分配金の額だけ 基準価額が 下がるので	分配金は 必要ではない ので	長期投資に 合わないので	分配金が 少ないので	分配金は 元本の一部が 払い戻される 場合があるので	複利効果が 得られないので	分配金額が 変動する場合が あるので	その他	(%)
2020年	(7739)	23.9	19.9	19.5	17.7	14.4	13.6	12.1	13.5	
2019年	(8232)	25.6	19.8	18.4	17.9	14.8	13.6	12.1	12.6	
2018年	(7175)	15.9	20.7	15.8	15.8	9.5	10.2	11.5	26.7	

〔図 7-16〕

		n=	分配金の額だけ 基準価額が 下がるので	分配金は 必要ではない ので	長期投資に 合わないので	分配金が 少ないので	分配金は 元本の一部が 払い戻される 場合があるので	複利効果が 得られないので	分配金額が 変動する場合が あるので	その他	(%)
TOTAL		(7739)	23.9	19.9	19.5	17.7	14.4	13.6	12.1	13.5	
性別	男性	(3768)	27.0	21.6	20.9	19.1	16.8	17.3	9.7	10.7	
	女性	(3971)	21.0	18.3	18.2	16.3	12.1	10.0	14.4	16.1	
年代別	20代	(824)	26.9	24.4	18.8	12.6	10.3	11.3	8.5	12.6	
	30代	(1091)	23.5	22.1	20.0	17.3	12.6	16.2	12.7	10.7	
	40代	(1508)	25.1	19.8	19.3	20.2	14.3	17.4	12.1	11.3	
	50代	(1410)	23.9	17.4	19.5	18.7	15.5	12.9	12.8	12.8	
	60代	(1544)	23.3	19.5	18.7	17.6	15.0	12.0	12.0	15.0	
	70代	(1362)	22.0	18.6	20.8	17.3	16.6	11.0	13.0	17.5	
世帯 年収別	100万円未満	(422)	27.7	18.5	11.1	17.8	10.4	8.5	9.0	17.5	
	～300万円未満	(1250)	21.0	17.8	18.2	16.7	12.0	10.2	13.1	17.4	
	～500万円未満	(1583)	21.5	18.6	20.9	20.0	17.5	14.6	13.0	12.4	
	～1000万円未満	(1898)	25.9	22.0	21.5	18.7	17.7	18.1	12.8	9.4	
	1000万円以上	(548)	23.5	21.7	25.0	19.9	20.1	23.4	11.9	7.1	

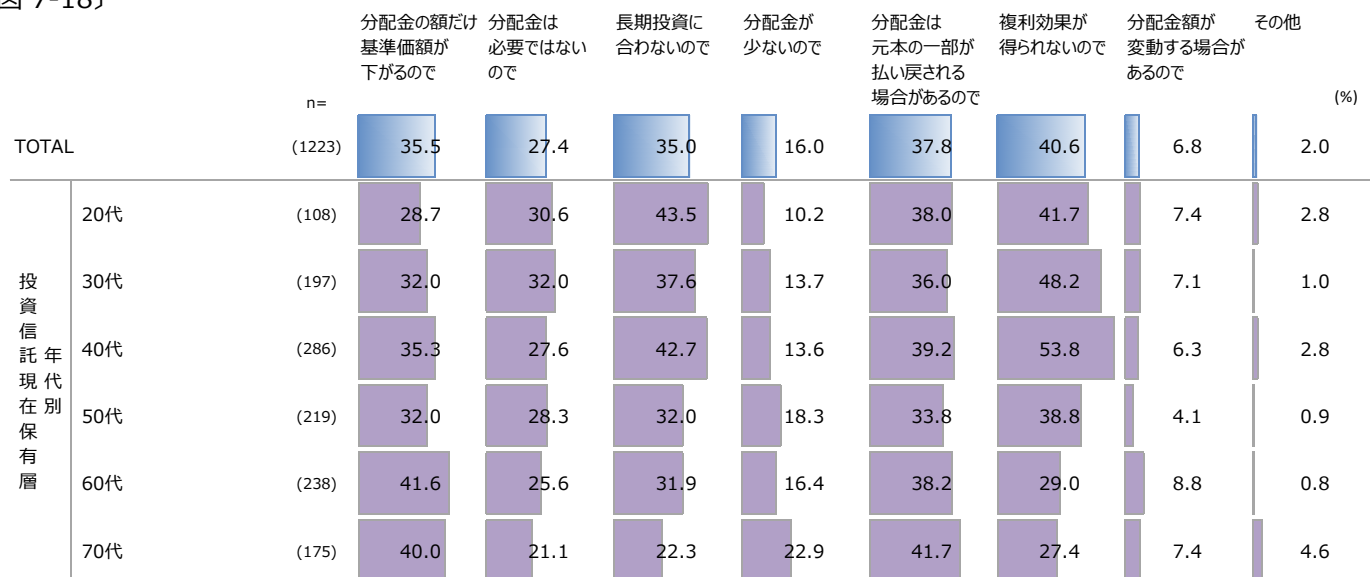
〔図 7-17〕

		n=	分配金の額だけ 基準価額が 下がるので	分配金は 必要ではない ので	長期投資に 合わないので	分配金が 少ないので	分配金は 元本の一部が 払い戻される 場合があるので	複利効果が 得られないので	分配金額が 変動する場合が あるので	その他	(%)
TOTAL		(7739)	23.9	19.9	19.5	17.7	14.4	13.6	12.1	13.5	
保有 状況 別	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(1223)	35.5	27.4	35.0	16.0	37.8	40.6	6.8	2.0
		保有経験層 (現在非保有)	(533)	31.3	15.8	18.6	26.8	27.2	21.6	13.3	5.6
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(1216)	18.8	16.5	21.2	21.5	13.0	11.2	15.4	12.3
		金融資産 保有経験無	(4767)	21.4	19.3	15.2	16.1	7.3	6.4	12.5	17.6

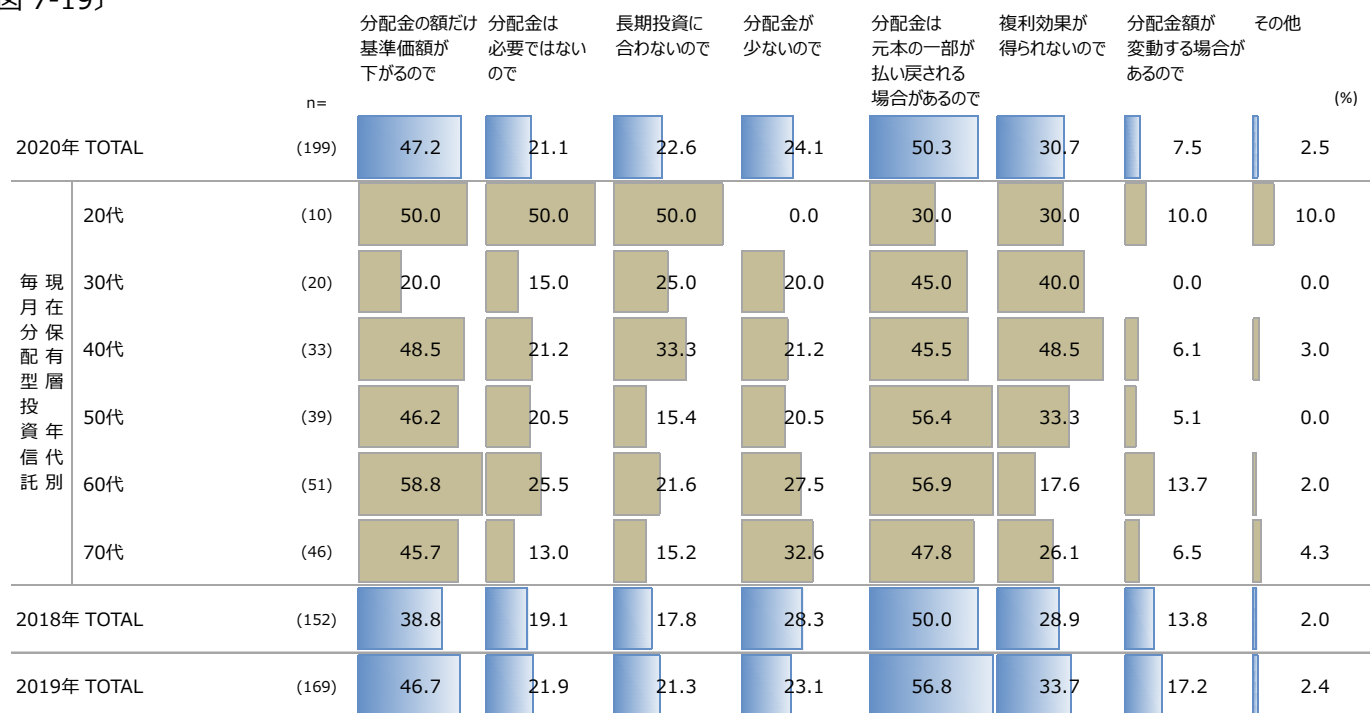
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(4) 毎月分配型投資信託商品の非魅力点(毎月分配型非魅力者) 〔Q23：重複回答〕

〔図 7-18〕



〔図 7-19〕

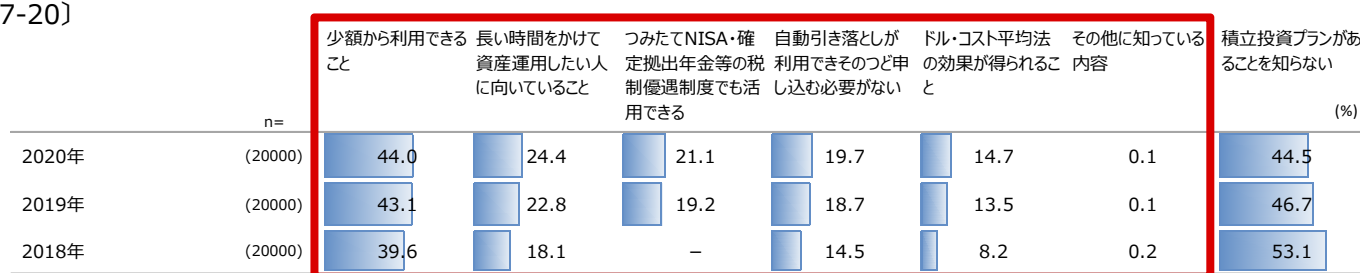


7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(5) 積立投資プランの内容認知〔Q19：重複回答〕

- 積立投資プランについていずれかの内容認知率は、全体で55.5%と半数以上になる。具体的には、「少額から利用できる」(44.0%)が特に高く、以下「長い時間をかけて資産運用したい人向き」「つみたてNISA・確定拠出年金等でも活用可能」「自動引き落としが利用可能」が20%前後で続く。〔図7-20〕
- 年代が高いほど認知率が高くなる項目が多いが、「ドル・コスト平均法の効果が得られる」は30～40代の認知がやや高い。〔図7-21〕

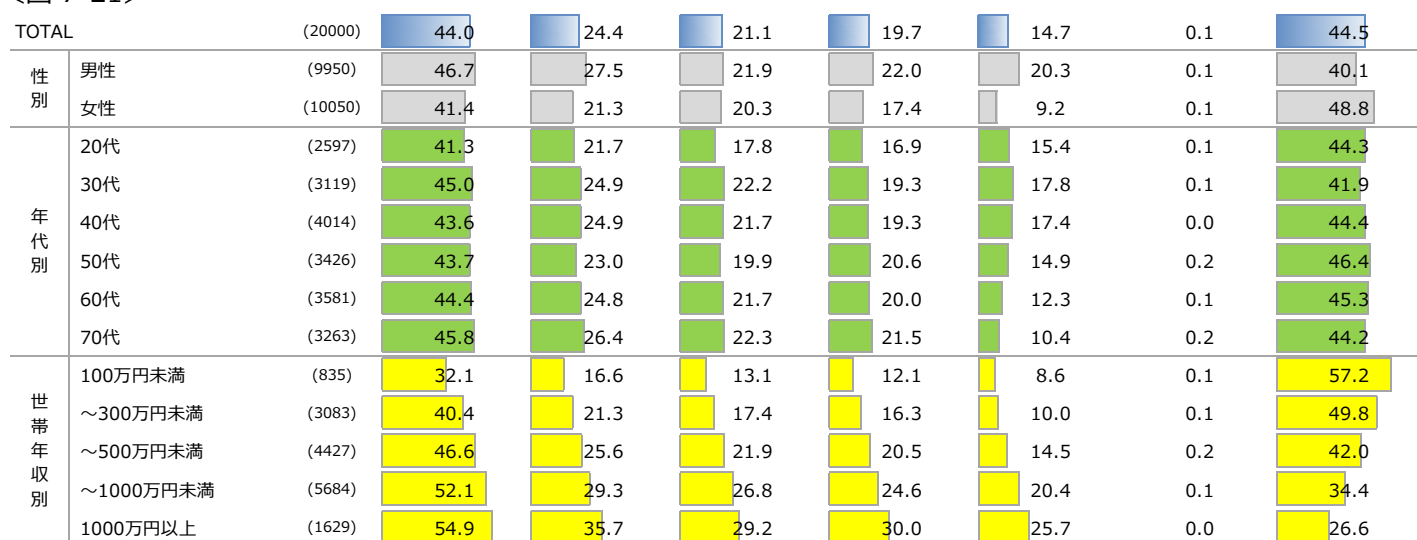
〔図 7-20〕



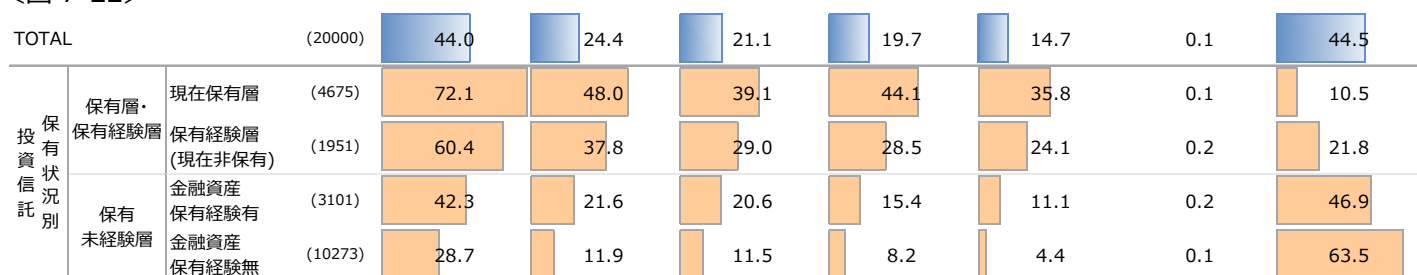
「積立投資プラン」の認知率2020年55.5%／2019年53.3%／2018年46.9%
(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

※選択肢「つみたてNISA・確定拠出年金等の税制優遇制度でも活用できる」は2019年より聴取

〔図 7-21〕



〔図 7-22〕



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(6) 投資信託運用会社の重視点〔Q17：重複回答〕

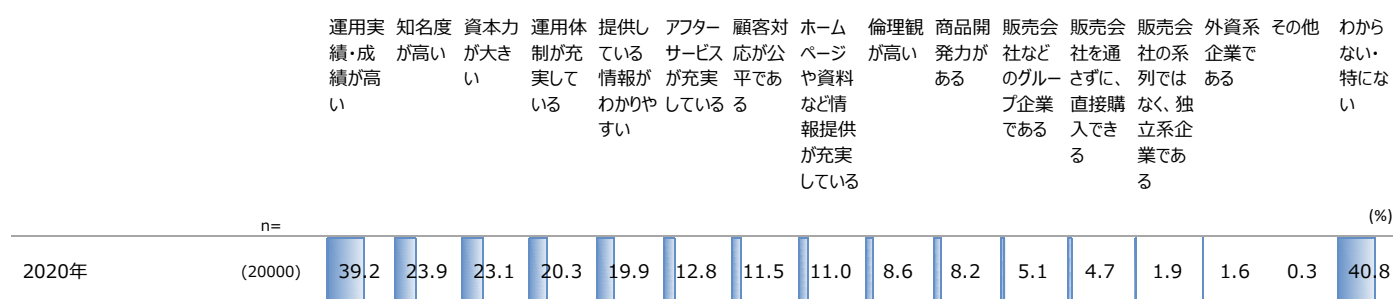
- 投資信託の運用会社選択では「運用実績・成績が高い」(39.2%)、次いで「知名度が高い」(23.9%)、「資本力が大きい」(23.1%)が続く。金融コンピテンシーに関する項目では「顧客対応が公平である」は11.5%、「倫理観が高い」は8.6%となった〔図7-23〕

* 2020年は、2019年以前と選択肢が異なるため、2019年以前のデータは参考値

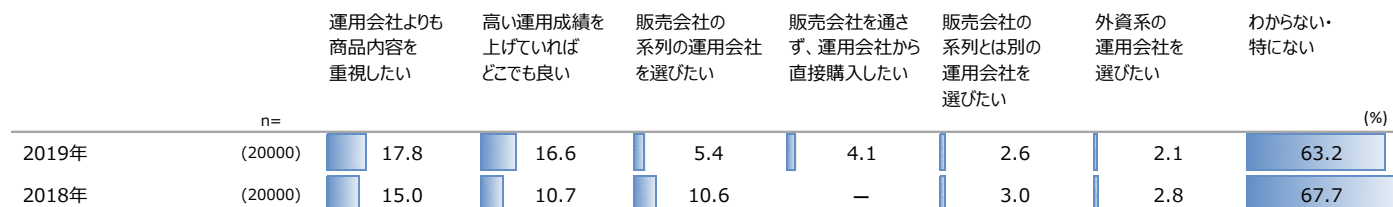
- 投信現在保有層は、「運用実績・成績が高い」が他層に比べて高い。株式投信保有層は「資本力が大きい」が他層より高い。〔図7-25〕

〔図 7-23〕

※2019年までは投資信託の運用会社の「選択基準」と「重視点」に分けて聴取

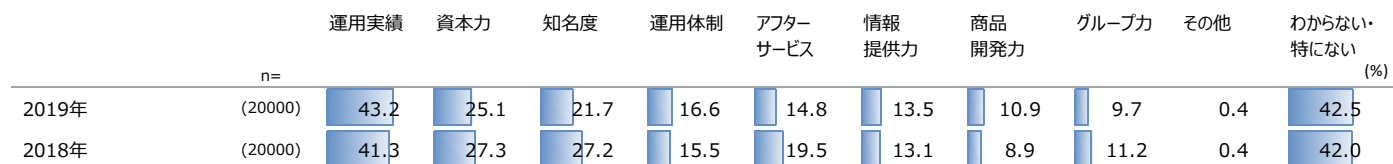


【参考】2019年、2018年 「選択基準」



※選択肢「販売会社を通さず、運用会社から直接購入したい」は2019年より聴取

【参考】2019年、2018年 「重視点」



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

(6) 投資信託運用会社の重視点〔Q17：重複回答〕

〔図 7-24〕

		n=	運用実績・成績が高い	知名度が高い	資本力大きい	運用体制が充実している	提供している情報がわかりやすい	アフターサービスが充実している	顧客対応が公平である	ホームページや資料など情報提供が充実している	倫理観が高い	商品開発力がある	販売会社などのグループ企業である	販売会社を通じて、直接購入できる	販売会社の系列ではなく、独立系企業である	外資系企業である	その他	わからない・特にな
TOTAL		(20000)	39.2	23.9	23.1	20.3	19.9	12.8	11.5	11.0	8.6	8.2	5.1	4.7	1.9	1.6	0.3	40.8
性別	男性	(9950)	41.4	23.8	24.0	20.1	17.7	10.5	10.4	11.4	9.1	9.1	4.8	5.2	2.5	1.9	0.4	36.8
	女性	(10050)	37.0	24.0	22.2	20.5	22.0	15.1	12.6	10.5	8.1	7.3	5.5	4.2	1.2	1.3	0.2	44.8
年代別	20代	(2597)	34.4	29.9	24.1	19.2	20.1	13.7	11.0	11.9	8.4	6.7	4.8	5.0	2.7	2.8	0.3	38.9
	30代	(3119)	38.7	27.9	24.8	20.1	20.8	13.8	10.2	12.3	7.3	7.0	5.1	4.7	1.7	2.4	0.4	37.7
	40代	(4014)	39.7	23.2	23.4	20.7	21.4	14.4	11.8	12.1	9.1	7.8	4.3	5.2	1.8	1.7	0.2	39.4
	50代	(3426)	41.7	20.9	21.8	21.3	20.4	13.9	13.3	11.7	9.1	8.0	4.6	4.6	1.9	1.1	0.4	41.7
	60代	(3581)	40.1	20.3	21.2	20.0	17.8	11.1	11.2	8.3	8.9	9.1	4.5	4.2	1.7	0.9	0.3	43.6
	70代	(3263)	39.4	23.4	23.8	20.2	18.7	9.9	11.6	9.8	8.5	10.1	7.7	4.3	1.7	0.8	0.4	42.9
世帯年収別	100万円未満	(835)	27.3	18.9	16.5	14.7	14.1	11.9	10.2	9.2	8.6	6.6	3.6	5.1	1.2	1.6	0.6	53.8
	～300万円未満	(3083)	36.0	22.5	21.1	19.1	19.4	12.5	11.8	10.7	8.1	7.3	4.5	4.7	1.5	1.5	0.3	45.2
	～500万円未満	(4427)	40.3	26.3	24.4	21.4	20.8	13.9	12.2	10.6	8.4	8.1	6.1	4.2	1.7	1.7	0.3	37.8
	～1000万円未満	(5684)	47.4	28.1	26.9	23.3	22.9	13.8	11.7	13.1	9.6	10.1	5.5	5.5	2.5	1.9	0.3	29.8
	1000万円以上	(1629)	48.8	27.4	29.9	25.5	21.4	12.0	13.1	13.7	11.0	11.5	6.3	5.7	3.4	2.1	0.4	25.7

〔図 7-25〕

		n=	運用実績・成績が高い	知名度が高い	資本力大きい	運用体制が充実している	提供している情報がわかりやすい	アフターサービスが充実している	顧客対応が公平である	ホームページや資料など情報提供が充実している	倫理観が高い	商品開発力がある	販売会社などのグループ企業である	販売会社を通じて、直接購入できる	販売会社の系列ではなく、独立系企業である	外資系企業である	その他	わからない・特にな	
TOTAL		(20000)	39.2	23.9	23.1	20.3	19.9	12.8	11.5	11.0	8.6	8.2	5.1	4.7	1.9	1.6	0.3	40.8	
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層	現在保有層	(4675)	55.1	29.9	31.0	26.1	21.6	9.7	9.0	14.5	8.3	13.3	6.2	6.6	3.3	2.2	0.5	16.4
		保有経験層(現在非保有)	(1951)	50.4	28.6	27.7	22.8	23.1	10.3	11.8	11.5	9.8	10.4	7.2	5.2	3.1	1.6	0.7	21.4
	保有未経験層	金融資産保有経験有	(3101)	44.3	24.8	25.6	23.7	23.9	15.4	15.9	12.7	11.7	8.8	6.3	5.5	1.5	1.5	0.4	38.1
		金融資産保有経験無	(10273)	28.4	20.0	17.9	16.2	17.2	13.9	11.3	8.8	7.6	5.3	3.9	3.5	1.1	1.3	0.2	56.4
現在保有種類別	株式投資信託保有層	(3350)	58.5	32.0	33.3	27.3	22.7	9.9	9.0	15.5	8.8	14.3	6.4	6.9	3.8	2.6	0.6	12.1	
	その他投資信託保有層	(887)	55.2	27.5	28.9	28.7	21.9	10.6	11.2	14.1	8.3	14.1	7.4	6.9	2.5	1.8	0.2	15.8	

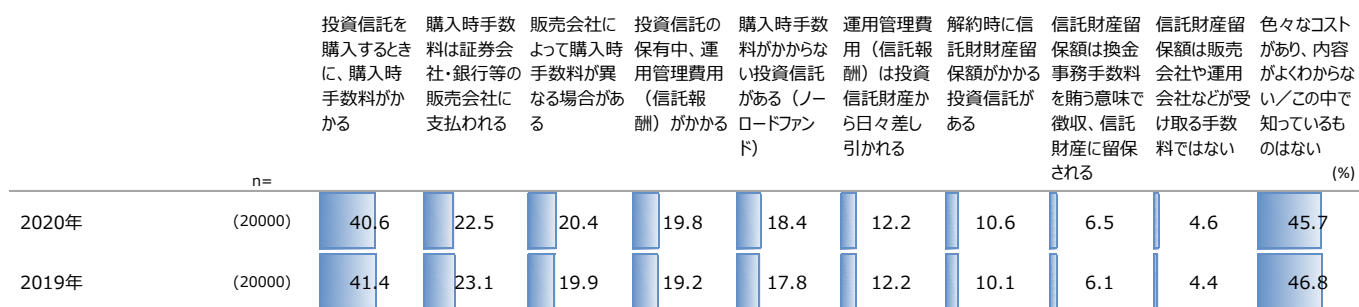
7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（7）投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

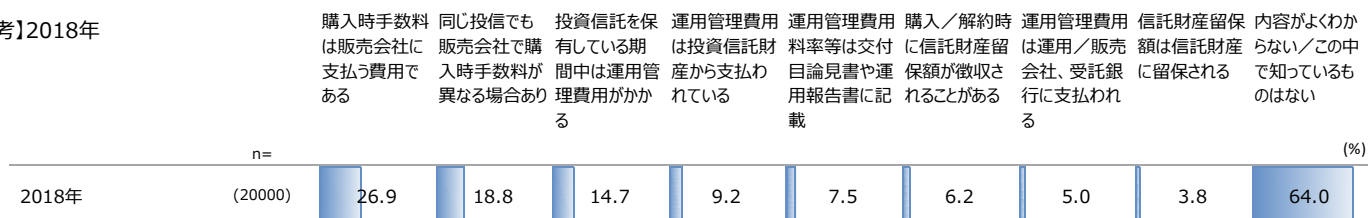
- 投資信託にかかるコストの特徴認知については、「購入時手数料がかかる」(40.6%)が最も高く、「購入時手数料は販売会社に支払われる」(22.5%)、「販売会社により購入時手数料が異なる場合がある」(20.4%)、「保有中、運用管理費用がかかる」(19.8%)、「購入時手数料がかからない投信がある」(18.4%)が上位で続く。〔図7-26〕
- 認知上位項目では、年代、世帯年収が高くなるにつれて認知率も高くなるものが多いが、「購入時手数料がかからない投信がある」は若年層でやや高い。〔図7-27〕
- 投資信託の保有未経験(金融資産保有経験無)層では、どの特徴も知らない人が66.5%と高い。〔図7-28〕

〔図 7-26〕

※2018年までは投資信託の「手数料」の認知、2019年は投資信託の「コスト」の認知を聴取。



【参考】2018年



7. 投資信託全般に関する状況（全体）

（7）投資信託のコスト特徴認知状況〔Q25:重複回答〕

〔図 7-27〕

		n=	投資信託を 購入するときに、購入時 手数料がかかる	購入時手数料は証券会 社・銀行等の 販売会社に 支払われる	販売会社に よって購入時 手数料が異 なる場合があ る	投資信託の 保有中、運 用管理費用 （信託報 酬）がかかる	購入時手数料 がかからない 投資信託 がある（ノー ロードファン ド）	運用管理費 用（信託報 酬）は投資 信託財産か ら日々差し 引かれる	解約時に信 託財産留 保額がかかる 投資信託が ある	信託財産留 保額は換金 事務手数料 を購う意味で 徴収、信託 財産に留保 される	信託財産留 保額は販売 会社や運用 会社などが受 け取る手続 料ではない	色々なコスト があり、内容 がよくわから ない／この中 で知っている ものはない	(%)
TOTAL		(20000)	40.6	22.5	20.4	19.8	18.4	12.2	10.6	6.5	4.6	45.7	
性別	男性	(9950)	43.9	26.7	24.1	24.5	23.5	16.0	13.0	8.4	6.1	39.2	
	女性	(10050)	37.4	18.4	16.8	15.0	13.4	8.4	8.2	4.5	3.1	52.2	
年代別	20代	(2597)	28.1	16.3	15.3	14.0	19.5	9.3	7.9	5.8	4.3	50.4	
	30代	(3119)	33.6	18.0	18.5	16.8	20.5	11.5	9.5	6.5	4.9	47.5	
	40代	(4014)	38.7	20.4	20.4	19.0	20.2	12.2	10.8	6.4	4.8	46.7	
	50代	(3426)	41.7	22.7	21.3	21.0	17.8	12.6	11.0	6.3	4.5	46.0	
	60代	(3581)	47.7	26.2	22.5	22.7	17.0	13.3	11.9	6.8	4.6	43.4	
	70代	(3263)	50.7	30.1	23.2	23.5	15.6	13.5	11.6	6.9	4.1	41.5	
世帯 年収別	100万円未満	(835)	28.9	14.0	14.3	13.9	12.1	8.7	7.1	4.0	4.9	58.6	
	～300万円未満	(3083)	38.2	18.8	17.0	15.5	15.1	9.5	7.7	4.3	3.0	51.1	
	～500万円未満	(4427)	42.5	23.7	20.5	20.1	18.5	12.2	10.2	6.0	3.9	43.3	
	～1000万円未満	(5684)	46.7	27.7	25.1	24.3	23.9	15.6	13.6	8.3	5.3	35.9	
	1000万円以上	(1629)	53.3	34.5	31.8	31.4	29.2	21.7	18.8	13.0	10.7	27.0	

〔図 7-28〕

		n=	投資信託を 購入するときに、購入時 手数料がかかる	購入時手数料は証券会 社・銀行等の 販売会社に 支払われる	販売会社に よって購入時 手数料が異 なる場合があ る	投資信託の 保有中、運 用管理費用 （信託報 酬）がかかる	購入時手数料 がかからない 投資信託 がある（ノー ロードファン ド）	運用管理費 用（信託報 酬）は投資 信託財産か ら日々差し 引かれる	解約時に信 託財産留 保額がかかる 投資信託が ある	信託財産留 保額は換金 事務手数料 を購う意味で 徴収、信託 財産に留保 される	信託財産留 保額は販売 会社や運用 会社などが受 け取る手続 料ではない	色々なコスト があり、内容 がよくわから ない／この中 で知っている ものはない	(%)	
TOTAL		(20000)	40.6	22.5	20.4	19.8	18.4	12.2	10.6	6.5	4.6	45.7		
投資信託 保有状況別	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(4675)	70.1	47.7	43.0	44.7	46.4	29.7	25.6	16.3	10.9	10.6	
		保有経験層 (現在非保有)	(1951)	62.6	40.7	33.7	33.1	28.1	19.4	17.8	11.1	7.5	19.1	
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(3101)	41.4	18.9	17.3	16.7	10.3	9.0	6.5	3.9	2.5	46.9	
		金融資産 保有経験無	(10273)	22.8	8.7	8.6	6.8	6.3	3.8	3.6	1.9	1.8	66.5	
現在 保有 種類別	株式投資信託保有層	(3350)	72.0	50.1	45.9	48.2	52.2	33.0	28.4	18.4	12.3	7.7		
	その他投資信託保有層	(887)	72.0	51.5	44.5	46.4	38.6	27.4	23.3	13.9	9.7	7.4		

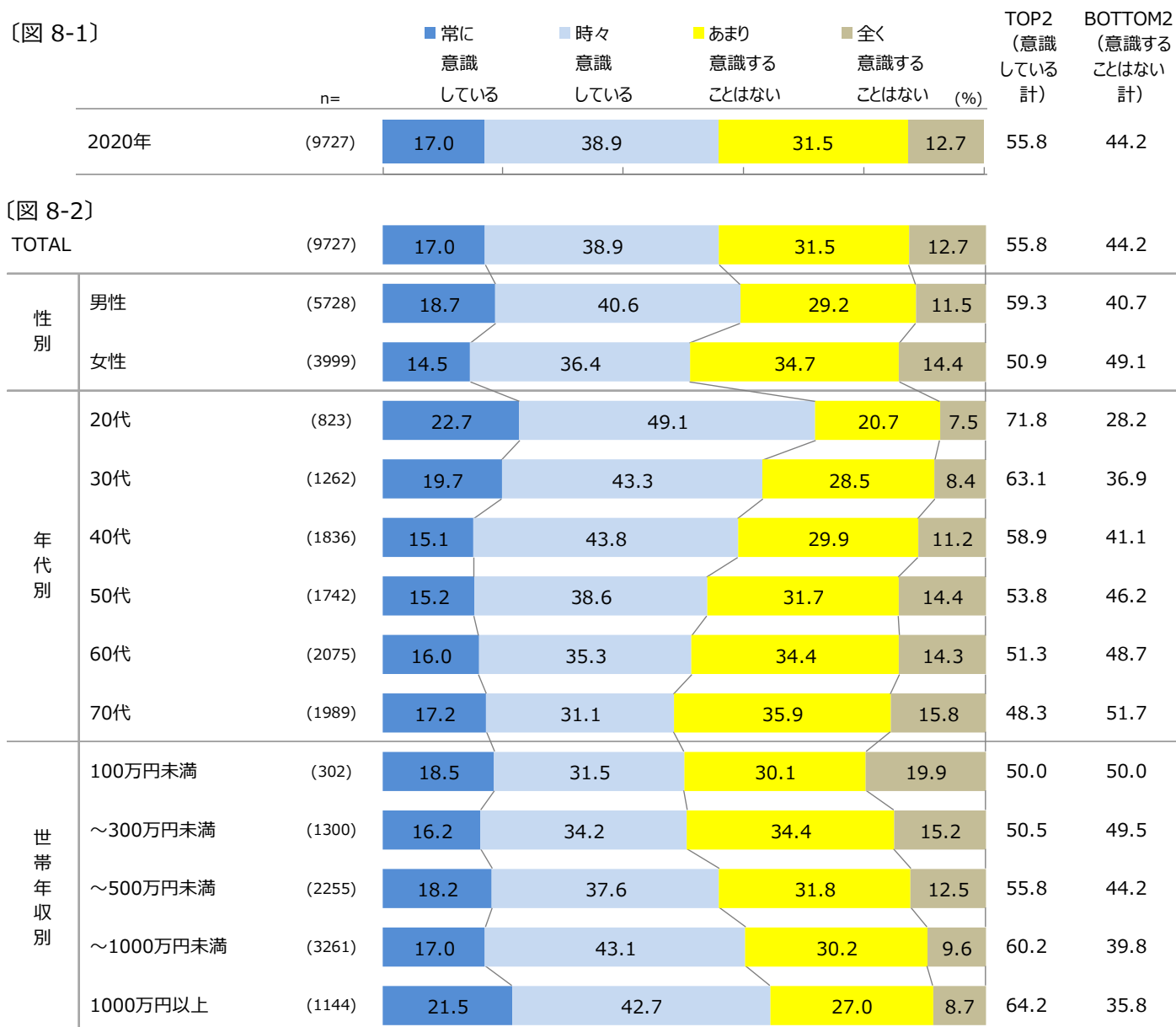
8. 投資意識に関する状況



8. 投資意識に関する状況（金融資産保有経験者）

(1) 書面情報の投資行動への影響に対する意識〔Q28:単数回答〕

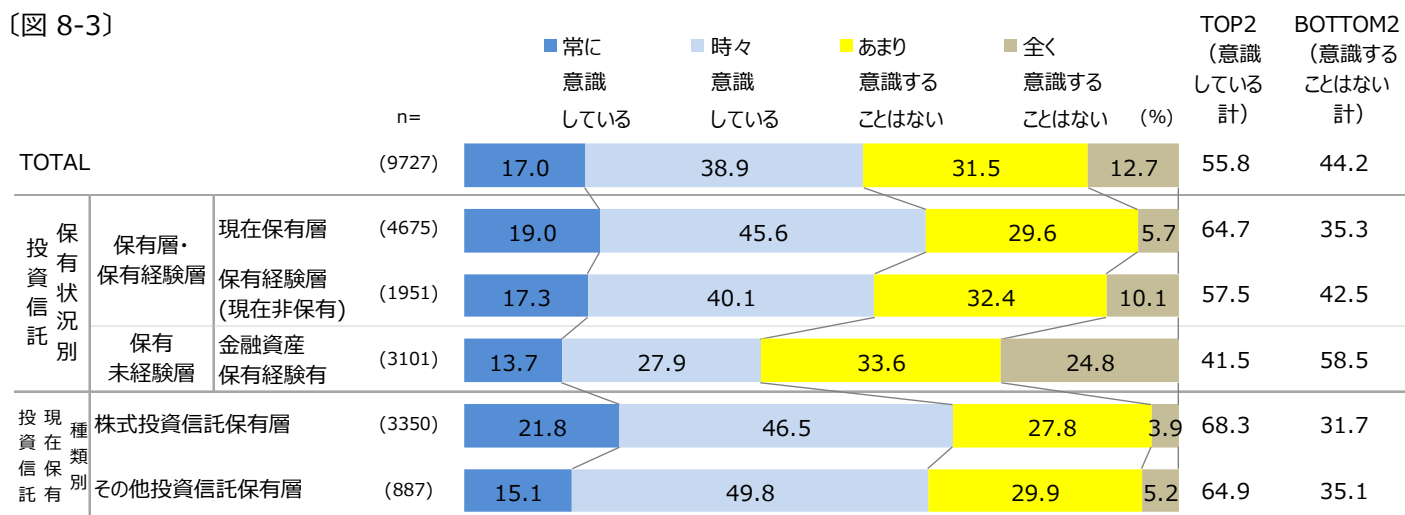
- 書面情報の投資行動への影響（「投資においては、書類に記載されているあらゆる情報が自身の判断・選択に関わってくる」こと）については、TOP2(意識している計)が55.8%と半数以上が意識している。〔図8-1〕
- 年代別では、若年層ほどTOP2が高い。〔図8-2〕
- 投信保有状況別では、投信現在保有層でTOP2(64.7%)が高い。〔図8-3〕



8. 投資意識に関する状況（金融資産保有経験者）

(1) 書面情報の投資行動への影響に対する意識〔Q28:単数回答〕

〔図 8-3〕

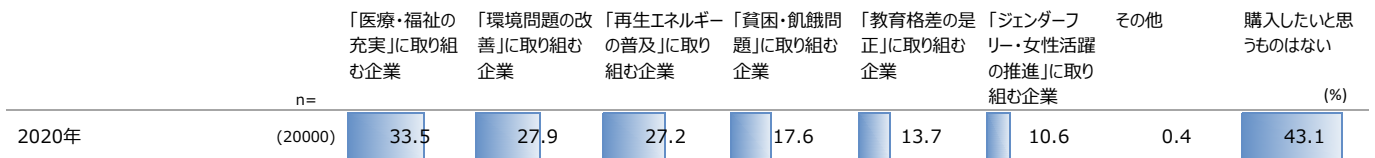


8. 投資意識に関する状況

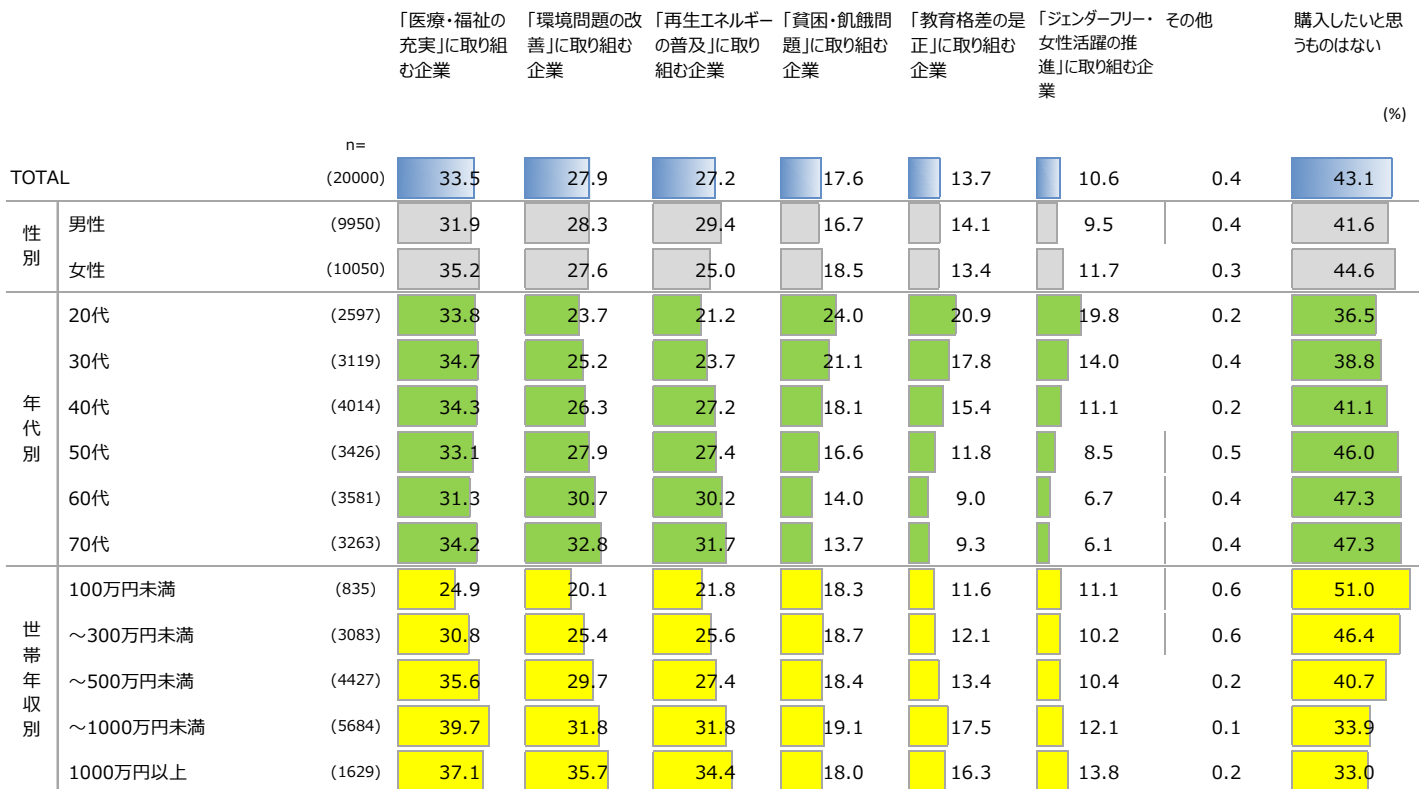
(2) ESG・SDGs関連への投資意向〔Q29：重複回答〕

- 「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に対する投資意向をたずねたところ、「医療・福祉の充実」に取り組む企業が33.5%で最も高く、次いで「環境問題の改善」(27.9%)、「再生エネルギーの普及」(27.2%)、「貧困・飢餓問題」(17.6%)が続く。〔図8-4〕
- 年代別では、若年層ほど「貧困・飢餓問題」「教育格差の是正」「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」が高く、高齢層ほど「環境問題の改善」「再生エネルギーの普及」が高い。〔図8-5〕
- 投信現在保有層では、どの項目も他層より高い。投信保有未経験層では、金融資産保有経験層は、金融資産保有未経験層と比べて「医療・福祉の充実」「環境問題の改善」「再生エネルギーの普及」が高い。〔図8-6〕

〔図 8-4〕



〔図 8-5〕



8. 投資意識に関する状況

(2) ESG・SDGs関連への投資意向〔Q29：重複回答〕

〔図 8-6〕

			「医療・福祉の 充実」に取り組 む企業	「環境問題の改 善」に取り組む 企業	「再生エネルギー の普及」に取り組 む企業	「貧困・飢餓問 題」に取り組む 企業	「教育格差の是 正」に取り組む 企業	「ジェンダーフ リー・女性活躍 の推進」に取り組 む企業	その他	購入したいと思 うものはない	
			(%)								
TOTAL			n= (20000)	33.5	27.9	27.2	17.6	13.7	10.6	0.4	43.1
保有状況別 投資信託	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(4675)	44.5	42.2	41.0	20.0	18.7	14.0	0.2	24.5
		保有経験層 (現在非保有)	(1951)	41.0	37.1	35.1	18.2	15.0	10.6	0.3	33.4
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(3101)	33.3	29.6	29.9	17.2	13.9	9.9	0.5	43.0
		金融資産 保有経験無	(10273)	27.2	19.2	18.6	16.6	11.2	9.3	0.4	53.5
現在保有 種類別 投資信託	株式投資信託保有層		(3350)	46.2	43.9	41.6	21.3	19.8	14.5	0.2	21.5
	その他投資信託保有層		(887)	46.1	43.2	45.0	18.9	19.6	14.3	0.3	22.5

末尾添付資料：調査票



添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q1 あなたはこれまでに「現金・預貯金（円）以外の金融資産」を保有したことがありますか。

※ 「現金・預貯金（円）以外の金融資産」・・・外貨預金、株式、債券（国債・公社債など）、投資信託、FX、ETF、リートなど。土地や不動産、保険は除きます。

- 1 保有したことがある
- 2 保有したことはない

<Q2聴取対象：金融資産保有経験者(Q1=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q2 あなたはこれまでに投資信託を保有したことがありますか。

※ 「投資信託」とは、複数の投資家から出資されたお金を一つの資金としてまとめ、ファンドマネージャーなどの資金運用の専門家が、株式や債券、リートなどに投資し、その成果（利益）を投資家に還元する金融商品のことを指します。

- 1 現在保有している
- 2 以前保有していたが、現在は保有していない
- 3 今まで保有したことがない

<Q3聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q3 あなたは投資信託をどの口座で保有していますか？

- 1 特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座
- 2 NISA
- 3 つみたてNISA
- 4 企業型DC（企業型確定拠出年金）
- 5 iDeCo（個人型確定拠出年金）
- 6 その他
- 7 わからない・忘れた

添付資料：調査票

<Q4聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q4 現在あなたが保有している投資信託の本数は、全部で何本ですか。

※ 同じ商品でも、コースや型・為替ヘッジの有無などで複数保有している場合は、それぞれを1本としてお答えください。

- 1 1～2本
- 2 3～5本
- 3 6～10本
- 4 11本以上
- 5 わからない・答えたくない

<Q5聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q5 あなたが直近で、新しく投資信託を購入した時期を教えてください。

※ 既に保有していた投資信託の買い増しではなく、これまで保有していなかった投資信託を新しく購入した時期についてお答えください。

- 1 1年未満
- 2 1年以上～2年未満
- 3 2年以上～5年未満
- 4 5年以上前
- 5 わからない・答えたくない

添付資料：調査票

<Q6聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q6 現在あなたが保有している投資信託の主な投資対象または種類につきましてお答えください。

- 1 国内株式に投資する投資信託
- 2 国内債券に投資する投資信託
- 3 外国株式に投資する投資信託
- 4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託
- 5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託
- 6 外国の不動産投信に投資する投資信託
- 7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託
- 8 E T F
(株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの)
- 9 国内不動産投信〔Jリート〕
(不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの)
- 10 その他
- 11 わからない・答えたくない

添付資料：調査票

<Q7聴取対象：現在保有している投資信託の種類回答者(Q6=1~9のいずれか回答)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じた購入も含めて、お答えください。

Q7. 現在あなたが保有している投資信託の、種類ごとの保有金額と、合計での保有金額を教えてください。

	1 1 0 0 万 円未 満	2 1 0 0 ~ 3 0 0 万 円未 満	3 3 0 0 ~ 5 0 0 万 円未 満	4 5 0 0 ~ 8 0 0 万 円未 満	5 8 0 0 ~ 1 0 0 0 万 円未 満	6 1 0 0 0 万 円以 上	7 わ か ら な い ・ 答 え た く な い
1 国内株式に投資する投資信託 Q6で『1.国内株式に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
2 国内債券に投資する投資信託 Q6で『2.国内債券に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
3 外国株式に投資する投資信託 Q6で『3.外国株式に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
4 外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託 Q6で『4.外国債券（国債、ハイイールド債等）に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
5 国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託 Q6で『5.国内不動産投信（Jリート）に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
6 外国の不動産投信に投資する投資信託 Q6で『6.外国の不動産投信に投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
7 株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託 Q6で『7.株式、債券など、いくつかの資産に分散して投資する投資信託』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
8 E T F （株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『8.E T F（株価指数などに連動する投資信託で日本の証券取引所に上場しているもの）』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
9 国内不動産投信（Jリート） （不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの） Q6で『9.国内不動産投信（Jリート）（不動産に投資する投資信託で、日本の証券取引所に上場しているもの）』 どれかを選んだ方のみ	→ ●	●	●	●	●	●	●
10 総合計（保有している投資信託の金額の合計）	→ ●	●	●	●	●	●	●

添付資料：調査票

<Q8聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q8 投資信託に興味・関心を持ったきっかけや、購入したきっかけとしてあてはまるものを全てお答えください。

- 1 証券会社、銀行などの金融機関の人に勧められて
- 2 証券会社、銀行などの金融機関から送られてきたダイレクトメール（資料や案内状）を見たり、金融機関からの電話案内を聞いて
- 3 講演会やセミナーなどで、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 4 投資信託の商品広告などを見て
- 5 投資信託に関する本を読んで
- 6 新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て
- 7 インターネットで投資信託について見たり調べたりして
- 8 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報を通じて
- 9 家族や友人などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて
- 10 少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）が始まったので
- 11 確定拠出年金で投資信託を選択したことで興味を持った
- 12 確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので、他の口座でも購入した
※ 確定拠出年金と同じ金融機関の他の投資用口座も含む
- 13 景気や市場（相場）の状況を見て
- 14 経済的に余裕ができたので
- 15 「老後2000万円」に関する各種報道を受けて
- 16 その他

添付資料：調査票

<Q9聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q9 どのような目的で投資信託を購入しましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 結婚資金
- 2 高額商品の購入資金
- 3 レジャー資金
- 4 老後の生活資金
- 5 住宅資金
- 6 事業用資金
- 7 子供又は孫のための教育などの資金
- 8 子供や孫に十分な資産を残したいため
- 9 資産のリスク分散
- 10 金融・経済・投資の勉強のため
- 11 金銭的に余裕のある生活をするため
- 12 不測の事態（病気、失業、自然災害など）への備え
- 13 その他（具体的に ）
- 14 特に目的はないが資金を増やしたいため

添付資料：調査票

<Q10聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q10 あなたは、投資信託を購入した際にどのような点を重視しましたか。また今後、投資信託を購入する場合に重視する点はどれでしょうか。
それぞれ重視度の高い項目を、最大で3つまでお答えください。

	1 投資信託を購入した際に重視した点	2 今後、投資信託を購入する場合に重視したい点
1 過去の運用実績	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 値下がりの不安が少ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 値上がりへの期待	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 換金のしやすさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 分配頻度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 過去の分配金額	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 手数料や運用管理費用（信託報酬）の水準	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 純資産額の大きさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 少額から投資できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 評価会社による評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 商品内容のわかりやすさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 社会性が高い企業が投資先である（ESG投資など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 その他の商品コンセプト（投資対象、投資テーマ、運用方針など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 その他	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15 わからない・特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

添付資料：調査票

<Q11聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q11 あなたが投資信託商品を購入する時に参考にしてている情報を全てお答えください。

- 1 販売用資料（商品内容のパンフレット）
- 2 目論見書（投資信託説明書）・運用報告書
- 3 投資信託を販売している会社（証券会社、銀行など）のホームページ
- 4 投資信託を運用している会社（アセットマネジメント）のホームページ
- 5 新聞
- 6 投資信託の評価機関（モーニングスターなど）
- 7 投資に関する情報サイト（Yahoo!ファイナンスなど）
- 8 SNS(Facebook, Twitter, Instagram等)からの情報
- 9 その他のインターネットの情報サイト（ファイナンシャルプランナーや個人投資家のブログなど）
- 10 雑誌
- 11 投資信託や資産運用に関する本
- 12 テレビ番組
- 13 投資や資産形成に関するセミナーなど
- 14 金融機関（証券会社、銀行など）の担当者の話
- 15 親族や知人、友人の話
- 16 その他
- 17 特になし

添付資料：調査票

Q12. 次にあげる投資信託の特徴の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 MRFは投資信託商品である
- 2 国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある
- 3 価格の変動があり、その他に外国に投資するものには為替リスクがある
- 4 リスクとリターンは表裏一体の関係にある（高いリターンを得ようとするれば、高いリスクを伴う）
- 5 過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない
- 6 元本の保証はない
- 7 銀行など、証券会社以外の金融機関でも購入できる
- 8 投資信託は、信託銀行で分別管理されている
※ 分別管理とは、信託銀行が、自行と顧客の資産を分けて保管・管理することです
- 9 投資信託は、運用会社が運用している
- 10 販売手数料とは別に運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 11 投資信託の評価を行う会社がある
- 12 基準価額は新聞や投資信託協会のホームページでも見ることができる
- 13 NISA（少額投資非課税制度）やDC（確定拠出年金）で投資信託が購入できる
- 14 この中で知っているものはない

<Q13聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q13 次にあげる投資信託の「分配金」の特徴について、知っているものを全てお答えください。

- 1 一般的に分配金額は、預金の利率のようにあらかじめ決まっているものではなく、運用成績によって変動する
- 2 分配金は投資信託の決算ごとに支払われる
- 3 投資信託の運用成績が良くないときには、分配金額が下がったり、支払われない場合がある
- 4 分配金として元本の一部が払い戻されることもある
- 5 分配金が支払われた額だけ、基準価額（投資信託の値段）が下がる
- 6 この中で知っているものはない

添付資料：調査票

<Q14聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q14 投資信託を売却したり、あるいは償還によって得たお金は、何に使いましたか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 すぐに株式、債券など、投資信託以外の金融商品を購入した
- 2 すぐに他の投資信託を購入した
- 3 次に金融商品を購入する機会を伺う為（待つ為）、預貯金・MRFなどにまわした
- 4 生活資金として引き出した
- 5 まとまった支出にあてた ※生活資金にあてた場合を除く
- 6 その他
- 7 売却したことはない、償還によってお金を得たことはない

添付資料：調査票

<Q15聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q15. あなたは、他の金融商品と比較した場合、どのような面で投資信託が優れていると考えますか。あてはまるものを全てお答えください。

また、そのうち特に魅力を感じている点を1つあげてください。

※ 「他の金融商品」とは、投資信託を除いた株式、債券、FXなどを指します。預貯金や不動産は含みません。

	1 他の金融商品と比べて投資信託が優れている点	2 その中で特に魅力を感じている点
1 少額でも分散投資ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
2 少額でも投資の面白味がある	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
3 専門知識や時間がなくても投資ができる（専門家に銘柄選定や運用をお任せできる）	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
4 種類が豊富で目的に応じたものが選べる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
5 比較的高い利回りが期待できる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
6 積立投資ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
7 分配金が自動的に再投資される商品がある	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
8 定期的に分配金が受け取れる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
9 購入後の運用に関する情報が多い（運用報告書などが充実している）	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
10 購入手続きが簡単である	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
11 外国への投資が手軽にできる	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
12 手数料が比較的安い	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
13 その他 <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
14 わからない・特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

添付資料：調査票

<Q16聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q16 では、他の金融商品と比較した場合、投資信託で不満を感じるのどのような点ですか。あてはまるものを全てお答えください。

そのうち特に不満を感じている点を1つあげてください。

	1 他の金融商品と比べて投資信託に不満を感じる点	2 その中で特に不満を感じている点
1 仕組みや運用手法がわかりにくい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 専門知識がないと商品を選びにくい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 リターン（収益）が低い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 株式に比べて面白さに欠ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 公社債に比べてリスクが高い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 購入後の運用に関する情報が少ない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 手続きがわずらわしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 手数料が比較的高い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 種類が多く選択に迷う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 クローズド期間（換金・解約できない期間）がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 元本保証がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 その他 <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 わからない・特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

添付資料：調査票

- 世帯ではなく、あなた個人でお持ちの資産についてお答えください。
- 財形貯蓄や確定拠出年金を通じての購入も含めて、お答えください。

Q17. 投資信託は、「運用会社」が商品の設定・運用を行っています。多くの場合、証券会社や銀行などは販売会社として、運用会社から委託を受けて販売を行っています。
投資信託を購入する場合、あなたは「運用会社」のどのような点を重視しますか。

- ※ 運用会社が直接販売を行っている場合もあります。
- ※ 今までに投資信託を購入したことが無い方は、想定でお答えください。

- 1 知名度が高い
- 2 資本力が大きい
- 3 運用実績・成績が高い
- 4 運用体制が充実している
- 5 商品開発力がある
- 6 ホームページや資料など情報提供が充実している
- 7 提供している情報がわかりやすい
- 8 販売会社を通さずに、直接購入できる
- 9 アフターサービスが充実している
- 10 販売会社（証券会社や銀行）などのグループ企業である
- 11 販売会社の系列ではなく、独立系企業である
- 12 外資系企業である
- 13 倫理観が高い
- 14 顧客対応が公平である
- 15 その他
- 16 わからない・特になし

<Q18聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q18. 現在あなたは、投資信託の積立投資を利用していますか。（「つみたてNISA」や「確定拠出年金」を含みます。）

- 1 利用している
- 2 利用していない

添付資料：調査票

Q19. 投資信託の積立投資プランについて、知っている内容はどのようなことですか。

- 1 少額から利用できること
- 2 自動引き落としが利用でき、そのつど申し込む必要がないこと
- 3 ドル・コスト平均法の効果が得られること
- 4 長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること
- 5 つみたてNISAや確定拠出年金等の税制優遇制度の中でも活用できること
- 6 その他に知っている内容
- 7 積立投資プランがあることを知らない

<Q20聴取対象：投資信託現在保有者(Q2=1)>

Q20. 現在あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）を保有していますか。

- 1 保有している
- 2 保有していない
- 3 わからない・答えたくない

Q21. あなたは、毎月分配型の投資信託（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）に魅力を感じますか。

- 1 魅力を感じる
- 2 やや魅力を感じる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり魅力を感じない
- 5 魅力を感じない

添付資料：調査票

<Q22聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じる層(Q21=1~2)>

Q22. 毎月分配型の投資信託に魅力を感じる理由はなんですか。

- 1 毎月利益を確定したいので
- 2 分配金を受け取ることで安心できるので
- 3 元本の一部払戻しの分配金であっても、年金収入を補完する上で活用できると思うので
- 4 毎月分配型投資信託の他に魅力的な商品がなかった
- 5 その他

<Q23聴取対象：毎月分配型投資信託に魅力を感じていない層(Q21=3~5)>

Q23. 毎月分配型の投資信託に魅力を感じない理由はなんですか。

- 1 分配金は必要ではないので
- 2 長期投資に合わないので
- 3 複利効果が得られないので
- 4 分配金額が変動する場合があるので
- 5 分配金が少ないので
- 6 分配金は元本の一部が払い戻される場合があるので
- 7 分配金の額だけ基準価額が下がるので
- 8 その他

添付資料：調査票

<Q24聴取対象：投資信託保有経験者(Q2=1~2)>

Q24. あなたは、現在または過去に保有していた投資信託の「トータルリターン」を把握していますか。

※ 「トータルリターン」とは、投資信託の投資期間全体の損益（分配金込み、買付手数料等差し引き後）をいいます。

- 1 把握している
- 2 把握していない

Q25. 次にあげる投資信託のコストに関する項目の中で、あなたが知っているものを全てお答えください。

- 1 投資信託を購入するときに、購入時手数料がかかる
- 2 購入時手数料が、かからない投資信託がある（ノーロードファンド）
- 3 購入時手数料は証券会社や銀行などの販売会社に支払われる
- 4 同じ投資信託でも販売会社によって購入時手数料が異なる場合がある
- 5 投資信託の保有中、運用管理費用（信託報酬）がかかる
- 6 運用管理費用（信託報酬）は投資信託財産から日々差し引かれる
- 7 解約時に信託財産留保額がかかる投資信託がある
- 8 信託財産留保額は換金に必要な事務手数料を賄うという意味で徴収され、信託財産に留保される
- 9 信託財産留保額は販売会社や運用会社などが受け取る手数料ではない
- 10 色々なコストがあり、内容がよくわからない／この中で知っているものはない

添付資料：調査票

<Q26聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q26. あなたが投資信託を購入したことがない理由は何ですか。あてはまるものを全てお答えください。

- 1 投資信託の存在を知らなかったので
- 2 投資の知識がないので
- 3 投資信託の仕組みがよくわからないので
- 4 元本保証がないので
- 5 損をしそうで怖いので
- 6 まとまった資金がないので
- 7 手数料など費用が高いので
- 8 商品の種類が多く自分では選択できないので
- 9 購入するのに手間がかかるので
- 10 投資信託を買うよりも自分で株などを運用した方がいいから
- 11 なんとなく機会がなかったため
- 12 そもそも興味がないので
- 13 その他

添付資料：調査票

<Q27聴取対象：投資信託保有未経験者 (Q2=3,Q1=2)>

Q27. あなたが、投資信託の購入を検討するきっかけとなりそうな項目を、全てお答えください。

- 1 身近な人（家族・友人など）に勧められたら
- 2 金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえたら
- 3 初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら
- 4 金融や投資を勉強して理解できたら
- 5 貯蓄が一定額に達したら
- 6 手取り収入が増えたら
- 7 退職金・相続などでの臨時収入があったら
- 8 低リスクの投資信託商品が充実してきたら
- 9 手数料の低い投資信託商品が充実してきたら
- 10 経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら
- 11 税制上の優遇措置が、より拡充してきたら
- 12 職場で確定拠出年金や職場つみたてNISA等の利用環境が整備されたら
- 13 その他

添付資料：調査票

<Q28聴取対象：金融商品保有経験者(Q1=1)>

Q28. 「投資においては、販売会社等から交付される書類に記載されているあらゆる情報が自身の判断・選択に関わってくる」ことについて、投資を行う際に、あなたはどの程度意識していますか。

- 1 常に意識している
- 2 時々意識している
- 3 あまり意識することはない
- 4 全く意識することはない

Q29. 次のような「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に投資したいと思いませんか。購入したいと思うものをいくつかもお答えください。

- 1 「貧困・飢餓問題」に取り組む企業
- 2 「医療・福祉の充実」に取り組む企業
- 3 「教育格差の是正」に取り組む企業
- 4 「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」に取り組む企業
- 5 「環境問題の改善」に取り組む企業
- 6 「再生エネルギーの普及」に取り組む企業
- 7 その他
- 8 購入したいと思うものはない

添付資料：調査票

Q30 あなたの性別を教えてください。

1 男性

2 女性

Q31 あなたの年齢をお答えください。

1 歳

Q32 あなたの職業をお知らせください。

1 会社員・非営利団体職員

2 会社役員・経営者

3 派遣・契約社員

4 公務員

5 自由業（医師・弁護士など）

6 農林漁業

7 自営業（農林漁業を除く）

8 パート・アルバイト・フリーター

9 専業主婦/主夫

10 大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生

11 無職、定年退職

12 その他の職業

添付資料：調査票

Q33 あなたの世帯年収と、個人年収をお知らせください。

	1 あなたの 世帯年収	2 あなたの 個人年収
	↓	↓
1 100万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 100～300万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 300～500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 500～800万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 800～1000万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 1000～1500万円未満	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 1500万円以上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 わからない・答えたくない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q34 あなたの世帯で保有されている「金融資産」(※)の概算の評価額としてあてはまるものをお選びください。

※ 「金融資産」・・・預貯金、社債や国債などの債券・株、投資信託、生命保険のうち満期金のあるもの、貸出金など。
土地や不動産は除きます。

<input type="radio"/> 1 500万円未満
<input type="radio"/> 2 500万円～1000万円未満
<input type="radio"/> 3 1000万円～3000万円未満
<input type="radio"/> 4 3000万円～5000万円未満
<input type="radio"/> 5 5000万円～1億円未満
<input type="radio"/> 6 1億円～5億円未満
<input type="radio"/> 7 5億円以上
<input type="radio"/> 8 わからない・答えたくない